

Title	モンゴル語日本語ことわざ比較研究
Author(s)	塩谷, 茂樹
Citation	大阪外国語大学学術研究双書. 2004, 33, p. 1-152
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/80076
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

2004

大阪外国語大学
学術研究双書

33

モンゴル語日本語
ことわざ比較研究

塩谷茂樹 ◆

モンゴル語日本語ことわざ比較研究

塩 谷 茂 樹 著

2004

Publications of Osaka University of Foreign Studies, No.33 2004

A Comparative Study of Mongolian and Japanese Proverbs

Монгол-Япон хэлний зүйр цэцэн үгийн харьцуулсан судалгаа

Shigeki SHIOTANI

前書き

モンゴルでは、ことわざは古来、口から口へと語り継がれ、広く人々の間に流布している。その証拠に、モンゴル人は日常生活の中で実に多くのことわざを自由自在に用いている。これは、モンゴル語を学習する人なら誰でも実感することであり、私たち日本人がすでにあまりことわざを用いなくなったことと好対照をなしている。

しかしながら、モンゴルでことわざが口頭で非常に発達している反面、ことわざを文字で記録し、書物として記したものが意外に少ないことに驚かされる。これは、ひとえにことわざが口承文芸に属すると言われるゆえんであろう。事実、モンゴルには、単なる“ことわざ採録集”なるものがいくつか存在するが、実際にどういう場面でいかに用いるべきかという“ことわざ用法辞典”はごく限られたものしかない。また、別の見方をすれば、日本では、ことわざがすでに口承性を失いつつあり、何らかの形で記録にとどめる必要に早急に迫られているが、モンゴルでは、まだそのような危機的な状況には至っていないという事実の裏返しなのかもしれない。いずれにせよ、この口承性からくる難しさこそが、日本において、モンゴル語のことわざ研究を非常に立ちおくらせてきた最大の原因であると言える。

とは言え、モンゴル語のことわざは、まさにモンゴル民族の“知恵の結晶”であり、それと同時に、モンゴル口承文芸の様々なジャンルの中でも、“最小の表現形式”で“最大の意味内容”を表す芸術作品でもある。私たちは、この芸術作品を通して、モンゴル民族の知恵を、学問の様々な研究分野から探求することができるわけであり、この点で、ことわざ

はまさに名実ともに“名言宝蔵”と言えるであろう。

本書『モンゴル語日本語ことわざ比較研究』は、こうした状況を考慮し、モンゴル語の代表的な 100 のことわざを取り上げ、それに説明を加えるだけでなく、モンゴル人インフォーマントによるモンゴル語の例文を付けることにより、どんな文脈で用いられるかを明示するとともに、合わせて日本語のことわざとの比較を行うことを主な目的とするものである。

本書の構成は次のようである。

- 1) 見出し語…モンゴル語のことわざを、キリル文字表記によるモンゴル語のアルファベット順に配列した。

日本語訳…見出し語に対する日本語訳。一部のものを除いて、できるだけ元の意味をそこねないように直訳の形をとった。

<語句>…見出し語の中の注意すべき語句の説明。

<同義>…見出し語と同義のモンゴル語のことわざ。

- 2) <説明>…見出し語のことわざに対する解釈。

- 3) <類義>…見出し語のことわざに対応する日本語のことわざで、明確な意味の共通点が見られるもの。

<参照>…見出し語のことわざに対応する日本語のことわざで、多少の意味のずれがあるが、共通点の見られるもの。

- 4) <例文>…見出し語のことわざを用いたモンゴル語の例文。

日本語訳…例文の日本語による全訳。

語句 …例文の中の注意すべき語句の説明。

また、見出し語に挙げたモンゴル語のことわざに対応する

日本語のことわざは、意味が完全に対応することだけを目指したと言うよりも、むしろモンゴル語のことわざの意味を理解するのを助けるために当てたものである。

さらに、本書は、モンゴル語のことわざ全般に関心をもつ日本人に向けて書かれたものであることは言うまでもないが、逆に日本語のことわざに関心をもつ、日本語を解するモンゴルの人たちにも利用できるように、対応する日本語のことわざには、すべてふりがなと説明を付け、特に便宜をはかった。

本書で取り扱った 100 のモンゴル語のことわざの選出は、モンゴル語外国人教師と話し合いの上決定したものであり、モンゴル語の 100 の例文に関しては、その 88 を大阪外国語大学、前モンゴル語外国人教師 E. プレブジャブ氏に、残りの 12 を現モンゴル語外国人教師 O. サンボードルジ氏にお願いし作成していただいた。二人の協力に対し、ここに記して心から感謝の意を表したい。また、今回手書き原稿をコンピューターに入力し協力してくれた大阪外国語大学、大学院博士後期課程の中嶋善輝君にも、合わせて感謝の意を表したい。

モンゴル語のことわざいわく、

Хуучин үгэнд худалгүй 故事に嘘なし

Худгийн усанд загасгүй 井戸水に魚なし

古来言い伝えられてきたことわざには、嘘偽りはなく、どれも真理を表しているという意味である。

2003 年 11 月 20 日

大阪外国語大学、アジア I 講座モンゴル語

塩谷茂樹 (Shigeki SHIOTANI)

目次

モンゴル語日本語ことわざ比較研究	…	1
------------------	---	---

(見出し語のことわざのアルファベット順配列)

A	…	2	M	…	39	X	…	88
Б	…	10	Н	…	47	Ц	…	109
Г	…	17	О	…	51	Ч	…	111
Д	…	20	Ө	…	56	Ш	…	113
Ё	…	26	С	…	62	Э	…	115
Ж	…	27	Т	…	72	Ю	…	121
З	…	28	У	…	78			
И	…	33	У	…	85			

補遺 1: モンゴル語と日本語のことわざの比較	…	123
-------------------------	---	-----

A. 両者の間で、明確な意味の共通点が見られるもの	…	125
B. 両者の間で、多少の意味のずれがあるが、共通点 の見られるもの	…	139
C. 日本語に対応することわざがないもの	…	140

補遺 2: 日本語のことわざ索引	…	141
------------------	---	-----

参考文献

モンゴル語日本語ことわざ比較研究

1. Аавын сургаал алт

Ээжийн сургаал эрдэм

父の教えは金

母の教えは学

<説明>

“父の教えは金、母の教えは学”というたとえから、一般に<親の子供に対する教えに間違いはないので、よく聞くべきである>とか<両親の教えに勝るものはない>という意を示す。

<考察>

特に内蒙古では、эрдэм《学》ではなく、эрдэнэ《宝》と言うことが多いようである。いずれにせよ、ээжの語頭のэと韻を踏んでいることに注意されたい。

<類義>「親の意見と茄子の花は千に一つも仇はない」

(親の意見には全く無駄や間違いはなく、すべて子供のためになる、ということ)

<例文>

Миний өвөө надад “Аав ээжийнхээ үгийг сайн сонсвол зохино.

Аавын сургаал алт

Ээжийн сургаал эрдэм гэдэг юм. Аав ээж чинь чамд ерөөсөө буруу зүйл заахгүй” гэж үргэлж л хэлдэгсэн.

私のおじいさんは私に「両親の言うことはよく聞くべきだ。<父の教えは金、母の教えは学>というものだ。おまえの両親はおまえに決して間違ったことは教えたりしない」といつも言っていたものだ。

- -вал⁴ зохих ~すべきである

2. Авах хүн бөхийх

Өгөх хүн гэдийх

もらう人は前かがむ

あげる人は反りかえる

<説明>

“もらう人は前かがむ、あげる人は反りかえる”というたとえから、一般に<人はとかく何かしてもらうときは、相手の機嫌を取ろうと下手に出るが、逆に何かしてあげるときは、相手より上手に出て横柄になるものだ>という意を示す。

これは、人間の身勝手さを風刺して述べた表現である。

<類義>「借^かり^とる^と時^との^と地^じ蔵^{ぞう}顔^が、返^かす^と時^との^と閻^{えん}魔^ま顔^が」

(借^かり^とる^と時^とは相^あ手^ての^と機^き嫌^{げん}を取^とろ^ろう^とにこ^こや^やか^かな^な顔^がを^をす^する^が、返^かす^と時^とに^にな^なると不^ふ機^き嫌^{げん}な^な顔^がに^にな^なる^る、と^とい^いう^うこ^こと)

<例文>

Даян : Чи надаас нөгөө гуйж байсан номоо хурдхан шиг
ирж авахгүй юм уу ?

Сүрэн: Би тун зав муутай байна. Хэрэв чи завтай бол
манайд авчраад өгчихвөл тун их баярлах болно
шүү.

Даян : *Авах хүн бөхийж*

Өгөх хүн гэдийдэг гэдэг биз дээ. Гийм учраас
чи өөрөө ирж аваарай. Харин хэзээ ирэх вэ ?

Сүрэн: Хагас сайн өдрийн 15 цагт очъё.

ダヤン: 君は例の僕に頼んでいた本を早目に取りに来ないの
かい ?

スレン：僕は非常に忙しいんだ。もし君が暇なら、うちに持ってきてくれたら、とても有難いんだが。

ダヤン：＜もらう人は前かがみ、あげる人は反りかえる＞というだろ。だから、君が自分で取りに来なさい。でも、いつ来るんだい。

スレン：土曜日の15時に行くよ。

3. Ажил хийж хүн болдог

Ар давж хүлэг болдог

仕事をして人となる

山を越えて馬となる

<語句>

・ ар … уулын ар 《山の北斜面》の意。

<説明>

“仕事をして人となる、山を越えて馬となる”というたとえから、一般に＜馬は山を越えてこそ立派な駿馬となるように、人は仕事をしてこそ一人前となるものだ＞という意を示す。

<類義> 「^{しごと}仕事^{ひと}が^{ひと}人を^{おと}鍛える」

(仕事によって人は成長するものだ、ということ)

<例文>

Намайг анх ажилд ороход үйлдвэрийн дарга маань：

“Ажил хийж хүн болдог

Ар давж хүлэг болдог. Хүн ажил хөдөлмөрийн хүчээр амьдралаа залгуулдаг учраас хэцүү хүнд гэж шантарч ерөөсөө болохгүй. Хүнийг хөдөлмөр бий болгосон гэх нь ч бий” хэмээн сургамжилж байсан нь саяхан мэт тодхон санагдаж

байна.

私が初めて就職したとき、うちの工場長が「＜仕事をして人となる、山を越えて馬となる＞。人は労働のおかげで生計を立てていくものだから、つらいとか苦しいとか言って、あきらめては決していけない。労働が人間を作り出したと言うこともある」と教え諭していたことが、つい最近のようにはつきりと思い出される。

- ・ амьдралаа залгуулах 生計を立てていく、暮らしていく
- ・ сургамжлах 教訓となす、教え諭す

4. Аз хүү байвал

Ёоз хүүгээр цохидог

運さえあれば

最悪の駒でも勝てる

<語句>

- ・ аз хүү, ёоз хүү の хүү は、強調助詞で、例えば、энэхүү 《まさにこの》、тэрхүү 《まさにその》と同一のものと考えられる。
- ・ ёоз … 《モンゴルのダーロー遊びにおける最悪の駒》
- ・ цохих … 《勝つ》 (= хожих)

<説明>

“運さえあれば最悪の駒でも勝てる”というたとえから、一般に＜人は運に恵まれてさえいれば、どんな最悪の場面でも勝利をものにできるものである＞という意を示す。

<類義> 「運うんに兵法へいほう」

(運に恵まれている者には、どんなことをしても勝てないものだ、ということ)

<例文>

Даалуу тоглож суусан Даян өөрийнх нь ээлж болоход

“Az хүү байвал

Ёоз хүүгээр цохидог юм” гэж хэлэнгээ, доороос мод сөхөж олныг инээлгэв.

ダーロー遊びをしていたダヤンが自分の番になったとき、「<運さえあれば最悪の駒でも勝てる>」と言いながら、下から駒をめくって、みんなを笑わせた。

- мод (遊びの) 駒、札

5. Алды нь аваад дэлэм дээр нь

Атгы нь аваад чимх дээр нь

ひと尋^{ひら}を取って半尋^{ひら}のところで

ひと握りを取ってひとつまみのところで

<語句>

- алд … 《両手を広げた長さ、尋^{ひら}》
- дэлэм … 《両手を広げた半分の長さ、半尋^{ひら}》

<説明>

“物事の大半をやり終えていながら、残りのわずかなところでやめてしまう”というたとえから、一般に<物事を途中で投げ出し、中途半端に終わらせる>という意を示す。

<類義>「画竜点睛^{かりょうてんせい}を欠く」

(物事の最後の仕上げを欠く、ということ)

<例文>

Баатарыг эмч “Шүд чинь сайнгүй байна. Эмчилгээ хийлгэх шаардлагатай” гэсний дагуу нийтдээ долоон

удаа эмнэлэгт очиж үзүүлэх байснаасаа зургаан удаа очоод, “Дараагийн удаад ажил ихтэй тул ирж амжихгүй байх” гэхэд нь эмч түүнд :

“Алды нь аваад дэлэм дээр нь

Атгы нь аваад чимх дээр нь гэгчээр. Уул нь долоон удаа ирвэл танд л сайн даа” хэмээжээ.

バータルに医者が「歯は良くありません。治療を受ける必要があります」と言ったのに伴い、全部で7回病院に行ってみてもらはずだったうち、6回行って「次回は仕事がたくさんあるので、来れないだろう」と言うと、医者は彼に「<ひと尋を取って半尋のところで、ひと握りを取ってひとつまみのところで>という具合だ。もともとは7回来ればあなたには良いのにね」と言った。

・ (-ын²) дагуу ~に従って、~に伴い

6. Амьд явбал

Алтан аяганаас ус ууна

生きて行けば

金のお椀から水を飲む

<説明>

“生きて行けば金のお椀から水を飲む”というたとえから、一般に<人は健康で長生きすれば、いずれ幸運にめぐり合うものだ>という意を示す。

<類義>「命長ければ蓬萊を見る」

(人は長生きすれば幸運にめぐり合うこともある、ということ)

<例文>

Манай эмээг “Хүүхдүүдийнхээ айл өрх тусгаарлаж, ажил албатай болохыг үзэж, буянаа эдэлж явна даа” гэхэд нь хөрш айлын эмгэн :

“Амьд явбал

Алтан аяганаас ус ууна гэдэг чинь ёстой тэр дээ” хэмээв.

うちのおばあちゃんが「自分の子供たちが所帯を持って独立し、仕事に就くのを見て、徳を受けて生きているのね(私は)」と言うと、隣の家のおばあさんは、「<生きて行けば金のお椀から水を飲む>というのはまさにそのことね」と言った。

- ・ айл өрх тусгаарлах 所帯を持って独立する
- ・ буянаа эдлэх 徳を受ける

7. Ах нь сургадаг

Дүү нь сонсдог

兄は教える

弟は聞く

<説明>

“兄は教える、弟は聞く”というたとえから、一般に<人は目上の人言うことを聞いて、敬わなければならない>という意を示す。

<類義>「雁に長少の列あり」

(雁は年齢の順に並んで飛ぶと言われるように、人間も目上の人を敬い、礼儀をつくさなければならない、ということ)

<例文>

Өвгөн : Бат гуайн хүүхдүүд ах захаа алдсан хүүхдүүд юм.

Эмгэн : Яаж байна ?

Өвгөн : Би сая замдаа ажил албаны далимаар Бат гуайнхаар орсон юм. Хүүхдүүд нь хоорондоо хэрэлдээд бие биеийнхээ үгийг сонсож байгаа юм алга.

Эмгэн : Хээ, тэр чинь юу гэсэн үг вэ ?

Өвгөн : Хэн нь ах, хэн нь дүү юм бүү мэд. Яахаараа хүүхдүүдээ буруу хүмүүжүүлдэг айл юм бэ. Уг нь ч

Ах нь сургадаг

Дүү нь сонсдог гэдэг ардын үг байдаг билээ. Даанч тийм айл биш юм.

おじいさん: バトさんの子供たちはしつけのなっていない子供たちだ。

おばあさん: どうしたの?

おじいさん: おれはさっき途中で仕事のついでにバトさんの家に行ったんだ。彼の子供たちはお互いにけんかして、それぞれの言うことを聞いてなんかいない。

おばあさん: へえー、それはどういうことなの?

おじいさん: 誰が兄で、誰が弟なのかわからないんだ。なんて子供たちを誤ってしつけている家庭なんだ。そもそも<兄は教える、弟は聞く>という故事があるものだよ。とてもそんな家庭じゃないんだ。

• ах захаа алдах 礼儀をわきまえない、しつけのなっていない

8. Барын сүүл болохоор

Батганын толгой бол

虎の尾となるよりも

蠅の頭となれ

<説明>

“虎の尾となるよりも蠅の頭となれ”というたとえから、一般に＜大きな集団で人の下について使われるよりも、小さな集団でもその長となる方がよい＞という意を示す。

ここでは、бар《虎》によって＜大きな集団＞を、батгана《蠅》によって＜小さな集団＞を代表させていることに注意されたい。

<類義> 「^{けいこう}鶏口となるも^{ぎゅうご}牛後となる勿れ」

(大きな集団の中で従うよりも、小さな集団の中でトップで活躍する方がよい、ということ)

<比較> <大きな集団> <小さな集団>

モンゴル語： бар《虎》 / батгана《蠅》

日本語： 「牛」 / 「鶏」

<例文>

Даргадаа загнуулсан Сүрэн :

“Би хэзээ болтол түүнд загнуулж дарлуулах юм бэ ?

Барын сүүл болохоор

Батганын толгой бол ! гэдэг биз дээ. Энэ компаниас түргэхэн шиг гарч, толгой дааж амьдаръя” хэмээн бодсоноо эхнэртээ хэлсэнд, эхнэр нь :

“Тэр чинь дээр дээ” гэв.

自分の上司に叱られたスレンは「おれはいつまで彼に叱られ押えつけられるんだ？<虎の尾となるよりも蠅の頭とな

れ〉というだろ。この会社を早めにやめて独立して暮らそう」と思ったことを自分の妻に話したところ、彼の妻は「その方がいいよ」と言った。

- ・ толгой даах 独立する、自立する

9. Бирдийн нүдэнд

Далай харам

餓鬼の目に

海も惜しい

<語句>

- ・ бирд … 《(宗) 餓鬼、転じて 貪欲な人を指す》
- ・ харам … 《けちな、しみったれな》が原義だが、ここでは《惜しい》(= харамламаар, хайран)の意。

<説明>

“常にのどの渇きに苦しむ餓鬼は、いくら飲んでも尽きることのない海の水さえ他の者に飲ませるのを惜しがる”の意から、一般に<非常にけちな人>をたとえて言う。

<類義>「客^{きやく}ん坊^{ぼう}の柿^{かき}の種^{たね}」

(けちな人は、何の役にも立たない柿の種さえ捨てるのを惜しがるの意より、ひどいけちん坊をののしった言葉)

<例文>

Манай хөршийн авгай : “Сүрэнгийн банди нь зөндөө олон тоглоомтой мөртлөө миний муу хүүд ганц ч тоглоомоо өгч тоглуулсангүй шүү. Ёстой нөгөө

Бирдийн нүдэнд

Далай харам гэдэг л тэр байх даа” хэмээн учиргүй бухимдав.

うちの隣の奥さんが「スレンの息子は随分たくさんおもちゃを持っているのに、うちの大事な子にたった一つのおもちやも貸して遊ばせてくれなかったよ。まさに例の＜餓鬼の目に海も惜しい＞というのはそのことね」とひどくいらだった。

- ・ банди (口語で)息子、男の子
- ・ учиргүй ひどく、ものすごく、非常に
- ・ бухимдах いらだつ、いらいらする

10. Бодоод бодоод

Бодын шийр доров

考えても考えても

大型家畜のすねは 4 本

<語句>

- ・ бод … 《大型家畜》 (= бод мал)

<説明>

“いくら考えに考えても、家畜の足は 4 本であって、それ以上になることはない”というたとえから、一般に＜いくらどんなに考えても、良い正しい解決法を見つけられず、どうすることもできない＞という意を示す。

<類義>「^{しあん}思案^な投げ^{くび}首」

(何度考えてもわからず、結局は首をかしげて考え込む、ということ)

「^{ばんさく}万策^き尽きる」

(もうこれ以上の方法を見い出すことができず、どうすることもできない状態を言う)

<例文>

Даян : Би чамаар нэг таавар таалгая. Тахиа, туулай
дөчин ес байж гэнэ. Түүний хөл нь яг зуу гэнэ.

Чухам хэдэн тахиа, хэдэн туулай байсан бэ ?

Сүрэн : ... *Бодоод бодоод*

Бодын шийр дөрөв гэгчийн үлгэрээр, үнэнээ хэлэхэд, учрыг нь сайн олохгүй л байна шүү.

Даян : Дөчин найман тахиа, ганц туулайн хөл нь яг зуу.

Сүрэн : Өө тийм байна шүү дээ.

ダヤン : 僕の出すなぞなぞをひとつ当ててごらん。ニワトリとウサギが49羽いたそう。その足はちょうど100本だそう。一体何羽のニワトリと何羽のウサギがいたのか？

スレン : ... <考えても考えても大型家畜のすねは4本>という例えのように、本当の事を言うと、わけがよくわからないよ。

ダヤン : 48羽のニワトリと、一羽のウサギの足はちょうど100本。

スレン : ああ、そうだよね。

11. **Борооны өмнө шороо**

Боохойн өмнө хэрээ

雨の前に土ぼこりが

狼の前に鳥が

< 語句 >

- шороо … салхи 《風》とも言う。
- өмнө … түрүү ~ түрүүндとも言う。
- боохой … чоно 《狼》に対する禁忌語。

<説明>

“雨の前に土ぼこりが舞い、狼の前に鳥がやってくる”というたとえから、一般に<物事が起こる前には、その前兆が見られるものだ>という意を示す。

<類義>「山雨来らんと欲して風楼に満つ」

(山の方から雨が降ってくるときは、まず風が高楼に吹きつけてくるの意から、何か物事が起こる前には、その兆しがある、というたとえ)

<例文>

Эмгэн гэртээ урьдын адил ойр зуурын аахар шаахар ажлаа хийж байтал, салхи дэгдэн гэрийн хаалгыг нь хэд хүчтэй савахад, гадаа гарч үзвэл тэнгэр муухайрч, удахгүй бороо орох байдалтайг мэдээд ач хүүдээ :

“*Борооны өмнө шороо*

Боохойн өмнө хэрээ гэдэг юм. Тэнгэр муухайрсан байна. Хүү минь аргалаа хучиж бороонд норохоос хамгаал. Тэгэхгүй бол бид гал алдаж зутарна” гэв.

おばあさんは家でいつものように身の回りの雑用をしていると、風が起こり家の扉を数回強くたたきつけたので、外に出て見ると、天気が悪くなり、間もなく雨が降りそうなことを知って、孫息子に、「<雨の前に土ぼこりが、狼の前に鳥が>というものだ。天気が悪くなった。おまえさんはアルガル(乾いた牛糞)をおおって雨にぬれないようにしなさい。そうしないと私たちは火が起こせなくて困るわよ」と言った。

・ аахар шаахар ちよつとした、あれこれの (= аар саар, жижиг сажиг)

- гал алдах 火種を失う
- зутрах (~がなくて)困る、大変になる (= хэцүүдэх)

12. Буруу өссөн хүүхэд

Бухын хүзүүнээс хэцүү

曲がって育った子供は
種牛の首よりもやっかい

<説明>

“種牛の首は大きくて固く、頑として動こうとしないものだが、ひねくれて育った子供は、それよりも頑固でやっかいだ”というたとえから、一般に<しつけの悪い、わがままに育った子供は、強情で手に負えないものだ>という意を示す。

<類義> 「^{ねんごう}年劫の^{うさぎ}兎」

(長い年月を経て悪賢くなった兎の意から、一筋縄では行かない者のたとえ)

<例文>

Анги удирдсан багш нь :

“ Хүмүүжил муутай дэггүй хүүхдийг чухам юутай зүйрлэн хэлдэг билээ” гэхэд нь сурагчид :

“*Буруу өссөн хүүхэд*

Бухын хүзүүнээс хэцүү” хэмээн нэгэн дуугаар зэрэг хариуллаа.

担任の先生は、「しつけの悪いわがままな子供を一体何にたとえて言うのでしたか」と言うと、生徒たちは、「曲がって育った子供は種牛の首よりもやっかい」と声をそろえて同時に答えた。

13. Бэлгийн морины шүд үздэггүй

贈り物の馬の歯を見るものではない

<説明>

“馬は歯を見れば年齢がわかるので、人からもらった馬の歯を見て、その年齢を調べるような失礼なまねはすべきではない”というたとえから、一般に<人からもらったものを嫌ったり、けちをつけてはいけない>という意を示す。

なお、このことわざは、ヨーロッパ全域を中心に、世界中に広く見られるものとして有名である。

<類義>「貰^くい物^{もの}に苦^く情^{じやう}」

(人から貰った物に苦情を言うような失礼なまねはすべきではない、ということ)

<例文>

Охин нь ээждээ : “Эгчийн гадаадаас авчирч өгсөн үзэгний хошуу нь дэндүү урт бөгөөд том юм” гэхчлэн шүүмжлэхэд, ээж нь : “Хүний бэлгэнд өгсөн юмыг ийм тийм хэмээн хэлэх нь сайнгүй шүү.

Бэлгийн морины шүд үздэггүй гэсэн хуучны зүйр цэцэн үг байдгийг би чамд өмнө нь нэг бус удаа хэлсэн дээ” гэв.

娘が自分の母親に「お姉さんが外国から買ってきてくれたペン先はあまりに長くて大きすぎる」などと批判すると、母親は「人がプレゼントにくれたものをあれこれと言うのは良くないよ。<贈り物の馬の歯を見るものではない>という昔からのことわざがあることを、お母さんはあなたに以前何度も言ったよ」と言った。

14. Ганган хүний үхэл

Хавар намар хоёрт

おしゃれな人の死は

春と秋に

<説明>

モンゴルの気候は、一般に非常に厳しく、夏は酷暑、冬は厳寒、しかもその狭間に当たる春と秋は、一日の寒暖差が激しく、最も病気にかかりやすい季節とされる。この時期、ついつい注意を怠り、おしゃれをして薄着で出かけると、体を冷やし肺炎など重い病気にかかることがよくある。このことから、一般に<一年のうち、特に春と秋は、体を冷やさないうよう暖かくして出かけ、とりわけ健康に留意すべきである>という意を示す。

<参照>「春^{はる}寒^{さむ}いと秋^{あき}ひだるいはこらえられぬ」

(春先の余寒と食欲の秋のひもじさは、一段と身にしみる、ということ)

<例文>

Эмээ нь ач охиндоо :

“Хаврын тэнгэр хартай шүү. Хавар намрын улиралд хувцсаа сайн тохируулж байхгүй бол цаг агаарын гэнэтийн өөрчлөлтөөс болж элдэв төрлийн өвчин тусахдаа тун амархан байдаг. Тийм учраас л

Ганган хүний үхэл

Хавар намар хоёрт гэдэг зүйр цэцэн үг үүссэн биз” хэмээн сургаал айлдав.

おばあさんが自分の孫娘に「春の天気は気まぐれだよ。春と秋の季節に服をきちんと合わせて着ていないと、天候の急

變のせいで様々な病気にとてもかかりやすいものです。そのために、〈おしゃれな人の死は春と秋に〉ということわざが生まれたんでしょ」と教訓を述べた。

- ・ хартай 怪しい、気まぐれな

15. Гараа сайн бол

Бариа сайн

スタートがよければ

ゴールはよい

<説明>

“スタートがよければゴールはよい”というたとえから、一般に〈物事は出だしを誤るとうまく行かないものなので、何事を行うにも最初が大事である〉という意を示す。

<類義> 「始めよければ終わりよし」、「始めが大事」

(物事は始めが順調にいけば最後までうまく行くものである、物事を始めるときは最初が大切である、ということ)

<例文>

Дорж их сургуулиа төгсөнгүүтээ нэгэн эрдэм шинжилгээний хүрээлэнд ажилд ороод хэдэн сар болжээ. Гэтэл энэ хугацаанд хийх ажлынхаа учрыг мэдэхгүй, үр дүнгүй дэмий л өдөр хоногийг өнгөрөөж байв. Энэ байдлыг нь ажиглан мэдсэн нэгэн туршлагатай ахмад ажилтан түүнтэй уулзаад :

“Чи үр дүнгүй ажиллаж байх шиг байна. Үнэхээр сайн эрдэм шинжилгээний ажилтан больё гэж бодож байвал эртнээс сайн хичээх хэрэгтэй.

Гараа сайн бол

Бариа сайн гэдэг үг бий” гэх зэргээр зөвлөжээ.

ドルジは大学を卒業するとすぐに、ある学術研究所に就職して数ヶ月が経った。ところが、この間自分のする仕事のわけもわからず、成果もなくむだに日々を過ごしていた。彼のこの様子に注目したあるベテランの先輩研究員が彼と会って、「おまえは成果も上げずに仕事をしているようだ。本当に立派な学術研究員になろうと考えているなら、最初からしっかり努力しなければならない。＜スタートがよければゴールはよい＞という言葉がある」などと忠告した。

16. Гуйна гэдэг гутамшиг

Гуйлгана гэдэг гайхамшиг

頼むのは不名誉なこと

頼まれるのは光栄なこと

<語句>

- ・ гутамшиг … 《恥ずべきこと、不名誉》(< гута- 《悲しむ》)
- ・ гайхамшиг … 《驚くべきこと、光栄》(< гайха- 《驚く》)

<説明>

“人から頼まれるのは光栄なことだが、いざ自分から頼むとなると、気が引けてしまうものだ” というたとえから、一般に<人にはなかなか物事を頼みづらいものだ>という意を示す。

このことわざは、モンゴル人は古来、人に物を頼むことは恥ずべきことだと見る習慣から生まれたものと考えられる。

<類義> 「頼むと頼まれては犬も木へ登る」

(ぜひ頼むと相手から頼まれると、無理な頼みでも引き受けてやろうという気持ちになるものだ、ということ)

「^{ぶし}の^{たの}頼みは^{いちど}一度に^{かぎ}限る」

(武士はめったなことでは人に頼みごとはしないものだ、ということ)

<例文>

Долгор Нарангаас монгол-япон хэлний толийг хэдэнтээ гуйгаад ер өгөхгүй байсанд нь тун их гоморхож,

“Гуйна гэдэг гутамшиг

Гуйлгана гэдэг гайхамшиг гэдэг ч ёстой үнэн юм даа” гэж үг хаяв.

ドルゴルはナランに蒙日辞典を何回かお願いして全く貸してくれなかったので、ひどく不機嫌になり、「<頼むのは不名誉なこと、頼まれるのは光栄なこと>というのはまさに本当だね」と言い放った。

- ・ гоморхох 不機嫌になる、むっとする
- ・ үг хаях 言い放つ、吐き捨てるように言う

17. Даварсаар даварсаар

Дагвын орон дээр

度を越えに越えて

ダグワのベッドの上に

<説明>

“度を越えに越えて、ついには主人ダグワのベッドの上に座る”というたとえから、一般に<人は一度親切にすると、ますます調子に乗るものだ>という意を示す。

<類義>「^ふぶえば^た抱かりよう」

(一度親切にすると、つけ上がって、それ以上のことを求め

る、ということ)

<例文>

Эхнэр : Баатарын бага банди нь эхний үед миний хүүтэй манай хашааны өмнөх талбайд ирж нэг хэсэг тоглодог байсан юм. Дараа нь манай хашаан дотор тоглодог байснаа одоо бүр гэрт минь ирж тоглох болжээ.

Нөхөр : *Даварсаар даварсаар*
Дагвын орон дээр гэдэг л болох нь дээ.

Эхнэр : Нээрээ тийм гээч.

妻 : パータルの下の男の子は、最初の頃はうちの息子とうちの塀の前の広場に来てしばらく遊んでいたんです。その後、うちの塀の中で遊んでいたのが、今ではすっかりうちの家に来て遊ぶようになったの。

夫 : <度を越えに越えてダグワのベッドの上に>というようだな。

妻 : 本当にそうですよ。

18. Далай усаар ханадаггүй

Мэргэд номоор ханадаггүй

海は水で満ちることはない

賢者は本に飽きることはない

<説明>

“海が水で満ち足りることはないように、賢者は書物に飽き足りることはないものだ”というたとえから、一般に<学ぶことに、これでよいという限界はない、学問にきりなし>という意を示す。

<類義>「^{まな}びて^{いと}わざるは^ちなり、^{おし}えて^うまざるは^{じん}なり」(自ら学んで飽くことを知らないのは智者だからであり、人に教えて退屈しないのは仁者だからである、という教え)

<例文>

Энхбат : Баатархүүгийн том охин ямар ажил алба хашиж байгаа вэ ?

Мөнхбат : Тэр чинь их сургуулиа төгсөөд, дараа нь аспирантурт суралцаж, өнгөрсөн хавар эрдэмтэн болсон. Саяхан дам яриа сонсвол, докторын диссертация бичиж байгаа гэсэн байхаа.

Энхбат : Өө тийм үү, Мөн ч олон жил сурч байна даа.

Мөнхбат : Ёстой ёстой. Эрдэм номын мөр хөөдөг хүнд суралцах хугацаа нь дуусна гэж ер байдаггүйтэй адилхан, сураад ханана гэж бас байдаггүй бололтой.

Энхбат : Ийм учраас л

Далай усаар ханадаггүй

Мэргэд номоор ханадаггүй гэдэг зүйр цэцэн үг гарсан биз.

エンフバト: パーナルフーの上の娘はどんな仕事についているんだい?

ムンフバト: 彼女は大学を卒業して、その後大学院で勉強し、去年春学者になった。つい最近うわさによると、博士論文を書いているそうだよ。

エンフバト: ああ、そうかい。本当に長年勉強しているんだね。

ムンフバト：まさにその通りだ。学問の道をめざす人に勉強する期限が終わるということが全くないように、学んで満足するということもまたないようだ。

エンフバト：それだからこそ、〈海は水で満ちることはない、賢者は本に飽きることはない〉ということわざが生まれたんだろ。

19. Дуугүй хүний
Доодох нойтон

無口な人の
下半身は濡れている

<語句>

・ доодох … 《下半身、陰部》

<説明>

もともとは性に関する表現で、“日頃、性のことなど全く口に出さない者ほど、実は好色で危険なものである”、というたとえから、一般に〈普段、無口でおとなしい人ほど、いざとなったら何をしてくすかわからない最も危険な人物である〉という意を示す。

<類義> 「黙^{がま}り虫壁^{むしかべ}を通^{とお}す」

(何も言わない小さな虫が、いつの間にか壁を食い破って穴をあけるといふ意から、普段おとなしくしている者に限って、油断していると、とてつもないことをする、というたとえ)

<例文>

Ангийнхаа эрэгтэй хүүхдүүдийн дотор хамгийн даруу томоотой гэгддэг Балдан нэг ширээнд суудаг охиндоо хайр дурлалын захидал бичсэн гэснийг найз нөхөд нь сонсоод :

“*Дуугүй хүний*

Доодох нойтон гэдэг яасан голы нь олсон
үнэн үг вэ” хэмээн түүнийг цаашлуулах болжээ.

Класの男の子たちの間で、最もおとなしくてまじめだと言われているバルダンが、同じ机に座っている女の子にラブレターを書いたということを彼の友人たちが聞いて、「＜無口な人の下半身は濡れている＞というのは何と的を射た言葉だろう」と彼をからかうようになった。

- ГОЛЫ НЬ ОЛОХ 的を射る、要点をとらえる

20. Дуутай тэнгэр хургүй

Цуутай хүүхэн хуримгүй

雷鳴の空に雨なし

有名な娘に結婚なし

<語句>

関連表現として次のものを参照されたい。

- ТЭНГЭР ДУУГАРАХ 《雷が鳴る》
- ДУУТАЙ БОРОО 《雷雨》
- ДУУТАЙ ЦУУТАЙ (連語) 《有名な》

<説明>

“有名な娘に結婚はないように、雷鳴の空に雨はない”というたとえから、一般に＜内陸性気候のモンゴルでは、雷鳴を伴う場合、雨は一時的に激しく降るが、すぐに通り過ぎて止んでしまうものである＞という意を示す。

<参照>「東^{ひがし}雷^{かみなり}雨^{あめ}降^ふらず」

(東の方で雷鳴が聞こえるときは、音ばかりで雨が降ることはない、ということ)

<例文>

Хүчтэй аянга цалилсан, сүртэй дуу шуутай ширүүн бороо орвол тийм ч удаан үргэлжилдэггүй гэж үздэг уламжлалтай. Ийм учраас л

Дуутай тэнгэр хургүй

Цуутай хүүхэн хуримгүй хэмээн хэлдэг болжээ.

強い雷が光った、ものすごい音のした激しい雨が降ると、それほど長くは続かないものだと思える伝統がある。それだからこそ、<雷鳴の空に雨なし、有名な娘に結婚なし>というようになった。

21. Дээд уруулдаа хүргэмгүй

Дэргэдэх хүндээ өгөмгүй

上の唇に触れさせたくない

傍の人にあげたくない

<説明>

“上唇にくっつくのももったいないくらい、傍にいる人にあげるのも惜しいくらい”というたとえから、一般に食べ物に関して、非常に珍しくておいしいときに、このことわざを頻繁に用いる。

<類義>「頬が落ちる」、「ほっぺたが落ちる」

(食べ物がいかにおいしいことのとえ)

<例文>

Эзэгтэй : Таныг ирнэ гээд гараа гаргаж хэдэн бууз чимхсэн юм. Амт нь ямар байна даа ?

Зочин : *Дээд уруулдаа хүргэмгүй*

Дэргэдэх хүндээ өгөмгүй сайхан амттай

болжээ.

Эзэгтэй : Их баярлалаа. Нэрэлхэлгүй сайн идээрэй.

女主人 : あなたが来ると思って、腕を振るって、いくつかボーズを作りました。味はいかがですか？

客 : <上の唇に触れさせたくない、傍の人にあげたくない>おいしい味です。

女主人 : どうもありがとう。遠慮しないでしっかり食べて下さい。

・ гараа гаргах 技量を示す、腕前を見せる

22. Ёс ёмбогор

Төр төмбөгөр

慣習は突出した

法は隆起した

<説明>

“慣習も法も社会から突出し、隆起したものである”というたとえから、一般に<世の中の慣習や法は、極めて大切であり、必ず守らなければならない>という意を示す。

<類義> 「所の法に矢は立たぬ」

(その土地の風俗習慣や取り決めは、たとえ道理に合わないものでも、従わなければならない、ということ)

<例文>

Далай гуайн наян насны найранд хүрэлцэн ирсэн аймгийн засаг дарга Дэмбэрэл насны эрэмбээр гээд нэлээн доогуурхан суув. Тэгэхэд нь найрын ахлагч :

“Ёс ёмбогор

Төр төмбөгөр гэдэг юм. Та дээшээ суу !”

ХЭМЭЭН ГЭРИЙН ХОЙМОРТ ЗАЙ ТАВЬЖ ӨГӨВ.

グライさんの80歳の祝宴に来られたアイマグの行政長デ
ンベレルは、年齢順にと思って、かなり下座に座った。する
と、宴会の幹事が、「＜慣習は突出した、法は隆起した＞と
いうものだ。どうぞ奥へお座り下さい」と言って、家の上座
に場所をあけてあげた。

23. **Жилдээ сайн явсан нь шинэлэхэд мэдэгдэнэ**

Залуудаа сайн явсан нь наслахад мэдэгдэнэ

一年間うまく行ったかは新年を迎える時わかる
若い時うまく行ったかは年を取る時わかる

<説明>

モンゴルでは、цагаан сар(旧正月)のときに、兄弟たちが
集い、新年のあいさつを交わし、旧年がどんな年であったか
報告することによって、その人の一年の暮らしぶりが知れる
ものである。また、若いときどれだけ懸命に努力し励んだか
によって、その人の老いてからの暮らしぶりがうかがい知れ
るというものである。このことから、一般に＜人が一年や一
生を有意義に過ごせるかどうかは、あくまでもその間におけ
る本人の努力次第で決まるものであり、すべては最後になっ
て判明するものである＞という意を示す。

<類義>「夏歌う者は冬泣く」

(元気なときに怠けて遊んでいる者は、後で生活に困って泣
くことになる、というたとえから、働けるときに働かないと、
後でその報いを受けることになる、ということ)

<例文>

Ноднингийн цагаан сараар Даян өвөөгийн дөө

золгохоор очиход, өвөө нь :

“*Жилдээ сайн явсан нь шинэлэхэд мэдэгдэнэ*

Залуудаа сайн явсан нь наслахад мэдэгдэнэ
хэмээдэг нь тун учиртай үг шүү. Иймээс хүүхдүүд та нар энэ нэгэн жилдээ хийж бүтээсэн зүйлээ товчхон шиг танилцуул даа” гэжээ.

去年の旧正月に、ダヤンは自分のおじいさんの家に新年のあいさつに行くと、おじいさんは、「＜一年間うまく行ったかは新年を迎えるときわかる、若いときうまく行ったかは年を取るときわかる＞というのはとても意味ある言葉だぞ。だから、子供ら、おまえたちはこの一年間で自分のやり遂げたことをごく簡単に紹介しておくれよ」と言った。

24. **Залгиж идвэл хор болно**

Зажилж идвэл хоол болно

飲み込んで食べれば毒になる

かんで食べれば食事になる

＜説明＞

“飲み込んで食べれば毒になる、かんで食べれば食事になる”というたとえから、一般にくよくかんで食べると十分栄養になる食事も、飲み込んで食べると、かえって健康には害となる＞という意を示す。

＜類義＞「腹も身の内」

(胃腸も体の一部なので、無茶な大食いをすれば病気になる、ということ)

＜例文＞

Жаргал эмээгийн дээ зочилж ирээд, таваглаж

тавьсан тарваганы махнаас том томоор огтолж, юманд хөөгдсөн юм шиг түргэн түргэн идэхийг эмээ нь хараад :

“ Махан хоол идэхдээ их сайн зажилж идэж байхгүй бол ходоод гэдэс чинь эртхэн муудаж мэднэ шүү, миний хүү. Яаралгүй аль болох тайван хооллож сур !

Залгиж идвэл хор болно

Зажилж идвэл хоол болно гэдэг чинь ёстой үнэн үг дээ” хэмээн сургаалын хэдэн үг хэлэв.

ジャルガルは、自分のおばあちゃんの家にご客としてやってきて、皿に盛ったタルバガの肉を大きくぶつ切りにして、何かに追われたように大急ぎで食べるのを彼のおばあちゃんが見て、「肉料理を食べるときはよくかんで食べないと胃腸を若いうちにこわすかもしれないよ、おまえさん。急がないでできるだけゆっくり食事をするようにしなさい。＜飲み込んで食べれば毒になる、かんで食べれば食事になる＞というのはまさに本当のことだよ」と教訓の言葉をいくつか言った。

25. Зуу дахин сонссоноос

Нэг удаа үзсэн нь дээр

百回聞くよりも

一回見た方がよい

<同義>

Чих худалч 耳は嘘つき

Нүд үнэлч 目は正直

<説明>

“百回聞くよりも一回見た方がよい”というたとえから、一般に<人から聞いて耳にしたことは当てにならないもので、実際に自分の目で見た方が確かだ>という意を示す。

<類義>「百聞は^{ひゃくぶん}一見^{いつげん}に^し如かず」

(物事は人から何度も聞くよりも、一度でも自分の目で見て確かめた方がよくわかる、ということ)

<例文>

Хүү : Би саяхан Өвөрхангай аймгийн Хужирт сумаар ороод ирлээ.

Аав : Орхоны цутгаланг үзээ биз дээ ?

Хүү : Үзэлгүй яахав. Тун сайхан газар байна лээ.

Аав : Зуныхаа амралтаар ийнхүү юм үзэж, үр бүтээлтэй өнгөрүүлсэн чинь ёстой сайн байна.

Хүү : *Зуу дахин сонссоноос*

Нэг удаа үзсэн нь дээр гэж та дандаа хэлдэг биз дээ.

息子 : 僕は最近ウブルハンガイ・アイマグ(県)のホジルト・ソム(村)に行ってきたよ。

父親 : オルホンの滝を見たんだろ。

息子 : もちろん見たよ。とてもすばらしい所だったよ。

父親 : 夏休みにこのように何か見て、有意義に過ごしたのは本当にいいことだね。

息子 : <百回聞くよりも一回見た方がよい>とお父さんはいつも言っているでしょ。

26. **Зүйргүй үг байдаггүй**
Зүйдэлгүй дээл байдаггүй

比喩のない言葉はない
継ぎ目のないデールはない

<説明>

デール(モンゴル服)には必ず継ぎ目があるように、言葉には必ずたとえやことわざの類がもり込まれているものだ、という意を示す。

ただし、<例文>は2行目の意で用いられていることに注意されたい。

<類義>「譬に漏れたる事はなし」

(物事のたとえやことわざの類には、人生の眞実がもれなく表されている、ということ)

「譬と豆腐汁は捨てる所がない」

(昔からのたとえやことわざの類は、人生の眞理や生活の知恵を言い表していて、豆腐汁と同様、全く無駄がない、ということ)

<例文>

Буян : Даянд энэ дөрвөн метр даалимбаар дээл хийвэл
арай л хүрэхгүй юм шиг санагдаад байна.

Саран: Зүйргүй үг байдаггүй

Зүйдэлгүй дээл байдаггүй гэдэг биз дээ. Бага
зэрэг зүйдэлтэй ч байсан яадаг юм.

Буян : Нээрээ тэгье байз.

ポヤン: ダヤンにこの4メートルの木綿布でデールを作ったら、少しだけ足りないような気がしているんです。

サラン: <比喩のない言葉はない、継ぎ目のないデールはない>というでしょ。少し継ぎ目があっても構わないわよ。

ポヤン：本当ね、そうするわ。

27. Зүсээ мэдэхгүй толио муулах

Зүрхээ мэдэхгүй ханиа муулах

自分の顔を知らずに鏡の悪口を言う

自分の心を知らずに友の悪口を言う

<語句>

- зүс … 《顔、容貌》
- зүрх … 《心、気持ち》

<説明>

“自分の顔や心の醜さを棚に上げ、鏡や友の悪口を言う”
というたとえから、一般に＜自分に非があるにもかかわらず、それを棚に上げて他のせいにする＞という意を示す。

<類義>「堂が歪んで経が読めぬ」

(自分の怠慢や落ち度を棚に上げ、失敗の責任を他になすりつける、ということ)

<例文>

Наран：Манай нөхөр гэр орны ажилд ерөөсөө оролцдоггүй. Зав л гарвал зурагт гөлийгөөд суучихдаг ёстой хүний үнэргүй амьтан. Явал дээр вэ？

Оюун：Чамд сайн найзын хувьд нэг зүйлийг шууд хэлмээр байна.

Зүсээ мэдэхгүй толио муулах

Зүрхээ мэдэхгүй ханиа муулах хэрэггүй байдгийг чи эрхбиш мэднэ биз дээ хө.

Наран：Мэдэх нь нэг муу юм мэднээ. Муу хүнийг тэгээд тэнгэрт гартал нь шал худлаа магтах

болж байна уу ?

ナラン：うちの主人は家事には全く関わらないの。暇さえあればテレビばかりずっと見て座っている本当に人間味のないやつだ。どうすればいい？

オヨン：あなたに良き友人として一言じかに言いたい。＜自分の顔を知らずに鏡の悪口を言う、自分の心を知らずに友の悪口を言う＞必要がないことを、あなたは当然知っているはずでしょ。

ナラン：知っているには、一応知っているんですが。悪い人をそれで全くのうそでほめちぎるといふことなの？

- ・ тэнгэрт гартал магтах (“天にのぼるほどほめる”が原義)ほめちぎる、べたぼめする

28. Идсэн эрүү хувхайрна

Идүүлсэн бут ургана

食べたあごは干からびる

食べられた低木は生育する

<語句>

- ・ идэх …《食べる》；ここでは、үгээр идэх《言葉でばかりにする、人を食う》という意を暗に含む。

<説明>

“家畜は草を食べ、やがては死して白骨となり、家畜に食べられた草は再び生育するのが自然の摂理である”というのが、このことわざの原義であるが、実際の会話では、これより転じて＜人の悪口を言って侮辱した者は、それが罪となり、いずれそのうち、その報いを受け苦しむはめになるが、悪口

を言われ侮辱された方は、何の罪もないため、従来通り全く平気である>という意を示す。

<類義>「人を呪わば穴二つ」

(他人をのろって害すれば、自分もまたその報いで害を受ける、ということ)

<例文>

Саран : Уурлаж уцаарласнаасаа болоод, хүний амнаас гарамгүй муухай хараалын үгээр хүнийг доромжилж байхдаа яадаг юм !

Наран : Чам шиг юманд ийм л үг хэлэхээс, өөр сайн үг ерөөсөө олдохгүй байна.

Саран : Тийм дээрээ тулах юм бол :

Идсэн эрүү хувхайрна

Идүүлсэн бут ургана гэдэг үг байдгийг санаж яваарай.

サラン : おこっぺいらいらしたせいで、人の口から出ないような汚い罵声語で人を侮辱しているのはどうしてなの？

ナラン : あなたのような者にはこんな言葉を言う以外に、他によい言葉は全く見つからないわ。

サラン : そこまで言うなら、<食べたあごは干からびる、食べられた低木は生育する>という言葉があることを覚えておきなさい。

・ санаж явах 覚えておく、心に留めておく

29. Идэхдээ эр бар Хийхдээ хашин бух

食べるときは雄の虎
するときはのろい種牛

<説明>

“食べるときは雄の虎の如く、するときはのろい種牛の如し”というたとえから、一般に<食事のときは威勢よく食べるくせに、いざ仕事となると、のろのろして一向にはかどらない>という意を示す。

<類義>「^あ怠^はけ者^の食^い急^ぎ」

(仕事をだらだらやっている怠け者は、食事のときだけ急に威勢がよくなり、急いで食べるものだ、ということ)

<例文>

Эмээ маань биднийг бага балчир байхад :

“Хүүхдүүд минь ямар нэгэн ажлыг хийж гүйцэтгэхдээ лазагнан залхуурч, бусдын гарыг харж хойш сууж ерөөсөө болохгүй шүү. Ууж идэхдээ гаргууд сайн атлаа ажил төрөлд тааруухан хүнийг

Идэхдээ эр бар

Хийхдээ хашин бух гэж хэлдэг юм” хэмээн сургамжилдаг байж билээ.

うちのおばあちゃんは、私たちが小さい頃、「おまえたちは何かあることをやって成し遂げるとき、さぼって怠けては、他人を当てにし、ぐずぐずしては決していけないよ。飲み食いするのは、ずば抜けて上手なのに、仕事が苦手な人を<食べるときは雄の虎、するときはのろい種牛>というものだ」と教え諭していたものだったよ。

- ・ гар харах 当てにする、頼る
- ・ хойш суух なまける、ぐずぐずする

30. **Их нь ичиж**

Бага нь уйлах

大人が恥じて

子供が泣く

<説明>

“大人が子供に正しく接しないと、子供が泣いて、大人は恥ずかしい思いをする”というたとえから、一般に<大人は子供に対して、立場をわきまえ節度をもって正しく接するべきである>という意を示す。

これは、一般に子供に接する大人に対して注意をうながす意で用いられる表現である。

<例文>

Манай хөрш айлын Сүрэн бидэнд :

“ Цэцэрлэгийн биеийн тамирын өдөрлөгийн үеэр гүйлтийн тэмцээнд хүүтэйгээ хамт оролцож байгаад, хөл дээр нь санамсаргүй гишгэчихсэн чинь түүний чанга дуугаар уйлсныг яана ! Олон хүний дотор ичээд, нүүр хийх газар олдохгүй байсан шүү. Ёстой нөгөө

Их нь ичиж

Бага нь уйлах гэдэг л боллоо” хэмээн өөрийнхөө ихэд ичиж зовсноо сонин болгон ярив.

うちの隣の家のスレンは、私たちに「幼稚園の運動会のと
き、かけっこ競走に自分の息子と一緒に参加していて、息子
の足を思わず踏んでしまったら、息子が大声で泣いたんです
よ。大勢の人の中で恥ずかしくて、穴があったら入りたかつた
よ。まさに例の<大人が恥じて、子供が泣く>ということ
になった」と自分がひどく恥じて困ったことを話題にして話

した。

- ・ нүүр хийх газар олдохгүй “顔を入れる場所が見つからない” (= нүүр хийх газаргүй болох “顔を入れる場所がなくなる”) 大変恥ずかしい、穴があったら入りたい

31. Их ч барьсан өмхий

Бага ч барьсан өмхий

多くつかんでも悪臭

少なくつかんでも悪臭

<同義>

Чонын ам идсэн ч улаан 狼の口は食べても赤い

Идээгүй ч улаан 食べなくても赤い

~ Идсэн ч чоно 食べても狼

Идээгүй ч чоно 食べなくても狼

<説明>

“多くつかんでも悪臭、少なくつかんでも悪臭”というたとえから、一般に<何かある悪事をしてかしたなら、その大小にかかわらず、同じやったことには違いない>という意を示す。

このことわざは、悪いことをするのに、大小の違いはない、という意で用いられる。

<類義>「毒を食らわば皿まで」

(毒を食べてしまった以上、同じ死ぬなら、その毒のついた皿までなめてしまおうという意から、一度悪事を犯したからには、最後まで悪事を重ねよう、というたとえ)

<例文>

Нэгэн залуу бүтэлгүй залуучуудад уруу татагдан айлын цонхоор орж хулгай хийхийг завджээ. Үүнийг нь

эцэг нь сонсож мэдээд：“Бусад залуучууд урьд нь хулгай хийдэг байсан гэнэ. Чи анх удаагаа хулгай хийхийг оролдсон гэнэ. Үүнд ялгаа юу байна.

Их ч барьсан өмхий

Бага ч барьсан өмхий

гэдэг. Хулгайч л бол хулгайч шүү дээ” гэж ихэд уурлажээ.

一人の若者が不良少年たちにそそのかされ、人の家の窓から入って盗みをしようとした。そのことを彼の父親が聞き知り、「他の若者たちは以前盗みをしていたそうだが、おまえは初めて盗みをしようとしたそうだが、そこに何の違いがあるのか。＜多くつかんでも悪臭、少なくつかんでも悪臭＞というものだ。泥棒は泥棒だぞ」とひどく怒った。

32. Ишиг эврээ ургахаар

Эхийгээ мөргөх

子山羊は角が生えると

母親を角で突く

<説明>

“子山羊は角が生えると、自分の母親まで角で突いて傷つける”というたとえから、一般に<恩を受けた人に対し、危害を加えひどい仕打ちをする>という意を示す。

<類義>「恩^{おん}を仇^{あだ}で返^{かえ}す」

(恩を受けた人に、害を与えるようなひどい仕打ちをすること)

「後足^{あとあし}で砂^{すな}をかける」

(恩を受けた人に、迷惑をかけたり、裏切るような行為をし

たりして去っていくこと)

<例文>

Зааж байсан гарын шавь нь эрдмийн зэрэг хамгаалсныхаа дараа юм л бол багшаа шүүмжлэх болжээ. Энэхүү цуу яриаг сонсонгуутаа багш нь :

“Чамайг хүний мөсөөр ийм базаахгүй хүн гэдгийг чинь ерөөсөө зүүдэлсэн ч үгүй дээ.

Ишиг эврээ ургахаар

Эхийгээ мөргөх гэдэг яасан үнэн үг вэ” хэмээн түүнд шууд хэлсэн ажээ.

教えていたまな弟子が学位を取得してから、しょっちゅう自分の先生を批判するようになった。まさにこのうわさを聞いたとたん、先生は「おまえは人柄がこんなに良くない人間だとは全く夢にも思わなかったよ。＜子山羊は角が生えると母親を角で突く＞というのは何と本当のことか」と彼に直接言ったのだった。

• юм л бол (口語で) しょっちゅう、いつも (= дандаа)

33. Мал гэжээвэл ам тосдоно

Хүн гэжээвэл толгой цустана

家畜を養えば脂を口にする

人間を養えば頭をとられる

<語句>

• толгой цустах … 《頭が血だらけになる》が原義だが、ここでは、《頭をとられる》と意識した。

<説明>

“家畜を養えば脂を口にする、人間を養えば頭をとられ

る”というたとえから、一般に<家畜は一生懸命育てれば、人間にとっていづれ食料となるため、有益であるが、人間はいくら一生懸命育てても、恩を仇で返すような裏切り行為を平気で行うことがあるので、十分注意すべきである>という意を示す。

<類義>「^{おん}恩を知らぬは^{ちくせい}畜生にも劣る」

(人から受けた恩に報いる気持ちのない者は、人間以下である、ということ)

<例文>

Төмөр хажуу айлынхаа Сампилтай уулзаад ийн ярьжээ. — Болдынд гэр оронгүй гээд суугаад байдаг Баярт гэдэг залуу тэднийхээс хулгай хийгээд, сүүлдээ бүр хүүхэдтэй нь хэрэлдэж, толгойгийг нь хага цохиод шоронд орсон гэнэ. Гэтэл Сампил үүнийг сонссоноо :

“Мал тэжээвэл ам тосдоно

Хүн тэжээвэл толгой цустана гэдэг болжээ”

гэжээ.

トゥムルは隣の家サンプルと会って次のように話した。
— ボルドの家にホームレスだと言って住んでいるバヤルトという若者が、彼の家から泥棒して、あげくの果てに彼の子供とけんかし、頭をガツンとたたいて刑務所に入ったそうだ。すると、サンプルはそれを聞いてから、「<家畜を養えば脂を口にする、人間を養えば頭をとられる>ということになった」と言った。

34. **Мал удах тусмаа дасдаг**
Хүн удах тусмаа уйддаг

家畜は時がたつにつれて馴れる
人間は時がたつにつれて飽きる

<説明>

“家畜は時間がたつと自然に馴れ親しむが、人間は逆に飽きてくるものだ”というたとえから、一般に<人間は何事にもすぐに飽きやすいものだ>という意を示す。

<類義>「牛馬三十日 嚙二十日」

(牛や馬は三十日で、自分の女房は二十日で飽きがくる、というたとえから、人間は物事に飽きやすい、ということ)

<例文>

Дорж манай суманд ирж суурьшаад, дөрөв таван жил болж байгаа билээ. Саяхнаас дам яриа сонсвол бас өөр газар луу шилжих санаатай гэнэ.

Мал удах тусмаа дасдаг

Хүн удах тусмаа уйддаг гэдэг. Хүн ер нь хувирч уйдамхай их сонин амьтан юм даа.

ドルジはうちのソムにきて定住してから、4、5年たっているんですよ。最近では、うわさによると、また別の所へ引越すつもりだそうです。<家畜は時がたつにつれて馴れる、人間は時がたつにつれて飽きる>といます。人は一般に移り気で飽きっぽい、とても変わった生き物ですね。

35. Могой алахад

Мод нэмэргүй

蛇を殺すのに

木は役立たない

<説明>

“細長い蛇を細い木の棒でたたいても殺せない”というたとえから、一般に〈ある事柄を行うのに、何の頼りにも力にもならない、またはそういう人〉という意を示す。

〈類義〉「餓鬼に芋殻」

(やせ衰えた餓鬼にへなへなした芋殻を持たせるというたとえから、全く頼りにならない、何の力にもならない、ということ)

〈例文〉

Нарийхан саваа мод барьж, гэрийн дээвэр дээрх цасыг унагах дүр үзүүлэхэд ээж нь охиндоо :

“Наадахаар чинь яаж цас унагаж болохов дээ.

Могой алахад

Мод нэмэргүй гэдэг чинь ёстой энэ дээ” гээд, тармуур авч өгөв.

細い棒を持って、ゲルの屋根の上の雪を落とすふりをする
と、お母さんは自分の娘に「そんなものでどうやって雪を落とせるのよ。〈蛇を殺すのに木は役立たない〉というのはまさにこのことよ」と言って、雪かきを取ってやった。

36. **Муу дээр муу**

Муухай дээр улцан

悪い上に悪い

醜い上に涙目

〈語句〉

・ улцан … 《涙目の》

〈説明〉

“悪い上にさらに悪くなり、醜い上にさらに涙目で醜くな

る”というたとえから、一般に＜悪いことや不幸が次々に重なり、事態がさらに悪化する＞という意を示す。

＜類義＞「泣き面に蜂」、「弱り目に祟り目」

（不幸が重なること、不運の上にさらに不運が重なることのとえ）

「恥の上塗り」

（いったん恥をかいた上に、さらに重ねて恥をかくこと）

＜例文＞

Өглөө ажилд явахынхаа өмнөхөн ээж нь охиндоо :

“ Гэр орноо сайхан цэвэрлээд, гэрийн даалгавраа бүрэн гүйцэд хийгээрэй” гэж захижээ. Өдрийн цайны цагаар охиноо хичээлд нь явуулах зорилготой гэртээ ирсэн чинь охин нь гэрээ ч цэвэрлээгүй, гэрийн даалгавраа ч хийгээгүй, компьютерийн тоглоомонд улайран суусанд, ээж нь :

“ Даанч яав даа, чи ! Гар нүүрээ ч угаагаагүй, үс гээгээ ч самнаагүй байхдаа, ичихгүй байна уу ? Эмэгтэй хүүхэд мөртлөө, аминдаа арчаагүй гэдэг нь.

Муу дээр муу

Муухай дээр улцан гэдэг яасан үнэн үг вэ”

гэхчлэн зөндөө үглэн загнажээ.

朝仕事に出かける直前に、お母さんは自分の娘に「家をきれいにそうじして、宿題をきちんとしなさい」と言いつけた。昼食の時間に娘を授業に行かせる目的で家に帰って来たら、娘は家もそうじしていないし、宿題もしていないで、コンピューターゲームに夢中になっていたの、お母さんは「全く何てことなの、あなたは！手も顔も洗っていないし、髪の毛

もといていないのは、恥ずかしくないの？女の子なのに自分で何もできないなんて。〈悪い上に悪い、醜い上に涙目〉というのは何て本当のことなの」などと随分がみがみ叱った。

- ・ аминдаа арчаагүй 自分で自分のことができない、自立できない

37. **Муу муудаа эрэлхүү**
Муна гадсандаа эрэлхүү

弱者は弱者に強い
槌は杭に強い

<語句>

- ・ эрэлхүү … 《横柄な、高圧的な》 (= дээрэлхүү)

<説明>

“木槌が杭を上から打ちつけるように、弱い者は自分より弱い者を上から押えつけるものだ”というたとえから、一般に〈弱い者は、とかく自分より劣る弱い者に対して高圧的に振舞うものだ〉という意を示す。

このことわざは、弱い者いじめの文脈で用いられることが多い。

<類義> 「蚊の膂たねに鑪ろをかける」

(蚊のすねのように細いものをさらに細くする、というたとえから、もともと弱い者をさらに責め苦しめる、ということ)

「弱よわい者ものを夫つまに取とる」

(弱い者いじめをする、ということ)

<例文>

Хамт тоглож нааддаг найзуудаа юм л бол гоочлоод уйлуулчихдаг хүүхэддээ ээж нь :

“Найз нөхөдтэйгээ ингэж эвгүй харьцаж болдоггүй юм

гэж чамд мөн ч олон удаа хэлэх юм даа.

Муу муудаа эрэлхүү

Муна гадсандаа эрэлхүү гэдэг зүйр цэцэн үг байдгийг санаж явахад илүүдэхгүй шүү” гэж арга нь барагдсан янзтай хэлэв.

いつも一緒に遊んでいる友達を、しょっちゅうからかって泣かせてしまう自分の子供に、お母さんは「友達とこうやって仲悪くつき合っははいけないとおまえに本当に何度も言っているよ。＜弱者は弱者に強い、槌は杭に強い＞ということわざがあることを覚えておくに越したことはないよ」と万策尽きた様子で言った。

38. Муу явахаар

Сайн үхсэн нь дээр

惨めに生きるよりも

立派に死んだ方がよい

<説明>

“惨めに生きるよりも立派に死んだ方がよい”というたとえから、一般に<みっともないひどい生き方をして恥をさらすくらいだったら、むしろいさぎよく立派に死んだ方がましだ>という意を示す。

<類義>「命いのちより名なを惜おぼしむ」

(自分の命より名誉を重んじるという意で、不名誉な恥をかくよりも命を捨てた方がよい、ということ)

<例文>

Хэрэг төвөгт холбогдсны улмаас шорон оронд хэдэнтээ орж, тогтсон ажил алба ч үгүй, төвшин сайхан

гэр орон ч үгүй яваа түүнийг ээж нь өнгөрсөн намар арга нь барагдаж, цөхөрч ядаад :

“*Муу явахаар*

Сайн үхсэн нь дээр” гэхчлэн зөндөө уурлаж загнасан гэнэ.

犯罪にかかわったために、刑務所に何回か入り、定職もなく安定した幸せな家庭もないままでいる彼を、母親は今年の秋、万策尽き絶望し切って、「<惨めに生きるよりも立派に死んだ方がよい>」などと随分怒って叱ったそうだ。

39. Мэсний шарх эдгэрнэ

Үгний шарх эдгэрэхгүй

刃物の傷は治る

言葉の傷は治らない

<説明>

“刃物による傷は時が経てば治るものだが、言葉によって受けた傷は時が経っても治らないものだ”というたとえから、一般に<言葉は刃物よりも鋭く人の心を深く傷つけることがあるので、口は慎むべきである>という意を示す。

<類義> 「寸鉄人を殺す」

(短く鋭い言葉で相手の急所をぐさりと突くこと)

<例文>

Багийн хурал дээр багийн дарга Лувсан үхэрчин Жаргалыг хэл амаар арай хэтэрхий доромжлон шүүмжлэхэд нь малчин өвгөн Бат босч :

“Үг хэлээр хүнийг доромжлох чинь арван хар нүглийн нэгэнд ордог юм.

Мэсний шарх эдгэрнэ

Үгний шарх эдгэрэхгүй гэдгийг санаж явсан чинь дээр дээ” гэхчлэн сургамжийн хэдэн үг хэлжээ.

Баг(部落)の会議でバグ(部落)長ロブサンは、牛飼いのジャルガルを言葉で少し度が過ぎて侮辱し批判すると、牧民の老人バトが立ち上がり、「言葉で人を侮辱するのは、十悪の一つにあたるものだ。＜刃物の傷は治る、言葉の傷は治らない＞ということ覚えておいた方がいいぞ」などと教訓の言葉をいくつか言った。

40. **Нар дагавал даардаггүй**

Ноён дагавал өлсдөггүй

太陽に従えば凍えることなし

領主に従えば飢えることなし

＜説明＞

“日の当たる所にいれば、暖かくて凍えることはないように、支配者に従ってさえいれば、食いはぐれることはない”というたとえから、一般に＜権力のある者には逆らわずに、おとなしく従っている方が得策だ＞という意を示す。

＜参考＞

封建体制が終わりを告げ、政権が人民の手に委ねられた後、特に社会主義体制が確立してからは、このことわざは、次のような別の形で発展を遂げている。

Нараа дагавал даарахгүй

Намаа дагавал гэнэдэхгүй

太陽に従えば凍えることなし

党に従えば間違ふことなし

<類義> 「^{なが}い^{もの}物には^ま巻かれろ」

(権力者には反抗せずに服従していくことが得策だ、ということ)

<例文>

Болд өвгөн хүүгээ сумын даргын жолооч болжээ гэдгийг сонсоод : “ Урьдын цагт айл өвөлжөө, хаваржаагаа нар тусах өвөр газар засвал мал сүрэгт нь нөмөр дулаан, хүн ноёны хиа, туслах болбол ноёнттой хамт яваад, явсан газар бүрдээ хоол ундаар дайлуулж, өлсөж цангадаггүй байсан байх. Бас ноёны хишиг буян ч их байсан юм байх. Хэн мэдэх вэ. Юу боловч,

Нар дагавал даардаггүй

Ноён дагавал өлсдөггүй гэдэг. Тийм юм болжээ”

гэжээ.

ボルドじいさんは、自分の息子がソム長の運転手になったということを知り、「かつて家庭が冬营地、春营地を日の当たる南斜面に作れば、家畜群にとって風よけとなり暖かいし、人が領主の侍従、補佐となれば、領主と同行し、行った所々で食べ物でもてなしてもらい、ひもじい思いはしなかっただろう。また、領主の恩恵もたくさんあったことだろう。わからないが、いずれにせよ、<太陽に従えば凍えることなし、領主に従えば飢えることなし>というものだ。その通りになった」と言った。

41. **Нөхрөө харж биеэ зас**
Сүүдрээ харж бүсээ зас

友を見て自らを直せ

影を見て帯を直せ

<説明>

“自分の影を見て帯のみだれを直すように、自分の友を見て自分自身を直せ”というたとえから、一般に<他人の行為の善悪を見て、自分の行為を反省し改めよ>という意を示す。

<類義>「人の振り見て我が振り直せ」

(他人の行動の善し悪しを見て、自分の行動を改めよ、ということ)

<例文>

Эмээ нь ач охиноо хичээлээсээ харьж ирэнгүүт нь :
“Миний муу охин үс гэзгээ гялалзтал угаагаад, сайхан самнаж хичээлдээ явж бай л даа. Танай ангийн хүүхдүүд чинь хичнээн аятайхан байна даа. Тэднээсээ сайхан үлгэр жишээ авч байвал зохино гэж чамд мөн ч олон удаа хэлэх юм даа.

Нөхрөө харж биеэ зас

Сүүдрээ харж бүсээ зас хэмээн манай өвөг дээдэс сургамжилдаг байсныг чамд сануулан хэлмээр байна” гэв.

おばあさんは自分の孫娘が授業から帰ってきたとたん、「おまえさんは髪の毛をつやつやになるまで洗って、きれいにとかして授業に行っていないさいね。あなたのクラスの子供たちはどんなに小ざれいなんでしょう。彼女たちを良いお手本にすべきだとおまえに本当に何度も言っているよ。<友を見て自らを直せ、影を見て帯を直せ>と我々の祖先が教え諭していたことをおまえに注意して言いたい」と言った。

42. **Нэг үхрийн эвэр дэлсэхэд**

Мянган үхрийн эвэр доргино

一頭の牛の角をたたくと

千頭の牛の角が揺れる

<説明>

“一頭の牛の角をたたくと千頭の牛の角が揺れる”というたとえから、一般に<何かある一つのことが原因となって、その影響が全体に及ぶ>という意を示す。

<類義> 「一波^{いっば}わずかに動^{うご}いて万波^{ばんば}随^{したが}う」

(一つの事件が起きると、その影響が多方面に及ぶ、ということ)

<例文>

Сургуулиасаа харьж ирсэн охин нь ээждээ :

“Хичээл үймүүлж багшийн уур хүргэсэн Сүрэнгээс болж, бид нар цөмөөрөө зөндөө загнууллаа.

Нэг үхрийн эвэр дэлсэхэд

Мянган үхрийн эвэр доргино гэдэг л яг боллоо”

ХЭМЭЭН ХЭЛЭВ.

学校から帰ってきた娘は自分の母親に「授業を妨害して先生を怒らせたスレンのせいで、私たちはみんな随分叱られた。<一頭の牛の角をたたくと千頭の牛の角が揺れる>というその通りになった」と言った。

43. **Нэг чихээр ороод**

Нөгөө чихээр гарах

一方の耳から入って

他方の耳から出る

<説明>

“一方の耳から入って他方の耳から出る”というたとえから、一般に<人の意見や忠告などを、気にもとめずに聞き流してしまふ>という意を示す。

<類義>「右の^{みみ}耳から左の^{みみ}耳」、「馬^ば耳^じ東^{とう}風^{ふう}」

(何を聞いても、聞いたはしからすぐに忘れてしまふ、このたとえ)

<例文>

Өвөө маань биднийг бага байхад :

“Ах зах хүний хэлсэн сургаал үгийг их сайн сонсож, бүрэн гүйцэд ухаж ойлговол зохино. Хүний хэлсэн ярьсан зүйлийг тун анхааралтай сонсож байхгүй бол

Нэг чихээр ороод

Нөгөө чихээр гарах гэдгийн үлгэр болж мэднэ шүү” хэмээн хэлдэг байж билээ.

私たちのおじいちゃんは、私たちが小さいとき「年上の人の言った教訓をしっかりと聞いて、完全に理解すべきだ。人が言って話した事を非常に注意深く聞いていないと、<一方の耳から入って他方の耳から出る>という例えになるかもしれないぞ」と言っていたんですよ。

44. **Олны дотор үгээ шинж**

Ганцаараа явахдаа сэтгэлээ шинж

大衆の中で自分の言葉を調べよ

一人でいるときに自分の気持ちを調べよ

<説明>

“大衆の中では、自分の話すべき言葉を確かめ、正しく判

断する絶好の機会であり、また一人でいるときには、自分の気持ちを冷静に見つめ直す絶好の機会でもある”というたえから、一般に<人は自らを正しく知るために、常に自分の言動を省みる必要がある>という意を示す。

<類義>「三たび吾が身を省みる」

(一日に何度も自分の言動を反省せよ、ということ)

<例文>

Нийт албан хаагчдын цуглаан дээр эх адаг нь олдохгүй баахан юм ярьж, хүмүүсийн дургүйг ихэд хүргэсэн Баатарт хэлтсийн эрхлэгч нь :

“ Олон хүний өмнө үг хэлэхдээ урьтаж сайтар бэлтгэхгүй бол ингэж эвгүй байдалд ордог юм. Монгол ардын зүйр цэцэн үгэнд

Олны дотор үгээ шинж

Ганцаараа явахдаа сэтгэлээ шинж гэсэн байдаг нь үнэхээрийн үнэн үг дээ” хэмээн хэлэв.

全公務員集会でわけのわからないことをたくさん話し、人々をひどくいやがらせたバータルに課長が「たくさん人の前で話をするときは、前もってよく準備しないとこのようにいやな気分になるものだ。モンゴルのことわざに<大衆の中で自分の言葉を調べよ、一人でいるときに自分の気持ちを調べよ>といったのは、本当に真実だよ」と言った。

45. **Олон хэлбэл улиг**

Цөөн хэлбэл билэг

多く言えば迷惑

少なく言えば知恵

<語句>

- ・ улиг … 《迷惑、厄介》
- ・ билэг … 《知恵、英知》

<同義>

Олон үгэнд олзгүй 多くの言葉に得なし
Цөөн үгэнд гарзгүй 少ない言葉に損なし

<説明>

“一つのことを何度も繰返してしゃべると、聞き手はうんざりして迷惑するものだが、必要なことだけを端的にしゃべると、聞き手の心に効果的に訴え知恵として残るものである”というたとえから、一般に<人は相手の話が長いといや気がさしてうんざりするものだが、逆に言葉数が少ないと、かえって発言に重みがあり効果的である>という意を示す。

<類義>「下手の長談義」

(話の下手な人に限って、長々としゃべり相手をうんざりさせるものだ、ということ)

<例文>

Нас өндөр болсон ээж нь нэг юмаа хэдэнтээ давтан хэлэхэд, том хүү нь :

“Та нэг хэлсэн зүйлээ битгий давтан хэлж бай ! Дэндүү олон хэлбэл сонсогч хүний уур хүрч магадгүй дээ.

Олон хэлбэл улиг

Цөөн хэлбэл билэг гэдэг биш үү” хэмээн сануулав.

高齢になった母親が一つのことを何回か繰返し話すと、上の息子が「お母さんは一度言ったことを繰返し言わないよう

にしないで。あまりにたくさん言い過ぎると聞く人は怒るかもしれないよ。〈多く言えば迷惑、少なく言えば知恵〉というじゃありませんか」と注意した。

46. **Оролдвол нэгийг бүтээдэг**

Уралдвал нэг нь түрүүлдэг

努力すれば何かを実現する

競争すれば誰かが先頭に立つ

〈説明〉

“競争すれば必ず誰か一人が先頭に立つように、努力すれば必ず何か一つを実現するものだ”というたとえから、一般に〈人はその気になって努力すれば、どんなことでもできるものだ〉とか〈人はある一つの目的に向かって努力すれば、必ず成功を収めるものだ〉という意を示す。

〈類義〉「^あげ^せば^ある

(その気になってやれば、どんなことでもできる、ということ)

〈例文〉

Хөдөлмөрийн хичээл дээр VI ангийн эрэгтэй хүүхдүүд цөмөөрөө хөнгөн тэрэгний жижигхэн загвар зохион бүтээх болжээ. Тэгтэл таван сурагч : “Бид нар ерөөсөө хийж дөнгөхгүй байх” хэмээн хойргошин суусанд багш нь : “Та нар хийж чадалгүй яах вэ.

Оролдвол нэгийг бүтээдэг

Уралдвал нэг нь түрүүлдэг гэдэг биз дээ. Хийгээд үз дээ. Заавал чадна” гэж урам хайрлажээ.

技術の授業で六年の男子生徒たちが全員、軽自動車の小型

模型を製作することになった。すると、五人の生徒が「僕たちは全然うまく作れないだろう」とぐずぐずしていると、先生は「あなたたちはもちろん作れるよ。＜努力すれば何かを実現する、競争すれば誰かが先頭に立つ＞というだろ。作ってみなさいよ。必ずできます」と励ました。

- урам хайрлах (“やる気、刺激を与える” が原義)励ます、激励する

47. **Орох оронгүй**

Оочих аягагүй

入る家のない

すする器のない

<説明>

“入る家のない、すする器のない” というたとえから、一般に<自分の住む家も財産もない非常に貧しい人>をたとえて言う。

<類義>「赤貧洗うが如し」

(非常に貧しく、洗い流したように何一つ持ち物がないこと)

<例文>

Орон гэргүйн улмаас траншейнд амьдрах болсон хэдэн хүүхдийг :

“Орох оронгүй

Оочих аягагүй муусайн хар гуйлгачингууд ! ”

хэмээн учир зүггүй хараан зүхэж байгаа халамцуухан эрийг харж зогссон өвгөн : “Ёстой хүний үнэргүй этгээд юм даа” гэж бодсон нь лавтай.

家がないために、マンホールで暮らすことになった数人の子供を、「<入る家のない、すする器のない>みじめな乞食たち！」とひどくののしり罵倒しているほろ酔いかげんの男を見て立っていた老人が「本当に人間味のないやつだな」と思ったのは確かだ。

・ мусайн みじめな、哀れな

48. Өвстэй газар мал тогтдоггүй

Жаргалтай газар хүн тогтдоггүй

草のある所に家畜はとどまらない

幸せのある所に人はとどまらない

<説明>

“草があるからと言って、家畜はひと所にとどまらないように、幸せがあるからと言って、人はひと所にとどまることはない”というたとえから、一般に<人は移り気で、決して現状に満足することはない>という意を示す。

<類義>「^{うつ}移りやすきは^{ひとこころ}人心」

(人の心は変わりやすい、ということ)

<例文>

Лувсан: Манай сумын хүн ам сүүлийн хэдэн жилд
нэлээн цөөрөх хандлагатай байна.

Баасан: Учир шалтгаан нь юу вэ ?

Лувсан: Орчин үеийн хөгжлөө дагаад, төв газрыг
бараадах нь дээр гэж үздэг хүмүүс хэтэрхий
олширч байгаа бололтой.

Баасан: Аа тийм үү. Өмнө нь ямархуу байсан бэ ?

Лувсан: Дээр үед амьдрал ахуй одоогийнхтой
харьцуулахын аргагүй үнэхээрийн хэцүү байсан

шүү.

Өвстэй газар мал тогтдоггүй

Жаргалтай газар хүн тогтдоггүй гэдэг л

болж байна даа.

ロブサン:うちのソムの人口は最近数年間でかなり減る傾向にあるんだ。

バーサン:原因は何だい?

ロブサン:現代の発展に従って、中心地に近づく方がよいと見る人々が極端にふえているようだ。

バーサン:ああ、そうなんだ。以前はどんなふうだった?

ロブサン:昔は暮らしは現在と比較できないほど本当に厳しかったよ。(しかし、今では)＜草のある所に家畜はとどまらない、幸せのある所に人はとどまらない＞という具合になっているよ。

49. Өлсөхдөө идээний амтыг мэдэх

Даарахдаа хувцасны дулааныг мэдэх

空腹のときに食物の味を知る

寒いときに衣服の暖かさを知る

<説明>

“寒いときに服の本当の暖かさがわかるように、空腹のときには食べ物の本当のおいしさがわかる”というたとえから、一般に＜人は困窮してはじめて、物事の有難みがわかるものだ＞という意を示す。

<類義>「飢えては食しょくをえらばず」

(困窮している状態では、物を選ぶことはしない、何事も有難い、ということ)

<例文>

Эмээ маань биднийг жаахан байхад :

“ Хүний орчлонд зовлон жаргал ээлжлэн оршдог жамтай. Амьдралын хэцүү бэрхийг өөрийн биеэр амсаж үзсэн тэр цагт л хүнд ухаан суудаг юм. Ийм ч учраас

Өлсөхдөө идээний амтыг мэдэх

Даарахдаа хувцасны дулааныг мэдэх гэлцдэг юм даа. Өлсөж үзээгүй хүн хоолны амт чанарыг ялгахдаа тааруухан гэдэг нь тун ортой шүү” гэхчлэн хэлдэг байсан нь санаанаас ер гардаггүй юм.

うちのおばあさんは、私たちが小さい頃、「人の世は苦楽が交互に存在するきまりだ。人生の苦難を身をもって体験したそのときこそ、人に知恵がつくものだ。たからこそ、＜空腹のときに食物の味を知る、寒いときに衣服の暖かさを知る＞というものだよ。おなかですいたことがない人は、食事の味覚を識別するが苦手だと言うのは本当に確かだよ」などと言っていたことが頭から全く離れないものだ。

50. **Өөрийн санаа өөртөө зөв**

Өрөөл даавуу өмдөндөө зөв

自分の考えは自分に正しい

半分の布地はズボンに十分

<語句>

- ・ (өмдөндөө) зөв … 《十分な、足りる》 (= хүрэлцээтэйの意)

<説明>

“布地は半分でズボンを作るのに十分足りるように、自分

の考えはあくまでも自分にとって正しいものだ”というたとえから、一般に＜他人がどのように思っても、人は誰でも自分の考えが一番正しいと思っているものだ＞という意を示す。

＜類義＞「我が寺の仏尊し」

（自分の寺の仏を一番尊いと思うの意から、人は自分のものが一番よいと思っている、ということ）

＜例文＞

Эрдэм шинжилгээний бага хурал дээр залуу докторын тавьсан илтгэлийг хэд хэдэн хүн хатуухан шүүмжилсэнд, өвгөн профессор суудлаасаа алгуурхан босч :

“Өөрийн санаа өөртөө зөв

Өрөөл даавуу өмдөндөө зөв гэдэг үг бий тул хувь хүний санаа бодлыг харгалзахгүй өнгөрч болохгүй. Хэн ч гэсэн залуу зандан байснаа мартах учиргүй дээ” хэмээн түүнийг өмөөрсөн байна.

学术会议で若手博士の行った研究発表を何人かの人がかなり厳しく批判したところ、年老いた教授が席をゆっくり立ち上がり、「＜自分の考えは自分に正しい、半分の布地はズボンに十分＞という言葉があるので、個人の考えを無視するわけにはいかない。誰でも若かったころを忘れるべきではないよ」と彼をかばったのである。

51. **Өөрийн толгой дээрх тэмээг харахгүй байж
Өрөөлийн толгой дээрх өвсийг харах**

自分の頭の上のラクダを見ないで
他人の頭の上の草を見る

<説明>

“自分の頭の上の大きなラクダを見ないで、他人の頭の上の小さな草を見る”というたとえから、一般に<自分の大きな欠点に気づかずに、他人の小さな欠点を取り上げて非難する>という意を示す。

<類義>「目糞鼻糞を笑う」

(目やにが鼻糞を汚いと言って笑うの意から、自分の欠点に気づかずに、他人の欠点をあざ笑う、ということ)

<例文>

Өвөө маань өчигдөр орой :

“Хүний хамгийн муу чанарын нэг бол өөрийнхөө алдаа дутагдлыг бараг анзаардаггүй атлаа өөр хүний өө сэвийг ер анддаггүйд оршино. Иймэрхүү санааг монголын эртний зүйр цэцэн үгэнд

Өөрийн толгой дээрх тэмээг харахгүй байж

Өрөөлийн толгой дээрх өвсийг харах гэсэн байдаг юм ” хэмээн сургамжлан хэлснийг нь би тэмдэглэлийн дэвтэртээ бичиж авав.

うちのおじいさんは昨晚、「人の最も悪い性質の一つは、自分のあやまちほとんど気づかないのに、他人の欠点は決して見のがさないことにある。このような意味合いをモンゴルの古いことわざで、<自分の頭の上のラクダを見ないで、他人の頭の上の草を見る>といったものだ」と教え諭して言ったことを、私は自分の手帳に書き留めた。

52. **Өсөх малын зүс нэг**

Өөдлөх айлын үг нэг

繁殖する家畜の毛色は一つ

繁荣する家庭の言葉は一つ

<説明>

“繁荣する家では、家畜は繁殖し、毛色はばらつきが少なく一様であり、また、家族の気持ちも一つで絆は強い”というたとえから、一般に<家の繁荣には、家族が仲よく一致団結して暮らすことが大切である>という意を示す。

ただし、<例文>は1行目の意で用いられていることに注意されたい。

<類義>「^{かない}内^わ和^{ぼく}睦は^{ふくのかみ}福神^{まつり}のお祭」

(家じゅう仲よく暮らせば家は富む、ということ)

<例文>

Адуучин Мөнхөөгийн зэлэн дээр багширсан гурван азарга адууг удтал анхааралтай харж зогссон Сүрэн :
“Танай адууг голдуу хүрэн зүсмийн гэж дуулсан минь үнэн байж.

Өсөх малын зүс нэг

Өөдлөх айлын үг нэг гэж өвгөд хөгшдийн ярьдаг нь ортой үг байна шүү” хэмээн хэлэнгээ, гэрт орлоо.

馬飼いムンフーの、馬のつなぎひもの所に群がった3頭の種馬を長い間注意深く見て立っていたスレンは「おたくの馬が主に褐色の毛色だと聞いたのは本当だった。<繁殖する家畜の毛色は一つ、繁荣する家庭の言葉は一つ>と老人たちの話すのは確かなことだよ」と言いながら、ゲルに入った。

53. Саваагүй нохой

Саранд хуцах

物好きな犬は

月に吠える

<説明>

“物好きな犬が余計なことに月に向かって吠える”というたとえから、一般に<自分に関係のない余計なことにまで首を突っ込んで、干渉する>という意を示す。

<類義>「人の頼まぬ経を読む」

(頼まれもしないことに首を突っ込む、ということ)

<例文>

Шатрын нүүдэл төдийхөн мэддэг мөртлөө дүүргийн аварга шалгаруулах шатрын тэмцээнд оролцохоор нэрээ бүртгүүлсэн Баатарыг хадам ээж нь :

“Эхлэн сурч байгаа хүн чамаас өөр алга. Ичихэд яанаа.

Саваагүй нохой

Саранд хуцах гэгчийн үлгэр л болж байна даа”

хэмээн шүүмжилжээ.

チェスの駒の動きだけしか知らないのに、区のチャンピオン選抜チェス競技に参加するために名前を登録したバトルを、義理の母親が「初心者はおまえ以外いない。恥ずかしくないの。<物好きな犬は月に吠える>という例えのようだね」と批判した。

54. Сайн хүн санаагаараа

良い人は自分の思いのままに

<説明>

“良い人は自分の思いのままにやってくる”というたどえから、一般に<良い人というのは、こちらの思いとは無関係に全く本人の思いのままに、向こうから突然やってくるものだ>という意を示す。

このことわざは、一般に良い人が突然不意に現れた場合に用いられる。

<類義>「噂をすれば影がさす」

(人の噂をすれば、その当人が偶然ひょっこり現れるものだ、ということ)

<例文>

Батынх эсгийгээ хийгээд зүдэрч байтал Дулам гуайн хүү хүрч иржээ. Бат Дулам гуайн хүүтэй мэндэлснээ,

“Сайн хүн санаагаараа гэдэг. Хэл дуулгаагүй байхад хүрч ирдэг яасан сайн хүү вэ. Хүү минь, зав зайтай яваа бол тус болохгүй юү” гэж их л баярлангуй өгүүлжээ.

バトの家はフェルト作りをして疲れ果てていると、ドラムさんの息子がやってきた。バトはドラムさんの息子とあいさつしてから、「<良い人は自分の思いのままに>というものだ。知らせていないのに、やってくるとはなんといい子だろう。おまえさん、暇があるなら手伝ってくれないか」とひどく喜んだ様子で言った。

- хэл дуулгах 知らせる

55. **Сайн хүнд нөхөр олон**
Сайн моринд эзэн олон

良い人に友人は多い

良い馬に主人は多い

<説明>

“良い人に友人が多いように、良い馬には主人は多い”というたとえから、一般に<人は誰でもよいものを好み、そこに集まるものだ>という意を示す。

<類義>「名よき島に木寄る」

(人は、同じものなら、名目や体裁のよいものを好み、そこに集まるものだ、ということ)

<例文>

Тогтох : Цоодол гуайнх хүрэн морио зарах гэнэ.

Жаргал: Наадамд гурван жил дараалан түрүүлсэн хурдан хүрэн морио юу ?

Тогтох : Харин тиймээ. Худалдаж авъя гэж үнэ хаядаг хүмүүс нэн олон байдаг бололтой.

Жаргал: Өө тийм үү.

Сайн хүнд нөхөр олон

Сайн моринд эзэн олон гэдэг юм чинь.

Аргагүй шүү дээ.

トグトフ : ツオードルさんの家は褐色の馬を売るそうだ。

ジャルガル: ナーダムで三年連続で優勝した褐色の競走馬をですか。

トグトフ: ああ、そうだよ。買おうと値を付ける人たちは非常にたくさんいるようだ。

ジャルガル: ああ、そうなの。<良い人に友人は多い、良い

馬に主人は多い>といますから。当然ですよ。

56. **Сайн хүний нэрийг**

Долоо худалдаж идэх

良い人の名前を

七回売って食べる

<説明>

“良い人の名前を七回売って食べる”というたとえから、一般に<人の名前だけを利用して、自分に利益を得る>という意を示す。

<類義>「親の光おき ひかり ななひかりは七光」、「親おきの七光ななひかり」

(親の威光のおかげで、子供が世間からいろいろな恩恵を受ける、ということ)

<例文>

Бат, Очир өвгөн хоёр шатар тоглож суув.

Бат : Одоо монголд компани, сургууль гээд бүх л юмыг “Чингис” хааны нэрээр нэрлэх дуртай болжээ.

Очир : Харин тийм. Сонин юм. Хэзээ ийм байлаа.

Бат : Нэг үе бид үзэл суртлын дарамтаар хааныхаа нэрийг ч хэлэхээс айдаг байлаа шүү. Үнэндээ одоо хэмээсээ хэтрээд,

Сайн хүний нэрийг

Долоо худалдаж идэх гэдгийн үлгэр болж,

ашиг завшаан хайгчид олон болоод байгаа юм уу.

Очир : Тийм л болоод байна даа.

バトとオチルの二人の老人は、チェスをして座っていた。

バト：今モンゴルでは、会社や学校などすべてのものを“チンギス”ハーンの名前で名付けるのを好むようになった。

オチル：ええ、そうだな。おかしいことだ。いつこんなことがあったのか。

バト：一時おれたちは、思想的弾圧でハーンの名前さえも言うのを恐れていたんだぞ。本当に今では度を越して、＜良い人の名前を七回売って食べる＞という例えとなり、利益を追求する人たちがふえているのだろうか。

オチル：その通りのようだな。

57. Сайн эм аманд гашуун боловч өвчинд тустай
Шударга үг чихэнд хатуу боловч явдалд тустай

良薬は口に苦くても病気に効果あり

真実は耳につらくても行動に効果あり

<説明>

“良薬は口に苦くても病気に効果あり、真実は耳につらくても行動に効果あり”というたとえから、一般に＜よく効く薬ほど苦くて飲みにくいように、ためになる忠告ほど耳に痛くて聞きづらいものだ＞という意を示す。

<類義> 「良薬は口に苦し」、 「忠言耳に逆らう」

(病気によく効く薬は苦くて飲みにくいように、自分のためになる忠告は素直に聞き入れにくいものだ、ということ)

<例文>

Ханиад хүрсний улмаас хичээлдээ явахгүй гэртээ байгаа охиндоо эм өгсөнд：“Муухай гашуун учраас уухгүй” гэж цааргалсанд, ээж нь：“Эм уухгүй бол чиний

ханиад тийм амархан эдгэрэхгүй шүү.

Сайн эм аманд гашуун боловч өвчинд тустай

Шударга үг чихэнд хатуу боловч явдалд тустай

байдаг юм” хэмээн хэлжээ.

風邪を引いたために授業に行かず、家にいる自分の娘に薬をあげたら、「まずくて苦いので飲まない」と嫌がったので、彼女の母親は「薬を飲まなければ、あなたの風邪はそんなに簡単に治らないよ。＜良薬は口に苦くても病気に効果あり、真実は耳につらくても行動に効果あり＞というものです」と言った。

・ цааргалах 嫌がる (= дургүйцэх)

58. Сиймхий ч гэсэн гэр минь

Сэгсгэр ч гэсэн ээж минь

ぼろぼろであってもわが家

ぼさぼさであってもわが母

<語句>

- ・ сиймхий … 《透けて見える、ぼろぼろの》
- ・ сэгсгэр … 《ぼさぼさ髪の毛の、毛がもじゃもじゃの》

<説明>

“たとえ貧しくても、故郷にはゆっくりくつろげるわが家があり、また、こよなく愛するわが母がいる”というたとえから、一般に＜世界広しと言えども、結局は自分の生まれ育った所が一番良い、わが家にまさる所はない＞という意を示す。

<類義>「我が家^わ樂^{いらく}の釜^{かま}盥^{だらい}」

(釜をたらいの代わりに使うような貧しい生活でも、わが家

ほど気楽でよい所はない、ということ)

<例文>

Найдан : Цагаан сарын шинийн нэгэн дөхөөд ирэхээр дотуур байранд суудаг оюутнууд хөдөө орон нутаг, аав ээжээ санах нь улам ихэсдэг бололтой.

Самдан : Харин тиймээ. Бид нар ч гэсэн оюутан байхдаа эдэнтэй яг адилхан гэр орон, аав ээжээ санадаг байснаа арай мартаагүй биз дээ.

Найдан : Яалаа гэж мартах вэ. Өчигдөрхөн юм шиг л тов тодхон санаж байна.

Самдан : Энэ хорвоо дээр хүн болж төрсөн хэн бүхэн
Сиймхий ч гэсэн гэр минь
Сээгсээр ч гэсэн ээж минь хэмээн боддог нь ертөнцийн жам юм хойно доо.

ナイダン : 旧正月の一日が近づいてくると、寮に住んでいる学生たちは、自分の故郷や両親を思い出すことがいっそう募るようだ。

サムダン : ああ、そうだね。僕たちも学生のときは、この人たちと全く同じで自分の家や両親を思い出していたことをまだ忘れてはいないだろ。

ナイダン : どうして忘れるだろうか。つい昨日のこことようにはっきりと覚えている。

サムダン : この世の中に人間として生まれたものは誰でも、<ぼろぼろであってもわが家、ぼさぼさであってもわが母>と考えるのは世の常なんだからね。

59. Сонин дээрээ соохолзох

Сониноо буурахаар хоохолзох

珍しいときは興味を示す

興味が失せると目もくれない

<語句>

- соохолзох … 《興味を示す、うずうずする》
- хоохолзох … 《目もくれない、あきあきする》

<説明>

“珍しいときは興味を示すが、興味が失せると目もくれない”というたとえから、一般に<人間は物事に熱中しやすく、また飽きやすいものだ>という意を示す。

<類義>「熱し易く冷め易い」、「沸きが早いは冷め易い」
(物事にすぐ熱中する人は、飽きるのもまた早い、ということ)

<例文>

Цэцэг : Манай хүү аавыгаа гитар авч өг гэж гуйгаад байхаар нь эцэг нь гитар худалдаж авч өгсөн юм. Гэтэл хэдэн өдөр өдөр шөнөгүй балбаад бүр чихний чийр боллоо шүү.

Чимэг : Аа тийм үү. Тэгээд гитараа сайхан тоглож сурав уу ?

Цэцэг : Ээ, тийм юм байхгүй. Өөрийгөө авьяасгүй гэж бодсон юм уу, эсвэл

Сонин дээрээ соохолзох

Сониноо буурахаар хоохолзох гэдэг нь болсон юм уу, одоо огт тоглохоо больчихоор нь гайхаад ярьж байгаа юм.

ツェツェグ：うちの息子がお父さんにギターを買ってほしい
とお願ひしていたので、お父さんはギターを買っ
てあげたんです。ところが、何日か昼も夜もたた
いて全く耳ざわりになったわよ。

チメグ：ああ、そうなの。それで、ギターを上手にひけ
るようになったの？

ツェツェグ：いいえ、そんなことはないわ。自分自身を才能
がないと思ったのか、それとも<珍しいときは興
味を示す、興味が失せると目もくれない>という
ことになったのか、今では全くひくのをやめてし
まったので、(私は)不思議に思って話しているの
よ。

60. Суусан газраасаа

Шороо атгах

座った所から

土をつかむ

<説明>

“座った所から土をつかむ”というたとえから、一般に
<ちょっとしたささいな事からも利益を得ようとする>
という意を示す。

<類義>「^ゑ転んでもただ(で)は^お起きぬ」

(どんな場合でも、必ず何か得になることを見つけ出そうと
いう欲深さのたとえ)

<例文>

Төрмөнх өвгөн нэг өдөр хүүхдүүддээ ийн хэлжээ.

“Энэ жаахан хөрөнгө мөнгийг та нарт л гэж хурааж
цуглуулсан юм. Зүгээр бий болсон хөрөнгө гэж та нар

ойлгож болохгүй. За тэгээд, зөвхөн хар хөдөлмөрөөрөө ч би бий болгосон юм биш. Арга чарга, ухаан эвээр

Суусан газраасаа

Шороо атгах дөхөж л олж арвижуулсан юм. Одоо ч нас ахилаа. Та нар зөв хэрэглэж, арвижуулахаа өөрөө мэдэх цаг иржээ” гэжээ.

トゥルムンフじいさんは、ある日自分の子供たちに次のように言った。「このわずかなお金をおまえたちだけにと違ってためたんだ。何もしないでできたお金だとおまえたちは理解してはいけない。それに、ただ肉体労働だけによっておれが作ったものでもない。やり方と器用さでく座った所から土をつかむ>やっとの思いで、手に入れふやしたんだ。もう年を取った。おまえたちは正しく使い、ふやすことを自分で知るときがきたんだ」と言った。

61. Сүүнд халсан хүн

Тараг үлээнэ

ミルクでやけどした人は
タラグを吹く

<説明>

“熱いミルクで口にやけどした人は、それに懲りて冷たいタラグ(ヨーグルト)まで吹いて飲む”というたとえから、一般に<一度失敗した者は、必要以上に用心深くなる>という意を示す。

<類義>「羹あつものに懲りて膾なますを吹く」

(熱いスープで口にやけどした者は、冷たい料理まで吹いて冷ますの意より、失敗に懲りて用心深くなりすぎる、という

こと)

<例文>

Нийслэл Улаанбаатар хотоос хөдөө орон нутагтаа ирж амарч байсан Төвшинтөгсийн бага хүү нь наадмаар хурдан морины уралдаанд оролцож байгаад, ойчиж бэртсэнээсээ хойш номхон морийг ч гэсэн айгаад ер унахгүй болсонд өвөө аав нь : “ Миний хүүгийн хаширлаж болгоомжлох нь түмэн зөв. Гэхдээ дэндүү их айж бэмбэгнээд байвал тийм ч сайн биш гэдэг юм.

Сүүнд халсан хүн

Тараг үлээнэ гэгчийн үлгэр болж магадгүй шүү”

гэжээ.

首都オラーンバートル市から自分の故郷にやってきて休んでいたトブシントグスの下の息子が、ナーダムで競馬に参加していて、落ちてけがをしてから、おとなしい馬でさえこわくて全く乗らなくなったので、彼のおじいさんは「おまえさんの用心して気をつけるのは全く当然だ。しかし、あまりにもこわくてびくびくし過ぎていると、そんなによくないと言うものだ。<ミルクでやけどした人はタラグを吹く>という例えになるかもしれないぞ」と言った。

・ бэмбэгнэх ぶるぶる震える、びくびくする

62. Танихгүй бурхнаас

Таньдаг чөтгөр дээр

知らない仏よりも

知っている鬼がよい

<説明>

“知らない仏よりも知っている鬼がよい” というたとえから、一般にくたとえどんな相手であっても、親しみのない者よりは、よくなれ親しんだ者の方が、気心が知れてよい>という意を示す。

<類義>「知らぬ^{はな}仏より^な馴^じ染^みの^お鬼」

(どんな相手でも、疎遠な者よりはなれ親しんだ者の方がよい、ということ)

<例文>

Байгалийн ухааны доктор Батнасанг хөдөө аймгуудаар эрдэм шинжилгээний албан томилолтоор хоёр сарын хугацаатай ажиллуулах шийдвэр гарчээ. Түүнийг хөдөө явахаас хэдэн хоногийн өмнө захирал нь: “Чи геологийн хүрээлэнгийн Цэрэнтэй хамт явмаар байна уу? Аль эсвэл өөрийн хүрээлэнгийн Өлзийбаттай хамт явмаар байна уу?” гэж асуухад нь, Батнасан:

“Танихгүй бурхнаас

Таньдаг чөтгөр дээр гэдгийн үлгэрээр, нэг дор олон жил хамтдаа ажиллаж, сайн муугаа овоо зэгсэн гадарладаг учраас Өлзийбаттайгаа хамт явалгүй яахав” хэмээн шуудхан хариулсан байна.

自然科学博士バトナサンを地方のアイマグへ学術公務で2ヶ月間出張させる決定がなされた。彼が地方へ行く数日前に所長が「君は地質学研究所のツェレンと一緒にいきたいか、それとも自分の研究所のウルズイーバトと一緒にいきたいか」とたずねると、バトナサンは「<知らない仏よりも知っている鬼がよい>という例えのように、ひと所に何年も一緒

に働いて、お互いの長所や短所をかなりよくわかっているの
で、もちろんウルズイーバトと一緒にいきます」とじかに答
えたのである。

63. Тоонотой гэрт толгой холбож

Тостой шөлөнд хошуу холбож

天窓のゲルで共に暮らし

脂身のスープを共に食する

<語句>

- толгой холбож … 《一緒に暮らす、夫婦になる》
- хошуу холбож … 《一緒に食べる》 (= хамтдаа идэхの意)

<説明>

“天窓のついたゲルの下で一緒に暮らし、肉の脂身の入ったおいしいスープと一緒に食する”というたとえから、一般に<夫婦が一つ屋根の下で、仲睦まじく寝食を共にして暮らす>という意を示す。

<類義>

「^{ひと}一つ^お屋根^{した}の下に住む」(同じ家の中で一緒に暮らすこと)

「^{ひと}一つ^{なべ}鍋^{もの}の物を食う」(家族として暮らすということ)

<例文>

Сүрэн найз нөхөдтэйгээ уулзаад, ам нь халахаараа юм л бол : “Долгор бид хоёр

Тоонотой гэрт толгой холбож

Тостой шөлөнд хошуу холбож дэр нийлүүлснээс хойш дөч гаруй жил болж байна” гэж хэлдэг гэнэ.

スレンは友人たちと会って、話が弾むといつも「ドルゴル

とおれはく天窓のゲルで共に暮らし、脂身のスープを共に食し>結婚して以来、40年余りになる」と言っているそうだ。

- ・ ам халах 口数がふえる、話が弾む (= үг олшрох)
- ・ дэр нийлүүлэх 結婚する、枕を並べる (= гэрлэх)

64. Туулайн чинээ юмыг

Уулын чинээ болгох

兎ほどのことを

山ほどにする

<説明>

“兎ほど小さいことを山ほど大きくする”というたとえから、一般に<非常に小さな事柄をわざわざ大きな事柄として取り上げ、大げさに言う>という意を示す。

<類義>「針^{はり}ほどのことを棒^{ぼう}ほどに言う」、「針^{しん}小^{しょう}棒^{ぼう}大^{だい}」

(針ほどに小さいことを棒ほどに大きく言うの意より、物事を大きく言う、ことのたとえ)

<比較>

モンゴル語： туулай《兎》 → уул《山》

日本語： 「針」 → 「棒」

<例文>

Гар нь бага зэрэгхэн шалбарвал “хүнд бэртсэн”， дөнгөж л шүргэлдсэний улмаас унасныгаа “дайруулж унасан” гэх мэтчилэн хэтрүүлж ярьдаг “янгууч” хочит Дондогт анги удирдсан багш нь：

“Аливаа зүйлийг яг үнэнээр нь хэлж сурах хэрэгтэй. Бодит байдлыг арай дэндүү хэтрүүлэн ярихыг

Туулайн чинээ юмыг

Уулын чинээ болгох гэдэг юм. Ер нь яваа

яваандаа чамд итгэх хүн байхгүй болж мэднэ шүү”
хэмээн болгоомжлуулан хэлсэн байна.

手が少しばかりすりむけると、「ひどいけがをした」とか、ほんのわずかだけ体が触れたために転んだのを「ぶつけられて転んだ」などと誇張して言う“大げさ”のあだ名をもつドンドグに担任の先生は「何でもごくありのままに話すようにしなければならぬ。現状を少し大げさに言いすぎることを、
＜兎ほどのことを山ほどにする＞というんです。一般に、いずれそのうちに君のことを信じる人がいなくなるかもしれないよ」と注意して言ったのである。

65. Тэнгэрийн муухай арилдаг

Хүний муухай арилдаггүй

天氣の悪いのは晴れる

人間の悪い所は消えない

<説明>

“天氣の悪い状態はいずれ晴れるが、人間の悪い所はなかなか消えないものだ”というたとえから、一般に＜いったん身についた人間の悪い性格や癖はなかなか治らないものだ＞という意を示す。

<類義>「病は治るが癖は治らぬ」

(病氣は治すことができるが、身についた悪癖は治せるものではない、ということ)

<例文>

Балсан хулгайн хэрэгт холбогдож, шоронд орж хоёр жилийн ял эдэлсэн боловч, гарч ирснийхээ дараахан дахин хулгайн хэргээр баригдахад өмгөөлөгч нь :

“Хүн яаж ч ял эдлээд, сайжирч засардаггүй бололтой.

Тэнгэрийн муухай арилдаг

Хүний муухай арилдаггүй гэдэг яасан үнэн үг вэ.
Давтан үйлдсэн учраас хэрэг нь улам хүндрэх байх даа”
хэмээн боджээ.

バルサンは窃盗の犯罪にかかわり、刑務所に入り2年の刑に服したが、出てきた直後に再び窃盗の罪でつかまると、彼の弁護士は「人はどんなに刑に服しても、良くなりなおらないようだ。＜天氣の悪いのは晴れる、人間の悪い所は消えない＞というのは何と本当のことか。再び犯したので、彼の罪はもっと重くなるだろうな」と思った。

66. **Тэнүүн явахад тэмээгээр тусалснаас**

Тэвдэж явахад тэвнээр тусалсан нь дээр

落ち着いているときラクダで助けるよりも
あわてているとき縫針で助ける方がよい

<語句>

・ ТЭВНЭ … 《厚手の堅い物を縫う大きな太い針》

<説明>

“平常時にラクダのような大きなもので助けるよりも、困窮時に縫針のような小さなもので助ける方がよい”というたとえから、一般に＜必要のないときに大いに援助するよりも、実際に必要なときにたとえ少しでも援助する方が、はるかに価値のある大切なことだ＞という意を示す。

<類義> 「長者ちやうじやの万灯まんとうより貧者ひんじやの一灯いっとう」

(金持ちのたくさんの寄進よりも、たとえわずかでも貧者の真心のこもった寄進の方がはるかに尊いという意から、物の

多さよりも真心が大切だ、ということ)

<例文>

Нялх хүүхдийнх нь ханиад үгдэрч эмнэлэгт хэвтэж, эм тариа олдохгүй сандарч явахад ховор сайн тариа олж өгсөн Наранчимэгт баярласан талархсанаа хэлэхийн ялдамд :

“Тэнүүн явахад тэмээгээр тусалснаас

Тэвдэж явахад тэвнээр тусалсан нь дээр байдгийг биеэрээ ойлгож мэдэрлээ” хэмээн хэлсэнд, цаадах нь “Зүгээр зүгээр” гэсэн байна.

赤ちゃんの風邪が再び悪化し、病院に入院し、薬などが手に入らず(赤ちゃんの両親が)あわてているとき、珍しいよい注射を手に入れてくれたナランチメグに感謝の言葉を言う際に「<落ち着いているときラクダで助けるよりも、あわてているとき縫針で助ける方がよい>ことを身をもって実感しました」と言ったところ、向こうは「どういたしまして」と言ったのである。

67. Ураг төрлийн хол нь дээр

Ус цасны ойр нь дээр

親戚は遠いのがよい

水は近いのがよい

<説明>

“牧民にとって水は欠かせないものだから、水はできるだけ近くにある方がよいように、親戚はいざこざが起きないようにできるだけ遠くにある方がよい”というたとえから、一般に<親類縁者は近くにいと、つい頼りすぎて、何かとい

ざごぎの原因となるので、お互いに遠く離れている方がよい>という意を示す。

ただし、<例文>は2行目の意で用いられていることに注意されたい。

<類義>「親しき仲に垣をせよ」

(慣れすぎは不和のもとになるので、いくら親しい間柄でも一定の距離を置いてつきあえ、ということ)

<例文>

Өглөө эртлэн ачаалан хөдөлсөн саахалт гурван айл үд хэвийсэн хойно сэлгэн буух газраа дөхөж ирсэн байна. Хоньчин Мөнхөө өвөө ааваасаа чухам хаана буувал зүгээр вэ ? хэмээн асуувал :

“Хүн, мал хоёрт усаа бараадсан нь өлзийтэй биз дээ хө. Ер нь манай монголчууд аль эрт үеэс эхлэн

Ураг төрлийн хол нь дээр

Ус цасны ойр нь дээр гэж үздэг уламжлалтай учраас голын хөвөөнд буувал дээргүй юү ?” гэжээ.

朝早く荷物を積んで出発した近隣の三家族が日が傾いてから、移動し宿営する場所に近づいてきたのである。羊飼いムンフーは自分のおじいさんに一体どこに宿営したらいいかとたずねると、(おじいさんは)「人と家畜にとって水に近い方がいいだろうね。一般に我々モンゴル人は、ずっと昔から<親戚は遠いのがよい、水は近いのがよい>と見る伝統があるので、川岸に宿営すればいいじゃないか」と言った。

68. **Уран хүн учиг нэмдэг**

Улцан хүн нулимс нэмдэг

裁縫の上手な人は糸をそえる
涙目の人は涙をそえる

<語句>

- уран хүн …ここでは、《裁縫の上手な人》(= үйл сайтай хүн)の意。
- учиг …《(縫いかけの)針に通した糸》

<説明>

“裁縫の上手な人は糸をそえる、涙目の人は涙をそえる”
というたとえから、一般に<裁縫の上手な人は、他の人が物を縫っているのを見ると、すぐに手を貸し、縫うのを手伝ってあげるものだ>という意を示す。

<参考>

モンゴルでは、次のことわざで代表されるように、一般に裁縫の上手な女性を高く評価する伝統があることに注意されたい。

Үйлэнд уран 裁縫にすぐれた
Үгэнд цэцэн 言葉にたけた

<例文>

Сосорын эхнэр Дулмааг дээлээ оёж суухад, хөрш айлынх нь самган орж ирээд, хэд гурван үг солих зуураа дээлийнх нь хаваасыг дуусгалцаж өгчээ. Түүнийг харихын үед Дулмаа :

“Та үйлэнд үнэхээрийн гаргууд хүн юмаа.

Уран хүн учиг нэмдэг

Улцан хүн нулимс нэмдэг гэдгийн үлгэрээр та миний ажлыг ёстой их хөнгөлж өглөө. Би ганцаараа оёсон бол өдийд лав дуусаагүй л байгаа даа” хэмээн хэлэнгээ, хаалгаа аяархан хаажээ.

ソソルの妻ドルマーが自分のデール(民族衣装)を縫って座っていると、彼女の隣の家のおばあさんが入ってきて、二こと三こと言葉を交わす間に彼女のデールの綿入れの刺し縫いを一緒に仕上げてくれた。おばあさんが帰るとき、ドルマーは「あなたは裁縫が本当に上手ですね。〈裁縫の上手な人は糸をそえる、涙目の人は涙をそえる〉という例えのように、あなたは私の仕事を本当に楽にしてくれた。私が一人で縫ったら、今頃はきつとまだ終わっていないね」と言いながら、ドアを静かに閉めた。

69. **Усны эх нь булингартай бол**

Адаг нь булингартай

水源が濁っていれば

河口は濁っている

<説明>

“川の水源が濁っていれば、当然河口も濁っている”というたとえから、一般に〈何事も始めが悪ければ、終わりも悪くなるので、最初が大切である〉という意を示す。

<類義>「^{はじめ}が^{だいじ}大事」、^{はじめ}よければ^{はつわり}終わりよし」

(何事も最初が大切であり、始めの出だしがそのまま終わりにまで影響する、ということ)

「^{みなもと}源清ければ^{なが}流れ^{きよ}清し」

(水源が清く澄んでいけば、下流も自然に清くなるの意から、どんなことでも根本が正しければ、末端も正しくなる、ということ)

<例文>

Монгол Улсын Их сургуульд элсэн орохоор болсон бага хүүдээ аав нь :

“Аливаа нэгэн юмыг анхны гараанаас эхлэн нягт нямбай хийхгүй бол эцсийн үр дүн нь тийм ч сайн байдаггүй юм шүү. Үүнтэй уялдуулан хэлэхэд,

Усны эх нь булингартай бол

Адаг нь булингартай байдаг нь мэдээж биз дээ. Тиймээс миний хүү, хичээлийн шинэ жилийн анхны өдрөөс эхлэн сайн хичээгээрэй!” хэмээн захижээ.

モンゴル国立大学に入学することになった下の息子に父親が「どんなことでも最初のスタートから綿密に行わないと最後の結果はそんなによくないものだよ。これに関連づけて言うと、＜水源が濁っていれば河口は濁っている＞のは当然だろ。だから、おまえ、新学期の最初の日からしっかりがんばりなさい」と言いつけた。

70. Уулын цаанаас ураг бололцох

Усны цаанаас худ бололцох

山の向こうから親戚になる

川の向こうから姻戚になる

<語句>

- ・ худ … 姻戚、特に嫁側から見た男性側、すなわち《婿側の親戚》の意。

<説明>

“山河の向こうから婚姻関係を結ぶ”というたとえから、一般に＜近隣の血の近い者同士が結婚すると、知的障害や身体障害の子供ができる危険性があるので、配偶者はできるだけ遠方の他の地方から求めるべきである＞という意を示す。

<類義>「同姓どうせいめと娶らず」

(〔中国の昔の家族制度の習慣で〕同姓の者とは婚姻関係を結ばない、ということ)

<例文>

Сумын төвд болсон цуглаан дээр аймгийн эрүүлийг хамгаалах газрын дарга Н. Ганхуяг :

“Ойрын хориод жилийн ажиглалтаас харахад нэгэн сумынхан, бүр тодруулбал нэгэн голын хүмүүс ойр хоорондоо гэрлэх нь ихсэх хандлагатай болсны улмаас ухаан мэдрэл муутай, аль эсвэл тахир дутуу хүүхэд төрөх явдал нэлээд үзэгдэх боллоо. Урьдын цагт

Уулын цаанаас ураг бололцох

Усны цаанаас худ бололцох зарчмыг ягштал баримталдаг байсныг энэ ялдамд дурдахад илүүдэх юун” хэмээн анхааруулан хэлэв.

ソムの中心で行われた集まりで、アイマグの保健所の所長 N.ガンホヤグは「この 20 年ほどの観察より見ると、一つのソムの人たち、もっと具体的には、一つの川に住む人たちが近親結婚するのが増える傾向になったせいで、知的障害あるいは身体障害の子供が生まれることがかなり見られるようになった。かつて<山の向こうから親戚になる、川の向こうから姻戚になる>原則をしっかりと守っていたことを、この機会に述べるに越したことはない」と注意して言った。

71. **Ухаангүй ноёд**

Урагшгүй албат

知恵のない領主に

出来の悪い家臣

<説明>

“知恵のない愚かな(тэнэг)領主には、出来の悪い失敗する(бүтэлгүй)家臣がついている”というたとえから、一般に<上に立つ者が優秀でなければ、それに仕える下の者も同様に優秀でない>というのが原義だが、実際の会話では、たとえ上に立つ者が優秀でなくても、下の者はそれに同調する必要は全くないので、下の者が失敗した場合、それはあくまでも本人の責任であって、上に立つ者の責任ではない>という意で用いられることが多い。

<類義>「主が主なら家来も家来」

(君主がよくないのと相応に家来もよくない、ということ)

<例文>

Дунд сургуулийн их цэвэрлэгээний үеэр цонхны шил арчиж байгаад хагалчихсан Оюуныг анги удирдсан багш нь : “Ямар нэгэн юмыг хийж гүйцэтгэхдээ хянуур болгоомжтой хийх хэрэгтэй шүү дээ.

Ухаангүй ноёнд

Урагшгүй албат гэдэг зүйр цэцэн үг байдгийг чи сонссон уу ? Чамайг хөл муутайг мэдсээр байж, цонх цэвэрлэх ажилд хуваарилсан нь миний буруу ч байж магадгүй. Миний хийлгэсэн, чиний хийсэн хоёр, мөн таарч дээ” гэх мэтээр загнасан байна.

中学校の大そうじのときに、窓ガラスをふいていて割ってしまったオヨンを担当の先生が「何かあることをして成し遂げるときは慎重に注意深く行わなければならないよ。<知恵のない領主に出来の悪い家臣>ということわざがあることを君は聞いたかい。君が足が不自由なことを知りながら、窓

そうじの仕事に割り当てたのは私の間違いかもしれない。私がさせ、君がしたのがよくなかったんだ」などと叱った。

72. **Үйлгүй хүүхэн дууламхай**

Сүүгүй үнээ мөөрөмхий

裁縫のできない女はよく歌う

乳の出ない牛はよく鳴く

<語句>

- үйл … 《裁縫、縫物》
- V-мхай³ … 《すぐに～する》(習慣)、《～するのにたけた》(熟達)の意。

<説明>

“裁縫のできない女はよく歌う、乳の出ない牛はよく鳴く”というたとえから、一般に<本来すべき大切な仕事などができない者ほど、他のつまらない分野で力を発揮し目立ちたがるものだ>という意を示す。

<類義>「鳴く猫は鼠を捕らぬ」

(よく鳴く猫はあまり鼠を捕らないの意から、口先だけで大きなことを言う者ほど実行力がない、ということ)

「能なしの口叩き」

(能力や実力がない者ほど余計なことを多くしゃべる、ということ)

<例文>

Арван зургаан нас хүрч байгаа охин нь саяхнаас хичээлээсээ харьж ирвэл гэрийн даалгавраа ч тэр болгон ягштал сайн хийхгүй, ээждээ ч туслахаа больж, юм л бол хөгжим хангинуулж, дагаж аялдаг зуршилтай болжээ. Энэ байдалд туйлын ихээр санаа зовох болсон

аав нь :

“ Миний охин иймэрхүү байдлаар өдөр хоногийг өнгөрөөх чинь тийм ч сайнгүй дээ. Биднийг бага балчир байхад ажил хунарт тааруухан мөртлөө дуу хуур хөөцөлдсөн хүнийг хөнгөн хийсвэр хүн гэж муу хэлдэг байж билээ. Ийм ч учраас

Үйлгүй хүүхэн дууламхай

Сүүгүй үнээ мөөрөмхий гэдэг зүйр цэцэн үг үүссэн байлгүй дээ” хэмээн охиндоо хэлсэн байна.

16 歳になろうとしている娘がつい最近、授業から帰ってきたら、宿題もその都度しっかりきちんとしないで、お母さんを手伝うのもやめて、しょっちゅう音楽を鳴らして、あわせて口ずさむ癖がついてしまった。この状況に極めてひどく心配するようになった彼女の父親が「おまえはこんな状態で日々を過ごすのはそんなによくないね。私たちが小さい頃は、仕事などが下手なのに歌なんかに一生懸命になった人のことを「軽薄な人」だと悪く言っていたんだよ。だからこそ、
＜裁縫のできない女はよく歌う、乳の出ない牛はよく鳴く＞
ということわざが生まれたんじゃないのか」と自分の娘に言ったのである。

73. **Үхнэ үхнэ гэж үхрийн мах барах**

Явна явна гэж ямааны мах барах

「死ぬ、死ぬ」と言って牛の肉を食べ尽くす

「行く、行く」と言って山羊の肉を食べ尽くす

＜説明＞

“口では「死ぬ、死ぬ」と言いながら、実際は死ぬことも

なく、その間に牛の肉を丸一頭食べ尽くしてしまう。また同様に、「行く、行く」と言いながら、行くこともせず、その間に山羊の肉を食べ尽くしてしまう”というたとえから、一般に＜物事を行うと口では言っておきながら、実際にはすぐに行動には移さず、延ばし延ばしして、結局何も実現しないままにしている＞という意を示す。

これは口先だけで一向に実行が伴わない怠け者をたとえて言う場合に用いる。

＜類義＞「雪山の鳥今日よ明日よと鳴く」

（雪山の鳥(ヒマラヤにすむという想像上の鳥)が今日こそは明日こそは巣を作ろうと日々繰り返して鳴くが、一向に巣を作る様子もないという話から、怠け者のたとえ)

＜例文＞

Цэрэн өвгөн ханиад хүрээд, хэдэн хоног гэртээ хэвтэж, үр хүүхдүүдээрээ хоол цайгаа хийлгээд амарчээ. Гэтэл угийн хэвтэж амарч сураагүй өвгөн босож ажил албаа хийх гэтэл, хүүхдүүд нь :

“Аав аа, таны бие таруу, ханиадтай байна, яаран босоод яах вэ” гэхэд, өвгөн :

“Одоо ч дэмий. Бие зүгээр болсон. Дэмий хэвтэж, хүнээр хоол цайгаа хийлгэж, тэжээлгээд юу хийнэ. Тийм ааш маягтай хүнийг

Үхнэ үхнэ гэж үхрийн мах барах

Явна явна гэж ямааны мах барах гэдэг юм” гээд босоод ажил албаа дуртайяа хийж эхэлжээ.

ツェレンじいさんは、風邪を引いて何日か家で床に伏し、自分の子供たちに食事を作ってもらって休養した。ところが、

もともと床に伏し休養するのに慣れていないおじいさんは起き上がり、仕事をしようとする、子供たちは、「お父さん、あなたは体の具合がよくないし、風邪を引いています。急いで起き上がってどうするんです」と言うと、老人は、「もういいよ。大丈夫だ。ただ床に伏し、人に食事を作ってもらい、養ってもらってどうするんだ。そんなかっこうをする人のことを、＜「死ぬ、死ぬ」と言って牛の肉を食べ尽くす、「行く、行く」と言って山羊の肉を食べ尽くす＞というものだ」と言って起き上がって、仕事を喜んでし始めた。

74. **Хааны алба халаатай**

Эзний алба ээлжтэй

王様の勤めに交替あり

主人の務めに交代あり

＜説明＞

“王様や主人の地位もやがては次の者に受け継がれ、必ず交替のときが訪れる”というたとえから、一般に＜世の中は栄えたり滅びたりが交互に繰り返されるものであり、何事にも必ず交替の時期があるものだ＞という意を示す。

＜類義＞「榮枯盛衰」

(栄えたり滅びたりが交互に繰り返されるのが世の常である、ということ)

＜例文＞

Луузан сумын засаг даргаар бүтэн арван хоёр жил ажиллажээ. Тэрээр саяхан болсон орон нутгийн сонгуульд ялагдаад, сэтгэл гонсгорхон явах үед, их сургууль хамт төгссөн сайн найз нь тааралдаад : “Энэ удаа ялагдсан ч, ирэх сонгуульд үзээд алдана биз дээ хө.

Хааны алба халаатай

Эзний алба ээлжтэй байдаг юм хойно, яая гэхэв дээ” гэх мэтээр тайтгаруулсан янзтай хэдэн үг хэлжээ.

ローザンはソムの行政長としてまる 12 年間働いた。彼は最近行なわれた地方選挙に敗れ、かなりがっかりしているとき、大学を一緒に卒業した親友が(彼と)出会い、「今回は敗れたが、次の選挙でいちかばちかやってみるんだろ。＜王様の勤めに交替あり、主人の務めに交代あり＞だから、どうしようもないよ」などとなぐさめた様子で少し話した。

- үзээд алдах тамешиにやってみる

75. **Ховч хүний хошуу хүйтэн**

Хулгайч хүний нүд хүйтэн

中傷する人の口は冷たい

泥棒する人の目は冷たい

＜説明＞

“人を中傷する者は口が悪いように、人の物を盗む者は目つきが悪い”というたとえから、一般に＜人の物を盗む者は、周囲の物に対し目をきよろきよろさせるなど目つきがあやしく、挙動不審である＞という意を示す。

＜参照＞「目は口ほどに物を言う」

(目を見れば、その人の心の内がよくわかる、ということ)

「人を見たら泥棒と思え」

(他人は信用できないので、まず疑ってかかれ、ということ)

＜例文＞

Саяхан хөдөө аймгаас Улаанбаатар хотод ирж, их сургуулийн гадаад хэлний салбарт суралцахаар болсон

дүүдээ төрсөн ах нь :

“Дэлгүүр, автобус мэтийн хүний хөл хөдөлгөөн ихтэй газарт тун болгоомжтой явахгүй бол мөнгө төгрөгөө суйлуулж мэднэ шүү.

Ховч хүний хошуу хүйтэн

Хулгайч хүний нүд хүйтэн байдаг гэлцдэг юм. Энэ бол ёстой үнэн үг” хэмээн хэлжээ.

つい最近、地方のアイマグからオランバータル市にやっ
てきて、大学の外国語学部で勉強することになった弟に実の
兄が「店やバスなどの人通りの多い所では、とても気をつけ
て行かないとお金をすられるかもしれないぞ。＜中傷する人
の口は冷たい、泥棒する人の目は冷たい＞というものだ。こ
れはまさに本当のことだ」と言った。

76. Хоёр хэрээ бие биеийнхээ

Харыг гайхах

二羽の鳥が互いの
黒さに驚く

<説明>

“二羽の鳥が互いの黒さに驚く”というたとえから、一般
に＜両者とも欠点があるにもかかわらず、互いに自分の欠点
を棚に上げ、相手の欠点を取り上げて言う＞という意を示す。

<類義> 「目糞鼻糞を笑う」

(自分の欠点を棚に上げて、他人の欠点を非難する、という
こと)

<例文>

Барилга угсралтын компанийн хоёр ажилчин орой

ажил тарахын өмнөхөн бие биеийгээ муулан маргалдаж, дарга дээрээ зарга мэдүүлж орцгоожээ. Дарга нь тэр хоёрын санаа бодлыг нэг бүрчлэн сайн сонссоны эцэст :
“Нөхдүүд минь ингэж ямар ч утгагүй зүйлээр оролдож, маргалдаж цаг алдаж байхаа таслан зогсоосон чинь дээр шүү. Ёстой нөгөө

Хоёр хэрээ бие биеийнхээ

Харыг гайхах гэгчийн үлгэр болж байгааг өөрсдөө анзаарахгүй яваа чинь тун харамсалтай байна” гэв.

建設会社の二人の労働者が、夕方仕事が終わる直前に、互いの悪口を言ってけんかし、自分の上司の所に苦情を言いに行った。彼らの上司は、その二人の考えを逐一しっかり聞いた末に「あなたたちはこのように何の意味もないことにちよっかいを出し、けんかして時間をむだにしているのはやめた方がいいよ。まさに例の<二羽の鳥が互いの黒さに驚く>という例えになっていることに自分たちが気がつかないでいるのはとても残念だ」と言った。

77. **Хоолны сайныг хүнд өг**

Хувцасны сайныг өөрөө өмс

食事のよいのは人にあげろ

服のよいのは自分で着ろ

<説明>

“暖かい服は自分で着た方がよいが、おいしい食事は人にあげた方がよい”というたとえから、一般に<人をもてなすときは、おいしい食事で十分に歓待しなさい>という意を示

す。

これは、人をもてなすときの心がけを説いたものである。

<類義>「我が好きを人に振る舞う」

(自分の好きな物で人をもてなす、ということ)

<例文>

Шинээр гэр бүл болж буй залуу хосын хуриман дээр нагац эгч нь : “За хүүхдүүд минь, гэрээрээ дүүрэн хүүхэдтэй, зэлээрээ дүүрэн унагатай өнөр өтгөн сайхан айл болохын бэлгэ дэмбэрэлтэй ерөөлийг өргөн дэвшүүлэхийн ялдамд, орсон гарсан хүн хард цай хоолныхоо аль олигтойгоосоо өгч байхыг зөвлөн хэлмээр байна. Ийм ч учраас манай өвөг дээдэс

Хоолны сайныг хүнд өг

Хувцасны сайныг өөрөө өмс хэмээн цаг ямагт сургамжилсаар ирсэн юм шүү дээ” гэж хэлээд, уртын дуугаар ая өргөв.

新しく家族になろうとしている若いカップルの結婚式で、(母方の)叔母さんが「さあ、あなたたちは、家中いっぱい子供がいる、家畜のつなぎひもいっぱい子馬のいる豊かなすばらしい家庭となる縁起のよい祝詞を申し上げるついでに、出入りする人たちに食事の一番よいものをあげるようにアドバイスしたいです。そのために、私たちの祖先は<食事のよいのは人にあげろ、服のよいのは自分で着ろ>と常に教え諭し続けてきたんですよ」と言って、長歌を歌った。

78. **Хорт сумаар нэгийг алдаг**
Хорон үгээр мянгыг алдаг

毒矢で一人を殺す
毒舌で千人を殺す

<語句>

・ хорон үг … 《悪意ある言葉、毒舌》

<説明>

“毒矢では一人しか殺せないが、毒舌では千人も殺せる”
というたとえから、一般に<人を非難する悪意ある言葉は、
相手を傷つけ、命を失わせるほど恐ろしい力をもっているも
のだ>という意を示す。

<類義>「舌の劍したは命いのちを断たつ」

(悪意ある言葉のために、自分や他人の生命さえも失うこと
がある、ということ)

<例文>

Монголчууд хэзээнээс нааш хараал зүхэл хэлэхийг
ихэд цээрлэж, шалиг завхай үг, учир утгагүй бүдүүлэг
зүйл ярьж бичихийг тэвчдэг сайхан уламжлалтай билээ.
Монголчуудын жигшин цээрлэдэг арван хар нүгэлд
ордог “хов үг”, “худал үг”, “чалчаа үг”, “ширүүн үг”
зэрэг нь хэлээр үйлдэх дөрвөн хар нүгэл мөн болно.
Хүний хэлсэн хорон муу үг нь сонсогч этгээдийн элгийг
эмтэлж, зүрхийг шархдуулдаг учраас

Хорт сумаар нэгийг алдаг

Хорон үгээр мянгыг алдаг гэж ярих нь бий. Сайн
үгээр буян үйлдэж, муу үгээр хилэнц үйлддэг жамтай.

モンゴル人は、ずっと昔から罵倒語を言うことをひどく禁
じ、みだらないやらしい言葉や意味のない下品なことを話し
たり書いたりすることを控えるすばらしい伝統があるんで

すよ。モンゴル人の嫌い禁じる十悪にあたる“中傷”、“うそ”、“むだ話”、“厳しい言葉”などは言葉で行う四悪である。人の言った悪意ある言葉は、聞く方の気持ちを感傷的にし、心を傷つけるので、＜毒矢で一人を殺す、毒舌で千人を殺す＞と話すことがある。良い言葉で善を施し、悪い言葉で罪をなすのが世の常である。

79. Хувцас бурхан

Бие чөтгөр

服は仏

体は鬼

<説明>

“服は仏、体は鬼”というたとえから、一般に＜外見は美しく着飾って仏のようにやさしく見えるが、心の中は悪意に満ち、鬼のように恐ろしく残忍である＞という意を示す。

これは、概して人は、外見よりも内面の方が大切だということを示している。

<類義>「鬼に衣」

(表面は柔和に見えるが、内面は恐ろしい、ことのたとえ)

<例文>

Олон төрлийн хувцас хунар ээлжлэн өмсөж, толинд харж зогссон ач охиндоо өвөө аав нь :

“Юун маягтай юм. Энэ бороо устай өдөр бараандуухан өнгөтэй юм дээр биз дээ.

Хувцас бурхан

Бие чөтгөр гэдэг зүйр цэцэн үг байдгийг дуулаагүй юу? Ямар ч гоё ганган хувцас өмссөн ч хүний муухай санаа бодлыг нууж хааж чадахгүй учраас хүн

хувцсаараа бус сэтгэлээрээ сайхан байх ёстой” хэмээн хэлжээ.

たくさんの種類の服を何度も着がえ、鏡を見て立っていた孫娘に彼女のおじいさんが「何を気取っているんだい。この雨の日に黒っぽい色のものがないだろ。〈服は仏、体は鬼〉ということわざがあることを聞いたことがないのか。どんなにきれいでおしゃれな服を着ても、人のきたない考えを包み隠すことができないので、人は服ではなく心がきれいでなければならぬ」と言った。

- нууж хаах 包み隠す

80. Худгийн мэлхий далайн ихийг мэдэхгүй

Далайн мэлхий худгийн багыг мэдэхгүй

井戸の蛙かきは海の大きいことを知らない

海かみの亀は井戸の小さいことを知らない

<説明>

“井戸の蛙は海の大きいことを知らない、海の亀は井戸の小さいことを知らない”というたとえから、一般に〈自分だけの殻に閉じこもっていると、それだけがすべてであると思ひ込んでしまい、外の広い世界の存在すらわからなくなるものだ〉という意を示す。

<類義>「井いの中なかの蛙かき大海かわたいかいを知らずし」

(自分だけの狭い知識や見聞にとらわれて、他に広い世界があることを知らない、ということ)

<例文>

Өмнөговь аймгаас аяллаар ирсэн тэмээчин Хөвсгөл нуурыг хараад, “Пөөх яасан өргөн уудам юм бэ! Энэ

нуурыг ийм асар том гэж огт санаагүй шүү.

Худгийн мэлхий далайн ихийг мэдэхгүй

Далайн мэлхий худгийн багыг мэдэхгүй гэдэг чинь ёстой үнэн үг юм аа” хэмээн хажуудах нөхөртөө сонин болгон ярьсан байна.

ウムヌゴピ・アイマグから旅行でやってきたラクダ飼いがフブスグル湖を見て、「わあー、何と広いんだろう。この湖がこんなにすごく大きいとは全く思わなかったよ。＜井戸の蛙は海の大きいことを知らない、海の亀は井戸の小さいことを知らない＞というのはまさに本当のことだなあ」と自分の隣の人におもしろげに話した。

81. Хуучин үгэнд худалгүй

Худгийн усанд загасгүй

故事に嘘なし

井戸水に魚なし

<説明>

“井戸水に魚はいないように、昔からのいわれに嘘はない”というたとえから、一般に＜昔から伝統的に言い伝えられてきた故事ことわざの類は、どれも真実であり、嘘偽りはないものだ＞という意を示す。

<類義>「譬^{たとえ}に嘘^{うそ}なし坊主^{ぼうず}に毛^けなし」

(たとえやことわざは、人生の心理を言い表していて、嘘はない、ということ)

「昔^{むかし}から言^いう事^{こと}に嘘^{うそ}はない」

(昔から言い伝えられてきた言葉は、多くの先人の経験に基づいたものであり、世の中の真理である、ということ)

<例文>

Монгол ардын аман зохиолын хичээл дээр багш маань зүйр цэцэн үг болон сургаал үгийн талаар сонирхолтой лекц уншиж, хамгийн эцэст нь :

“Өнө эртнээс уламжлан ирсэн зүйр цэцэн үг, сургаал үг бол амьдрал практикаар нэгэнтээ нотлогдож шалгагдсан үнэн бодит зүйлс байдгийг нь онцлон хэлмээр байна. Ийм ч учраас

Хуучин үгэнд худалгүй

Худгийн усанд загасгүй хэмээн хэлдэг юм шүү дээ” гэж хэлэв.

モンゴル民間口承文芸の授業で、うちの先生はことわざと教訓に関して興味深い講義をし、一番最後に「ずっと昔から伝わってきたことわざや教訓は、実際の生活ですでに証明され検証された真実の事柄であることを特に言いたい。だからこそ、<故事に嘘なし、井戸水に魚なし>というんですよ」と言った。

82. **Хүн хөгширвөл**

Хүүхэд нохойн доог болдог

人は年を取れば

子供や犬の笑いものになる

<語句>

- доог болох … 《(人の)笑いものになる、(人に)からかわれる》

<説明>

“人は年を取れば子供や犬の笑いものになる”というたと

えから、一般にくかつてどんなに優れた人も年を取ると、体力が衰え、みんなからばかにされるようになる>という意を示す。

<類義>「年寄れば犬も侮る」

(年を取ると、体も弱り力も衰えてくるので、だれからもばかにされる、ということ)

「麒麟も老いては駑馬に劣る」

(どんなに優れた人も年を取ると、能力や働きが普通の人にも及ばなくなる、ということ)

<例文>

Жигмэд даага цаламдаад, татаж зогсоож чадалгүй алдчихжээ. Үүнийг харж байсан хэдэн залуу “Арай ч дээ!” гэсэн янзтай ха ха инээлдэхийг сонсоод, Цоодол: “Хөөрхий дөө. Жигмэд маань залуудаа мөн ч бяр чадалтай эр байж билээ. Нас нь ахиад ирэхээр, чадал тэнхээ нь ч үгүй болж дээ, хөөрхий.

Хүн хөгширвөл

Хүүхэд нохойн доог болдог гэдгийн үлгэр л болж байна даа” хэмээн бодсон байна.

ジグメドは二歳の子馬を投げなわで捕まえ、引き止めることができず逃がしてしまった。これを見ていた数人の若者が「全くもう何てことだ!」といった様子で、はっはっとうるのを聞いて、ツォードルは「かわいそうに。ジグメドは若いときは本当に力の強い男だったんだよ。年を取ってくると、体力もなくなったんだ、かわいそうに。<人は年を取れば子供や犬の笑いものになる>という例えの通りになっているな」と思ったのである。

83. **Хүн хүний хүчинд**
Загас усны хүчинд

人は人の力で

魚は水の力で

<同義>

Дэм дэмэндээ 助けは助けて

Дээс эрчиндээ 繩はねじれで

<説明>

“人は人の力で、魚は水の力で生かされる”というたとえから、一般に<人は互いに協力し助け合うことで、うまく生活していくものである>という意を示す。

<類義>「世は相持ち」

(世の中は互いに助け合うことで成り立っている、ということ)

<例文>

Тэрбиш: Эдийн засгийн шилжилт, өөрчлөлтийн энэ хүнд бэрх үед амьдрал ахуй ямархуу байна даа ?

Тулгаа : Нэг муу юм болж л байна гэх үү дээ.

Хүн хүний хүчинд

Загас усны хүчинд амьдардаг гэдгийг

ёстой нэг өөрийн биеэр ойлгож ухаарлаа.

Хамаатан ах дүү, танил нөхдийн буянд яаж ийгээд болж л байна.

Тэрбиш: Боломжийн ажил хунар олдвол аштай юу даа ?

Тулгаа : Чухам аа чухам. Гэхдээ мань мэтийн дээд сургууль төгсөөгүй хүнийг ажилд авах нь өдрийн од шиг ховорхон байдаг бололтой.

テルビシ：経済の移行、変革のこの厳しい時期に生活はどんなふうだい？

トルガー：悪いなりに何とかやっているとでも言おうか。

＜人は人の力で、魚は水の力で＞生活するものだということを、まさに身をもって実感した。親類兄弟や知り合いの人たちのおかげでどうにかこうにかやっている。

テルビシ：まずまずの仕事が見つかればいいんじゃない？

トルガー：まさにその通りだ。でも、おれのような大学を卒業していない者を雇うのは、昼の星のようにごくまれなようだ。

- боломжийн まずまずの、まあまあの (= зүгээр)

84. Хүн хэрээрээ

Тэмээ тэнгээрээ

人は力に応じて

ラクダは荷に応じて

<語句>

- хэр … 《力量、能力；範囲、限界》
- тэн … 《ラクダの背に振り分けた荷》

<説明>

“ラクダは荷に応じて物を運び、人は自分の力に応じて行動するものだ”というたとえから、一般に＜人は誰でも自分の力の及ぶ範囲というものがあり、その範囲内で何事も行うべきである＞という意を示す。

<類義> 「器量によりて荷をば持て」

(力に応じた荷を背負うのがよいの意から、人は自分の能力に応じたことをすべきである、ということ)

<例文>

VIII сарын эхээр Зэгстэйн голд хадланд гарсан залуус ажлын эхний өдрөө зөндөө олон бухал өвс хадацгаажээ. Гэтэл Насанбат хоёрхон бухал өвс хадсан байсанд, бусад нь гайхсан янзтай: “Ердөө л иймхэн өвс хадсан юм уу?” хэмээн асуужээ. Насанбат иймэрхүү асуулт ирнэ гэж урьдаас мэдэж байсан юм шиг:

“Хүн хэрээрээ

Тэмээ тэнгээрээ гэдэг биз дээ. Над шиг бие хаа муугай амьтанд хэцүү ажил, шулуухан хэлбэл ахадсан ажил байна” гэж хээвнэг хариулсан байна.

8 月の初めにゼクステイ川に草刈りに出かけた若者たちが、仕事の初日に随分たくさん、山に積み重ねた草を刈った。ところが、ナサンバトはわずかふた山だけの草を刈ったので、他の者は驚いた様子で「たったこれだけしか草を刈らなかつたのか」とたずねた。ナサンバトは、こんな質問がくるとあらかじめ知っていたかのように、「<人は力に応じて、ラクダは荷に応じて>というだろ。僕のように体が丈夫でない者にはつらい仕事、正直に言うと、手に負えない仕事だ」と平気で答えたのである。

・ ахдах 力の及ばない、多すぎる (= хүч хүрэхгүй)

85. Хүний олон

Хүнээ барьдаггүй

大勢は

一人を食わない

<語句>

- ・ барих … ここでは《かみつく、くいつく》の意。
- ・ この後に、2行目として次の表現が省略されているようである。

Нохойн олон нохойгоо барьдаг

多くの犬は一匹にかみつく

<説明>

“(多くの犬は一匹にかみつくが、)大勢の人は一人にくいつくことはない”というたとえから、一般にく大勢の人が寄ってかかって、一人に食ってかかり、いじめるようなことは、不公平であり、良識ある人間として到底できないことである>という意を示す。

このことわざは、大勢が一緒になって一人をいじめるときに言う表現である。

<類義>「多勢たぜいに無勢むぜい」

(多人数を相手に少人数で立ち向かっても、とても勝ち目はない、ということ)

<例文>

Сумын засаг даргаар сонгогдоод, гурван сар ч болоогүй байгаа Энхтайванг малчдын сууриар орж, өвөлжилтийн бэлтгэлээ хэрхэн хангаж байгаатай биечлэн танилцаж явахад нь гурав дөрвөн халамцуухан залуу дайралдаж : “Чи сонгуульд том амлаж байж ялчихаад, хүний нүдэнд харагдахуйц юм юу ч хийхгүй байна” гэхчлэн элдвээр шүүмжилжээ. Тэгэхэд нь Энхтайван : “Миний ажлыг та хэдийн хэмжүүрээр арай ч дүгнэхгүй байх аа ! Архиныхаа халуунд оодорч, хамаа намаагүй юм ярьж, ажлаа хийж яваа хүнийг ам

нийлүүлэн доромжлох чинь тийм ч сайн зүйл биш дээ.

Хүний олон

“Хүнээ барьдаггүй юм шүү” гэж ширүүхэн хэлсэнд,
цаад хэд нь амаа үдүүлсэн юм шиг таг дуугүй
болцгоожээ.

ソムの行政長に選ばれて、三ヶ月も経っていないエンフタイワンが牧民居住地に入り、冬じたくの準備をどのように十分行っているのか自ら知りに行ったとき、三、四人のほろ酔いかげんの若者と出会い、(エンフタイワンに)「おまえは選挙で大きな約束をして勝っておきながら、目に見えるようなことは何もしない」などといろいろと批判した。そのとき、エンフタイワンは「私の仕事をあなたら数人のはかりで少しも結論づけられないだろう。酒の勢いで調子に乗り、何でもかんでも話し、自分の仕事をしている人のことを口をそろえて侮辱するのはそんなによいことじゃないね。＜大勢は一人を食わない＞ものだぞ」と厳しく言ったところ、彼らは口をふさがれたかのように、全くおし黙ってしまった。

86. **Хүний хэрэг бүтвэл**

Өөрийн үйлс бүтдэг

他人の事がうまく行けば

自分の行いもうまく行く

＜説明＞

“他人の事がうまく行けば自分の行いもうまく行く”というたとえから、一般に＜人のためにすれば結局は自分のためになる、人に徳を施せば、いずれは必ず自分に返ってくるものだ＞という意を示す。

<類義>「情けは人の為ならず」

(人に情けをかければ、そのよい報いは必ず自分にも返ってくるものだ、ということ)

<例文>

Ээж : Чи яагаад талх, сүүгүй хов хоосон ирж байгаа юм бэ ?

Хүү : Дэлгүүр лүү явж байтал, Амгалан ахын машины дугуй нь хагарчихсан, замын хажууд засаад зогсож байсан. Тэгэхээр нь түүнд тус дэм болох санаатай ажилд нь элбэлцэж байтал хүнсний дэлгүүр хаачихсан.

Ээж : Өө тэгвэл аргагүй шүү дээ.

Хүний хэрэг бүтвэл

Өөрийн үйлс бүтдэг жамтай юм хойно,
хүнд л сайн тус үйлдэж явбал хожимдоо буян
болох нь зайлшгүй.

母親 : あなたはどうしてパンもミルクも買わず空手で帰ってきたの ?

息子 : 店へ行くところで、アムガラン兄さんの車のタイヤがパンクしてしまい、道端で立って修理していたんです。それで、兄さんを助けるつもりで、そのことに手を貸しているうちに、食料品店が閉まってしまったんです。

母親 : まあ、それじゃ、仕方ないわね。<他人の事がうまく行けば、自分の行いもうまく行く>のが世の常だから、人にさえ善行を施して行けば、将来徳があるのは間違いないわ。

87. Хүнийг хэлэхэд хүрэн эрээн бүргэд шиг

Өөрийгөө хэлэхэд өндгөө дарсан шувуу шиг

他人を言うときは褐色のまだらの鷲のよう
自分を言うときは卵を抱いた鳥のよう

<語句>

- ・ бүргэд … 《鷲》；ただし内蒙古では、この代わりに бар 《虎》が用いられると言う。

<説明>

“他人のことを言うときは褐色のまだらの鷲のように攻撃するが、自分のことを言うときは卵を抱いた鳥のように押し黙る”というたとえから、一般に<他人の欠点はこれ見よがしにひどく批判するが、自分の欠点は全く批判しない>という意を示す。

<類義> 「人の七難ひと しちなんより我が十難わが じゅうなん」

(他人の小さな欠点はすぐに気づくが、自分の大きな欠点はなかなか気づかない、ということ)

<例文>

Наран : Дулмаа сонин хүүхэн шүү. Хүний бурууг хэлэхдээ сайн мөртөө, өөрөө ямар ч буруугүй, өөгүй цэвэр хүн болох санаатай хүн юм.

Болор : Тэр үнэн. Би мэднэ. Өөртөө хир халдаах дургүй, ёстой

Хүнийг хэлэхэд хүрэн эрээн бүргэд шиг

Өөрийгөө хэлэхэд өндгөө дарсан шувуу шиг

л гэсэн үг.

Наран : Харин тийм хүүхэн юм байна.

ナラン : ドルマーは変わった女性よ。人の誤りを言うのが得

意なのに、自分は何の誤りもない、欠点もないきれいな人になろうとしている人なんです。

ポロル：それは本当だ。私は知っている。自分自身を汚されるのが嫌いで、まさにく他人を言うときは褐色のまだらの鷺のよう、自分を言うときは卵を抱いた鳥のよう>ということだ。

ナラン：ええ、そんな女性なんです。

88. Хэлэхэд амархан

Хийхэд хэцүү

言うのは易しい

するのは難しい

<説明>

“言うのは易しい、するのは難しい” というたとえから、一般に<口で言うのは簡単なことだが、それを実行に移すのは大変難しいものだ>という意を示す。

<類義>「言うは易く行^いうは難^{かた}し」

(口で言うのは簡単だが、実行するのは難しい、ということ)

<例文>

Ач хүү нь өвөөдөө : “ Энэ зун амралтаараа зуслангийн байшин барина, ирэх өвөл дулаан газар луу явж үзнэ, түүний дараа жил хувийн машин авна ” гэхчлэн бодож санаж яваагаа ний нуугүй ярьжээ. Өвөө нь ач хүүгийнхээ санаа бодлыг цөмийг нь сайтар сонссоны эцэст : “ Аливаа юмыг төлөвлөхөд өөрийн биеэс хамаарахгүй элдэв бэрхшээлүүд гэв гэнэт гараад ирдгийг урьдчилан тооцоход илүүдэхгүй шүү. Ер нь аливаа зүйлийн тухай

Хэлэхэд амархан

Хийхэд хэцүү гэдэг нь хэнд ч ойлгомжтой. Бас мөнгө төгрөгний чинь бололцоо зүгээр юм уу ?” гэж асуусан байна.

孫息子は自分のおじいさんに「この夏は休み中に別荘の建物を建てる、来年の冬は暖かい所へ行ってみる、その次の年は自家用車を買う」などと考え思っていることを率直に話した。おじいさんは自分の孫息子の考えをすべてしっかり聞いた後で、「何事を計画するときも、自分自身とは無関係に様々な困難が突然起こってくることを前もって考慮するに越したことはないぞ。一般にすべての事柄に関して、＜言うのは易しい、するのは難しい＞というのは誰にでも理解できる。ちなみに、お金の余裕はあるのかい」とたずねたのである。

89. **Хялгана ихэдвэл зуд болдог**

Хялар ихэдвэл сохор болдог

ハネガヤがふえると雪害になる
斜視がひどくなると盲目になる

<語句>

- ・ хялгана … 《ハネガヤ(イネ科ハネガヤ属の植物)》
- ・ хялар … 《斜視の、やぶにらみの》

<説明>

“斜視がひどくなると見えなくなるように、ハネガヤがふえると雪害になる”というたとえから、すなわちく生まれたとき馬の目が斜視で、それがひどくなるのは、後に昼間見えなくなる兆候であるように、春の季節に白色のハネガヤの植物がふえるのは、その年の冬がひどい雪害(ゾド)に見舞われ

る兆候である>という意を示す。

特に1行目は、牧民の長年の経験から生まれた天気予知にまつわることわざである。

<類義>「蕎麦の豊作は大雪」

(ソバの豊作の年は、気温が低く、冬は大雪が降る、ということ)

<例文>

“Баянгол” багийн айлуудад сонин хэвлэл тарааж өгөөд, өчигдөр орой буцаж ирсэн Намсрайгаас сумын засаг дарга Хосбаяр : “ Энэ жилийн газрын гарц ямаршуухан байна даа ?” хэмээн асуусанд, цаадах нь хэсэгхэн зуур бодолхийлж байснаа :

“Өмнөх жилүүдтэй харьцуулахад тийм ч сайн биш. Сониноос хялгана л сүрхий их ургаж дээ.

Хялгана ихэдвэл зуд болдог

Хялар ихэдвэл сохор болдог гэж манай нутгийнхан ярьдаг учраас энэ өвөл хатуухан жил болж магадгүй шүү” гэжээ.

“バヤンゴル” バグ(部落)の家々に新聞や印刷物を配達して、昨晚戻ってきたナムスライにソムの行政長ホスバヤルが「今年の作柄はどんな具合いかね」とたずねると、彼はしばらくの間考え込んでいたが、「前の年と比べると、そんなによくありません。変わったことは、ハネガヤだけがすごくたくさん生えたんですよ。<ハネガヤがふえると雪害になる、斜視がひどくなると盲目になる>とうちの地元の人たちはいうので、この冬はかなり厳しい年になるかもしれないよ」と言った。

90. Цувж явсан бараас

Цуглаж суусан шаазгай дээр

列をなして行く虎よりも

集まって止まったカササギの方がよい

<語句>

・ бараас … 口語では、барнаас と言うことが多い。

<説明>

“列をなして一頭ずつ行動する力の強い虎よりも、群れをなして集まって止まっている力の弱いカササギの方が強い” というたとえから、一般に<個々の力は弱くても、一致団結すれば、どんな強い者でも負かすことができる>とか<団結は力である>という意を示す。

<類義>「衆^{しゅう}力^{りき}功^{こう}あり」

(多数の人が一致団結すれば、成功を収めやすい、ということ)

<例文>

Сүх-Очирын өвөө аав нь нас барахынхаа өмнөхөн хүүхдүүд болон ач гучдаа хандаж : “Хэзээ ямагт өөр хоорондоо эв түнжинтэй байхыг л хичээгээрэй ! Нэг нэгээрээ дур мэдэн явбал, ядарч доройтохын цагт ганцаарддаг юм. Ийм учраас бие биедээ чадах ядахынхаа хэрээр тус дэм болж яваарай !

Цувж явсан бараас

Цуглаж суусан шаазгай дээр гэдгийг бүү мартаарай !” хэмээн гэрээсэлжээ.

スフオチルのおじいさんは、なくなる直前に子供たちと孫、やしゃごに向かって「いつどんなときもお互いに仲良くする

ことだけを心がけなさい。一人一人が好き勝手に行えば、困窮し弱ったときに一人ぼっちになるものだ。だから、お互いにできる限り助け合って行きなさい。〈列をなして行く虎よりも集まって止まったカササギの方がよい〉ということをお忘れないように」と遺言した。

91. Цэцэн үг цээжинд

Цэцэг навч ууланд

格言は胸に

草花は山に

〈説明〉

“草花がいつも山に咲くように、格言はいつも人の記憶にある”というたとえから、一般に〈韻を踏んだ美しくすばらしい格言・金言の類は、いつでもすぐに口をついて出てくるものである〉という意を示す。

〈類義〉「咳唾珠を成す」

(何気なく口から出る言葉が美しい名文句であるの意で、詩文の才能が豊かですぐれている、ことのたとえ)

〈例文〉

Юм л бол толгой холбон, алиа марзан маягаар ярихыг эрмэлздэг Батбилэгээс нэгэн найз нь :

“Чи яаж ингэж толгой холбож, бэлэн зэлэн сайхан ярьж чаддаг юм бэ?” гэж асуусанд, тэрээр өөдөөс нь ер түгдэрсэн янзгүй :

“Цэцэн үг цээжинд

Цэцэг навч ууланд байдаг юм чинь, ядаад байх юмгүй дээ” хэмээн хээвнэг хариулжээ.

しょっちゅう韻を踏んで、おどけた様子で話そうとたくらんでいるバトビリグに、彼の一人の友達が「おまえはどうやってこんなに韻を踏んで、すぐに上手に話すことができるのか」とたずねたところ、彼は友達に向かって、全くよどみなく「＜格言は胸に、草花は山に＞あるものだから、むずかしいことはないよ」と平気で答えた。

92. Чонын амнаас гараад

Барын аманд орох

狼の口から出て

虎の口に入る

<説明>

“狼の口から出て虎の口に入る”というたとえから、一般に＜一つの小さな災難を逃れたと思ったら、今度は別の大きな災難に見舞われる＞という意を示す。

<類義> 「一難去ってまた一難」

(一つの災難をやっと切り抜けたと思ったら、また別の災難が降りかかってくる、ということ)

「虎口を逃れて竜穴に入る」

(虎に食われる危険から逃れたと思ったら、今度は竜のすむ穴に入り込んでしまうの意から、災難が次から次へと降りかかる、ことのたとえ)

<比較>

モンゴル語： чоно 《狼》 → бар 《虎》

日本語： 「虎」 → 「竜」

<例文>

Буян : Манай үйлдвэрийн дарга саяхан солигдсоныг чи сонсож дуулсан уу ?

Даян : Сонсолгүй яах вэ.

Буян : Шинэ даргыг хуучин даргатай харьцуулбал
ямархуу хүн бэ ?

Даян : Хуучин даргатай чинь жишиж харьцуулахын
аргагүй хатуу ширүүн айхавтар зарчимч хүн. Та
нар

Чонын амнаас гараад

Барын аманд орох чинь энэ дээ.

ボヤン:うちの工場長がつい最近変わったことを君は聞いた
かい?

ダヤン:もちろん聞いたよ。

ボヤン:新しい上司は前の上司と比べるとどんなふうな人な
の?

ダヤン:前の上司とは比べものにならないくらい厳しくて、
ものすごく原則に忠実な人だ。あなたたちが<狼の
口から出て虎の口に入る>というのはこのことだ
ね。

93. Чулууг чулуу дийлдэггүй

Чулууг ус л дийлдэг

石を石が負かせない

石を水だけが負かせる

<説明>

“石を石が負かせない、石を水だけが負かせる”というたとえから、一般に<強硬な者に対しては、強硬な方法ではなく、柔軟な方法でかわすことにより相手を負かすことができる>、つまり<剛に対しては剛ではなく、柔で対処すべきで

ある>という意を示す。

<類義>「柔能く剛を制す」

(柔軟で弱いものが、そのしなやかさによって、堅固で強いものに勝つことができる、ということ)

<例文>

Удирдаж ажилладаг зарим нэг хүнтэйгээ үе үе ам муруйж, хэл амаа ололцохдоо тааруухан Энхбаярт тус компанид насаараа алба хашиж байгаа Ёндон гуай :
“ Олон хүний ая эвийг тааруулна гэдэг чинь үнэхээрийн хэцүү. Гэхдээ

Чулууг чулуу дийлдэггүй

Чулууг ус л дийлдэг учраас зарим нэг хүнтэй бол сөргөөлцөж ширүүлэх аргаар бус, харин ч зөөлөн аядуухан аргаар харьцвал зохино ” хэмээн зөвлөгөө өгсөн байна.

指導的な仕事をする一部の人と時々口論し、よく話し合っ
て解決するのが苦手なエンフバヤルに、その会社に生涯ずつ
と勤務しているヨンドンさんが「たくさんの人をうまく調和
させるといのは、本当にむずかしい。しかし、<石を石が
負かせない、石を水だけが負かせる>ので、一部の人とは逆
らったり厳しくしたりする方法ではなく、逆にやわらかくや
さしい方法で接するべきだ」と忠告したのである。

・ хэл амаа ололцох よく話し合っ
て解決する

94. Шөлөөр цадаж Төлөөр баяждаг

スープで満腹になり
家畜の子で豊かになる

<語句>

- ・ шөл …ここでは、肉だけを入れて煮たスープ、すなわち《肉汁(хар шөл)》の意。

<説明>

元来は<家畜の子を健康に育ててふやし、スープだけの質素な食事にも満足して暮らす>という意味であるが、実際の会話では、スープの汁が多すぎた食事を食べるときに、このことわざを用いることが多い。

<類義>「粥腹かゆばらも一時いっとき」、「茶腹ちやばらも一時いっとき」

(粥でも茶でも、しばらくは空腹はしのげるの意から、わずかなものでも一時しのぎの助けになる、ということ)

<例文>

Оройн хоолон дээр авгай нь :“Уучлаарай, нэгдүгээр хоол маань арай л шөлтэйвтэр болчихсон юм шиг байна” гэж ихэд санаа зовсон байдалтай хэлсэнд, нөхөр нь : “Ийм айхавтар хүйтэн өдөр халуун шөл шиг хэрэгтэй юм хаа байхав. Ер нь

Шөлөөр цадаж

Төлөөр баяждаг гэдэг биз дээ хө” хэмээн тайтгаруулжээ.

夕食で奥さんが「ごめんなさい、スープ料理が少しばかり汁が多くなってしまったようなの」とひどく心配した様子で言ったところ、彼女の夫は「こんなにもものすごく寒い日に暖かいスープほど必要なものはどこにもないよ。一般に<スープで満腹になり、家畜の子で豊かになる>というだろ」となぐさめた。

- нэгдүгээр хоол スープ料理

95. Эд мэдэхгүй хүн

Эдийн нэр гутаадаг

物を知らない人は
物の名を汚す

<説明>

“物を知らない人は物の名を汚す”というたとえから、一般に<物の本当の価値がわからない人は、それを正しく評価、判断することができないため、とかく軽んじてその名を傷つけるものだ>という意を示す。

<類義>「猫に小判」

(どんなに貴重なものでも、その価値がわからない者には、何の役にも立たない、ということ)

<例文>

Ааваасаа өвлөж авсан томоо гэгчийн халтар манан хөөргөө Хишигдорж задгай өвөртөлж явахад нь түүнийг хар багаас сайн таньж мэддэг нэгэн өвгөн :

“Чи ийм сайхан хөөргийг ингэж задгай өвөртөлж явах чинь үнэхээрийн тусгүй байна даа. Даалин савгүйгээр хөөрөг хэрэглэдэг хүн байдгийг өдий наслахдаа анх удаал үзлээ. Чамайг хэн ч харсан

Эд мэдэхгүй хүн

Эдийн нэр гутаадаг гэдэг ясан үнэн юм бэ гэх нь гарцаагүй” гэхчлэн өөрийн санаж бодсоноо илэн далангүй хэлсэн байна.

自分の父親から遺産としてもらった大きめの茶色っぽい、めのうの嗅ぎタバコ入れを、ヒシグドルジがそのまま懐に入

れていると、彼のことをずっと小さいときからよく知っている一人の老人が「おまえはこんなにすばらしい嗅ぎタバコ入れを、このようにそのまま懐に入れているというのは、本当によくないね。袋に入れなくて嗅ぎタバコ入れを使う人がいるとは、今まで生きていてまさに初めて見たよ。おまえのことを誰が見ても、〈物を知らない人は物の名を汚す〉というのは、何と本当のことかと言うのは間違いない」などと自分の思ったことを率直に言ったのである。

96. Эзэн нь юмаа мэддэг

Эрэг нь усаа хашдаг

主人は持ち物を管理する

岸は水をさえぎる

<説明>

“主人は自分の持ち物を管理する、川岸は川の水をさえぎる”というたとえから、一般に〈持ち主は、自分の持ち物を管理しているので、持ち物のことは、その持ち主に聞くべきである〉という意を示す。

このことわざは、通常、人の物はその本人の許可なしで使ってはいけないという文脈で用いられる。

<参照> 「持ち物は主に似る」

(持ち物は、その持ち主の性格を表す、ということ)

<例文>

Хашааных нь гадаа хэвтэж байсан хүрзийг аваад, гэрийнхээ хажууд шуудуу ухаж байтал Дашбадрах нэлээн ууртай хүрч ирээд: “Хүний юмыг авахдаа хэлж, заавал зөвшөөрөл авах хэрэгтэй шүү! Хайж зөндөө цаг алдлаа” гэж хэлэнгээ, хүрзээ аваад явсны дараа шуудуу

ухаж байсан хоёр хүний нэг нь нөгөөдөө :

“Эзэн нь юмаа мэддэг

Эрэг нь усаа хашдаг гэдэг ёстой энэ дээ” гэж
ихэд аргагүйдсэн янзтай хэлсэн байна.

(ダシバドラフの)塀の外に置いてあったシャベルを取って、(二人の人が)自分の家の横に溝を掘っていると、ダシバドラフがかなり怒ってやってきて、「人の物を取るときは、言って必ず許可を得なければならないぞ。探して随分時間をむだにした」と言いながら、自分のシャベルを持って行った後で、溝を掘っていた二人のうちの一人が、もう一方に「<主人は持ち物を管理する、岸は水をさえぎる>というのは、まさにこのことだね」とひどくどうしようもない様子で言ったのである。

97. Элгэн хад өөд

Төлгөн хуц мөргөнө

岸壁に向かつて

二歳の種羊が角で突く

<語句>

- элгэн хад … 《岸壁》 (= ханан хад)
- төлгөн хуц … 《二歳の種羊》、ここでは《未熟者》のたとえ。

<説明>

“二歳の羊は、まだ小さくて未熟なため、羊と誤って岩に向かつて角でぶつかるような馬鹿げたことをする”というたとえから、一般に<人は若いときは知識や経験不足から何かと失敗するものだ>という意を示す。

<類義> 「若氣わかげの至いたり」

(若さにまかせて無分別な行動をしてしまう、ということ)

<例文>

Мэргэжлийн боксын тэмцээнд оролцохоор зориг шулуудаж, нэрээ бүртгүүлсэн Баатаржавд хадам аав нь :
“Энэ бол чам шиг боксын спортоор хичээллээд, бүтэн хоёр жил ч болоогүй хүний санаархдаг юм биш байх шүү. Ёстой нөгөө

Элгэн хад өөд

Төлгөн хуц мөргөнө гэдгийн өрөөсөн дугуй болж, хүн амьтны элэг доог болуузай” хэмээн болгоомжлуулан хэлжээ.

プロボクシングの試合に出るため、意を決し、名前を登録したバータルジャブに彼の義理の父親が「これは、おまえのようにボクシングのスポーツを学んで、まる二年も経っていない人のたくらむことじゃないぞ。まさに例の<岸壁に向かって二歳の種羊が角で突く>という悪い例えとなって、人々の笑いものにならないように」と注意して言った。

・ өрөөсөн дугуй (～гутал, ～бөөр) “片方のタイヤ (～靴、～腎臓)” が原義であり、《同じ穴あなの貉くさび(同じ悪者であることのたとえ)》の意。

98. Эр хүн долоо дордож

Найм сэхдэг

男は七回落ちぶれ

八回よみがえる

<説明>

“男は七回落ちぶれ、八回よみがえる”というたとえから、一般に<男はたとえ何回失敗してもがんばり続ければ、いつかは必ず成功するものだ>という意を示す。

<類義>「七^{なな}転^まび八^や起^たき」

(七回転んでも八回起きるの意から、何回失敗してもあきらめずにがんばる、ことのたとえ)

<例文>

Банкнаас хэдэн ч удаа өндөр хүүтэй зээл авч, түүнийгээ цаг хугацаанд нь эргүүлэн өгч чадахгүй будилж, гэр орноо зарж явснаа бодоход Энхбаатар одоо овоо зэгсэн амьдрал ахуйгаа дээшлүүлж, эдийн засгийн хувьд ямар ч байсан хөл дээрээ бүрэн босчээ. Энэ байдлыг нүдээрээ үзэж харж байсан найз нөхөд нь :

Эр хүн долоо дордож

Найм сэхдэг гэдгийг сайн ойлгож авсан нь лавтай.

銀行から何回も高利子で貸し付けを受け、それを期限内に返済することができず混乱し、自分の家を売り払ったことを考えると、エンフバータルは、今ではかなり生活を向上させ、経済の点でとにかく完全に自立した。この状況を自分の目で見ていた彼の友人たちは、<男は七回落ちぶれ、八回よみがえる>ということをしっかり理解したのは確かだ。

- хөл дээрээ босох (“自分の足で立ち上がる”が原義)
自立する、独り立ちする

99. Эрийг бүү бас

Далайг бүү янд

男を侮るな

海を量るな

<語句>

・ яндах … 《容器(яндаа)で量る》

<説明>

“海の大きさを小さな器で量るな、男を弱小者だと侮るな”というたとえから、一般に<男の人は、何でもやってのける力をもっているの、弱小者と決して侮ってはいけない>という意を示す。

<類義> 「一寸の虫にも五分の魂」

(どんなに小さい弱い者でも、それ相応の意地があるので、侮ってはいけない、ということ)

<例文>

Эхнэр : Чи зуслангийн байраа хэнтэй хамт засахаар болсон бэ ?

Нөхөр : Лувсан ахын отгон хүүтэй хамт засахаар ярилцаж тохиролцсон.

Эхнэр : Тэр арай л дөнгөхгүй байхаа.

Нөхөр : Дөнгөж ядаад байх юм юу байхав.

Эрийг бүү бас

Далайг бүү янд гэдэг чинь их үнэн үг шүү. Түүнийг бие нь жаахан ч, хар бор ажилд тун сүрхий гэлцдэг юм билээ.

妻 : あなたは別荘の家を誰と一緒に直すことになったの。

夫 : ロブサン兄さんの末っ子と一緒に直すよう話し合って取

り決めた。

妻：彼はまだできないでしょう。

夫：できないことがあるものか。〈男を侮るな、海を量るな〉というのは、全く本当のことだぞ。彼は体が小さくても、単純労働はととてもすごいそうだよ。

100. Юманд учир

Суманд гичир

物に理由

矢に弓筈

<語句>

- сум … 《矢》の意だが、ここでは、нум сум 《弓矢》を代表させている。
- гичир … 《弓筈(弓の両端の弦をかける部分)》

<同義>

Юманд учир 物に理由

Модонд мөчир 木に枝

<説明>

“弓矢には必ず弓筈があるように、物事には必ず理由があるものだ”というたとえから、一般に〈物事にはすべてその原因、理由となるものがある〉という意を示す。

<類義>「物に必至あり、事に固然あり」

(物事にはすべて必然の道理がある、ということ)

<例文>

Өчигдөрхөн шинээр худалдаж авсан эвлүүлж угсардаг тоглоомоо хүүхэд нь учир начрыг нь сайн олохгүй, хамаг цагаа алдаж, хий дэмий шахуу харж суухыг аав нь үзчихээд :

“Зааврынх нь дагуу хийвэл тийм ч бэрх байх ёсгүй дээ хө. Учры нь олбол хийж ядаад байх юм юу байхав. Тийм ч учраас

Юманд учир

Суманд гичир гэж аль дээр үеэс ярьдаг юм шүү дээ” хэмээн хэлжээ.

つい昨日、新しく買ったばかりの組み立て式おもちゃを、子供が要領がよくわからず、すべての時間を無駄にしてほとんどただばく然とながめているのを彼の父親が見つけ、「説明書の通りに作れば、そんなに難しいはずはないよ。要領がわかれば、できないことがあるものか。だからこそ、<物に理由、矢に弓筈>とずっと昔からいうものだよ」と言った。

補遺 1：モンゴル語と日本語のことわざの比較

本文で挙げた 100 のモンゴル語のことわざを、以下の三つの基準に従って意味の点から分類することを試みた。

- A. 両者の間で、明確な意味の共通点が見られるもの
(本文では、〈類義〉と記した。)
- B. 両者の間で、多少の意味のずれがあるが、共通点の見られるもの
(本文では、〈参照〉と記した。)
- C. 日本語に対応することわざがないもの

ただし、この分類はあくまでも私見による便宜的なものであり、今後の研究によっては、多少の変更が加えられる可能性があることを付記しておく。

また、以下に挙げる番号は、本文の番号と一致するものであり、詳細に関しては、本文の当該箇所の内容を参考にされたい。

A. 両者の間で、明確な意味の共通点が見られるもの

1. Аавын сургаал алт

Ээжийн сургаал эрдэм

父の教えは金、母の教えは学

→ 「親の意見と茄子の花は千に一つも仇はない」

2. Авах хүн бөхийх

Өгөх хүн гэдийх

もらう人は前かがむ、あげる人は反りかえる

→ 「借りる時の地蔵顔、返す時の閻魔顔」

3. Ажил хийж хүн болдог

Ар давж хүлэг болдог

仕事をして人となる、山を越えて馬となる

→ 「仕事^{しごと}が人^{ひと}を鍛^{きた}える」

4. Аз хүү байвал

Ёоз хүүгээр цохидог

運さえあれば、最悪の駒でも勝てる

→ 「運^{うん}に兵法^{へいほう}」

5. Алды нь аваад дэлэм дээр нь

Атгы нь аваад чимх дээр нь

ひと尋^{ひら}を取って半尋^{ひら}のところで

ひと握^{ひら}りを取ってひとつまみのところで

→ 「画^{がり}竜^{りゅう}点^{てん}睛^{せい}を欠^かく」

6. Амьд явбал

Алтан аяганаас ус ууна

生きて行けば、金のお椀から水を飲む

→ 「命^{いのち}長^{なが}ければ蓬^{ほう}菜^{さい}を見^みる」

7. Ах нь сургадаг

Дүү нь сонсдог

兄は教える、弟は聞く

→「雁に長少の列あり」

8. Барын сүүл болохоор

Батганын толгой бол

虎の尾となるよりも、蠅の頭となれ

→「鶏口となるも牛後となる勿れ」

9. Бирдийн нүдэнд

Далай харам

餓鬼の目に海も惜しい

→「吝ん坊の柿の種」

10. Бодоод бодоод

Бодын шийр дөрөв

考えても考えても、大型家畜のすねは4本

→「思案投げ首」、「万策尽きる」

11. Борооны өмнө шороо

Боохойн өмнө хэрээ

雨の前に土ぼこりが、狼の前に烏が

→「山雨来らんと欲して風楼に満つ」

12. Буруу өссөн хүүхэд

Бухын хүзүүнээс хэцүү

曲がって育った子供は、種牛の首よりもやっかい

→「年劫の兎」

13. Бэлгийн морины шүд үздэггүй

贈り物の馬の歯を見るものではない

→「貰い物に苦情」

15. Гараа сайн бол

Бариа сайн

スタートがよければ、ゴールはよい

→「始めよければ終わりよし」、「始めが大事」

16. Гуйна гэдэг гутамшиг

Гуйлгана гэдэг гайхамшиг

頼むのは不名誉なこと、頼まれるのは光栄なこと

→「頼むと頼まれては犬も木へ登る」、「武士の頼みは一度に限る」

17. Даварсаар даварсаар

Дагвын орон дээр

度を越えに越えて、ダグワのベッドの上に

→「負ぶえば抱かりよう」

18. Далай усаар ханадаггүй

Мэргэд номоор ханадаггүй

海は水で満ちることはない

賢者は本に飽きることはない

→「学ばず厭わざるは智なり、教えず倦まざるは仁なり」

19. Дуугүй хүний

Доодох нойтон

無口な人の下半身は濡れている

→「黙り虫壁を通す」

21. Дээд уруулдаа хүргэмгүй

Дэргэдэх хүндээ өгөмгүй

上の唇に触れさせたくない、傍の人にあげたくない

→「頬が落ちる」、「ほっぺたが落ちる」

22. Ёс ёмбогор

Төр төмбөгөр

慣習は突出した、法は隆起した

→「所の法に矢は立たぬ」

23. Жилдээ сайн явсан нь шинэлэхэд мэдэгдэнэ

Залуудаа сайн явсан нь наслахад мэдэгдэнэ

一年間うまく行ったかは新年を迎える時わかる

若い時うまく行ったかは年を取る時わかる

→「夏歌う者は冬泣く」

24. Залгиж идвэл хор болно

Зажилж идвэл хоол болно

飲み込んで食べれば毒になる

かんで食べれば食事になる

→「腹も身の内」

25. Зуу дахин сонссоноос

Нэг удаа үзсэн нь дээр

百回聞くよりも、一回見た方がよい

→「百聞は一見に如かず」

26. Зүйргүй үг байдаггүй

Зүйдэлгүй дээл байдаггүй

比喩のない言葉はない、継ぎ目のないデールはない

→「譬に漏れたる事はなし」、「譬と豆腐汁は捨てるどころがない」

27. Зүсээ мэдэхгүй толио муулах

Зүрхээ мэдэхгүй ханиа муулах

自分の顔を知らずに鏡の悪口を言う

自分の心を知らずに友の悪口を言う

→「堂が歪んで経が読めぬ」

28. Идсэн эрүү хувхайрна

Идүүлсэн бут ургана

食べたあごは干からびる
食べられた低木は生育する

→「人を呪わば穴二つ」

29. Идэхдээ эр бар

Хийхдээ хашин бух

食べるときは雄の虎、するときはのろい種牛

→「怠け者の食い急ぎ」

31. Их ч барьсан өмхий

Бага ч барьсан өмхий

多くつかんでも悪臭、少なくつかんでも悪臭

→「毒を食らわば皿まで」

32. Ишиг эврээ ургахаар

Эхийгээ мөргөх

子山羊は角が生えると、母親を角で突く

→「恩を仇で返す」、「後足で砂をかける」

33. Мал тэжээвэл ам тосдоно

Хүн тэжээвэл толгой цустана

家畜を養えば脂を口にする

人間を養えば頭をとられる

→「恩を知らぬは畜生にも劣る」

34. Мал удах тусмаа дасдаг

Хүн удах тусмаа уйддаг

家畜は時がたつにつれて馴れる

人間は時がたつにつれて飽きる

→「牛馬三十日嚙二十日」

35. Могой алахад

Мод нэмэргүй

蛇を殺すのに、木は役立たない

- 「^が ^き ^お ^が ^ら 餓鬼に芋殻」
36. Муу дээр муу
Муухай дээр улцан
悪い上に悪い、醜い上に涙目
→ 「^な ^つ ^ら ^は ^ち 泣き面に蜂」、「^よ ^わ ^め ^た ^た ^め 弱り目に祟り目」、「^は ^じ ^う ^わ ^ぬ 恥の上塗り」
37. Муу муудаа эрэлхүү
Муна гадсандаа эрэлхүү
弱者は弱者に強い、槌は杭に強い
→ 「^か ^す ^ね ^や ^{すり} 蚊の孳に鱧をかける」、「^よ ^わ ^め ^の ^よ ^め 弱い者を夫に取る」
38. Муу явахаар
Сайн үхсэн нь дээр
惨めに生きるよりも、立派に死んだ方がよい
→ 「^{いのち} ^な ^を ^お ^し ^む 命より名を惜しむ」
39. Мэсний шарх эдгэрнэ
Үгний шарх эдгэрэхгүй
刃物の傷は治る、言葉の傷は治らない
→ 「^す ^ん ^て ^つ ^ひ ^と ^こ ^ろ 寸鉄人を殺す」
40. Нар дагавал даардаггүй
Ноён дагавал өлсдөггүй
太陽に従えば凍えることなし
領主に従えば飢えることなし
→ 「^{なが} ^い ^{もの} ^{には} ^ま ^か ^れ ^ろ 長い物には巻かれろ」
41. Нөхрөө харж биеэ зас
Сүүдрээ харж бүсээ зас
友を見て自らを直せ、影を見て帯を直せ
→ 「^{ひと} ^の ^ふ ^り ^み ^て ^わ ^が ^ふ ^り ^な ^せ 人の振り見て我が振り直せ」
42. Нэг үхрийн эвэр дэлсэхэд
Мянган үхрийн эвэр доргино

一頭の牛の角をたたくと、千頭の牛の角が揺れる

→「一波いっばわずかに動うごいて万波ばんば随まう」

43. Нэг чихээр ороод

Нөгөө чихээр гарах

一方の耳から入って、他方の耳から出る

→「右みぎの耳みみから左ひだりの耳みみ」、「馬ば耳じ東風とうふう」

44. Олны дотор үгээ шинж

Ганцаараа явахдаа сэтгэлээ шинж

大衆の中で自分の言葉を調べよ

一人でいるときに自分の気持ちを調べよ

→「三みたび吾わが身みを省かえりみる」

45. Олон хэлбэл улиг

Цөөн хэлбэл билэг

多く言えば迷惑、少なく言えば知恵

→「下か手たの長談義ながだんぎ」

46. Оролдвол нэгийг бүтээдэг

Уралдвал нэг нь түрүүлдэг

努力すれば何かを実現する

競争すれば誰かが先頭に立つ

→「為なせば成なる」

47. Орох оронгүй

Оочих аягагүй

入る家のない、すする器のない

→「赤貧せきひん洗あらうが如ごとし」

48. Өвстэй газар мал тогтдоггүй

Жаргалтай газар хүн тогтдоггүй

草のある所に家畜はとどまらない

幸せのある所に人はとどまらない

- 「^{うつ}移りやすきは^{ひとごころ}人心」
49. Өлсөхдөө идээний амтыг мэдэх
 Даарахдаа хувцасны дулааныг мэдэх
 空腹のときに食物の味を知る
 寒いときに衣服の暖かさを知る
 → 「^う飢えては^{しよく}食を^{くら}扱はず」
50. Өөрийн санаа өөртөө зөв
 Өрөөл даавуу өмдөндөө зөв
 自分の考えは自分に正しい
 半分の布地はズボンに十分
 → 「^わ我が^{てら}寺の^{ほとけとうと}仏尊し」
51. Өөрийн толгой дээрх тэмээг харахгүй байж
 Өрөөлийн толгой дээрх өвсийг харах
 自分の頭の上のラクダを見ないで
 他人の頭の上の草を見る
 → 「^{めくそはなくそ}目糞鼻糞を^{わら}笑う」
52. Өсөх малын зүс нэг
 Өөдлөх айлын үг нэг
 繁殖する家畜の毛色は一つ
 繁栄する家庭の言葉は一つ
 → 「^{かないわはく}家内和睦は^{ふくのかみ}福神の^{まつり}お祭」
53. Саваагүй нохой
 Саранд хуцах
 物好きな犬は、月に吠える
 → 「^{ひと}人の^{たの}頼まぬ^{きょう}経を^よ読む」
54. Сайн хүн санаагаараа
 良い人は自分の思いのままに
 → 「^{うわさ}噂をすれば^{かげ}影がさす」

55. Сайн хүнд нөхөр олон

Сайн моринд эзэн олон

良い人に友人は多い、良い馬に主人は多い

→「名よき島に木寄る」

56. Сайн хүний нэрийг

Долоо худалдаж идэх

良い人の名前を、七回売って食べる

→「親の光は七光」、「親の七光」

57. Сайн эм аманд гашуун боловч өвчинд тустай

Шударга үг чихэнд хатуу боловч явдалд тустай

良薬は口に苦くても病気に効果あり

真実は耳につらくても行動に効果あり

→「良薬は口に苦し」、「忠言耳に逆らう」

58. Сиймхий ч гэсэн гэр минь

Сэгсгэр ч гэсэн ээж минь

ぼろぼろであってもわが家

ぼさぼさであってもわが母

→「我が家樂の釜鹽」

59. Сонин дээрээ соохолзох

Сониноо буурахаар хоохолзох

珍しいときは興味を示す

興味が失せると目もくれない

→「熱し易く冷め易い」、「沸きが早いは冷め易い」

60. Суусан газраасаа

Шороо атгах

座った所から土をつかむ

→「転んでもただ(で)は起きぬ」

61. Сүүнд халсан хүн

Тараг үлээнэ

ミルクでやけどした人は、タラグを吹く

→「^{あつもの}羹に^こ懲りて^{なます}膾を^ふ吹く」

62. Танихгүй бурхнаас

Таньдаг чөтгөр дээр

知らない仏よりも、知っている鬼がよい

→「^し知らぬ^{ほとけ}仏より^な馴染^{おに}みの鬼」

63. Тоонотой гэрт толгой холбож

Тостой шөлөнд хошуу холбох

天窓のゲルで共に暮らし

脂身のスープを共に食する

→「^{ひと}一つ^や屋根^{した}の下に^す住む」、「^{ひと}一つ^{なべ}鍋^{もの}の物を^く食う」

64. Туулайн чинээ юмыг

Уулын чинээ болгох

兎ほどのことを、山ほどにする

→「^{はり}針ほどのことを^{ぼう}棒ほどに^い言う」、「^{しんしょうぼうだい}針小棒大」

65. Тэнгэрийн муухай арилдаг

Хүний муухай арилдаггүй

天氣の悪いのは晴れる、人間の悪い所は消えない

→「^{やまい}病は^{なお}治るが^{くせ}癖は^{なお}治らぬ」

66. Тэнүүн явахад тэмээгээр тусалснаас

Тэвдэж явахад тэвнээр тусалсан нь дээр

落ちていてるときラクダで助けるよりも

あわてていてるとき縫針で助ける方がよい

→「^{ちやうじや}長者の^{まんとう}万灯より^{ひんじや}貧者の^{いっとう}一灯」

67. Ураг төрлийн хол нь дээр

Ус цасны ойр нь дээр

親戚は遠いのがよい、水は近いのがよい

→「親しき仲に垣をせよ」

69. Усны эх нь булинггартай бол

Адаг нь булинггартай

水源が濁っていれば、河口は濁っている

→「始めが大事」、「始めよければ終わりよし」、
「源清ければ流れ清し」

70. Уулын цаанаас ураг бололцох

Усны цаанаас худ бололцох

山の向こうから親戚になる

川の向こうから姻戚になる

→「同姓娶らず」

71. Ухаангүй ноёнд

Урагшгүй албат

知恵のない領主に、出来の悪い家臣

→「主が主なら家来も家来」

72. Үйлгүй хүүхэн дууламхай

Сүүгүй үнээ мөөрөмхий

裁縫のできない女はよく歌う

乳の出ない牛はよく鳴く

→「鳴く猫は鼠を捕らぬ」、「能なしの口叩き」

73. Үхнэ үхнэ гэж үхрийн мах барах

Явна явна гэж ямааны мах барах

「死ぬ、死ぬ」と言って牛の肉を食べ尽くす

「行く、行く」と言って山羊の肉を食べ尽くす

→「雪山の鳥今日よ明日よと鳴く」

74. Хааны алба халаатай

Эзний алба ээлжтэй

王様の勤めに交替あり、主人の務めに交代あり

→「榮枯盛衰」

76. Хоёр хэрээ бие биеийнхээ

Харыг гайхах

二羽の鳥が互いの黒さに驚く

→「目糞鼻糞を笑う」

77. Хоолны сайныг хүнд өг

Хувцасны сайныг өөрөө өмс

食事のよいのは人にあげろ

服のよいのは自分で着ろ

→「我が好きを人に振る舞う」

78. Хорт сумаар нэгийг алдаг

Хорон үгээр мянгыг алдаг

毒矢で一人を殺す、毒舌で千人を殺す

→「舌の剣は命を断つ」

79. Хувцас бурхан

Бие чөтгөр

服は仏、体は鬼

→「鬼に衣」

80. Худгийн мэлхий далайн ихийг мэдэхгүй

Далайн мэлхий худгийн багыг мэдэхгүй

井戸の蛙は海の大いことを知らない

海の亀は井戸の小さいことを知らない

→「井の中の蛙大海を知らず」

81. Хуучин үгэнд худалгүй

Худгийн усанд загасгүй

故事に嘘なし、井戸水に魚なし

→「譬に嘘なし坊主に毛なし」、「昔から言う事に嘘はない」

82. Хүн хөгширвөл

Хүүхэд нохойн доог болдог

人は年を取れば、子供や犬の笑いものになる

→「年寄れば犬も侮る」、「麒麟も老いては驚馬に劣る」

83. Хүн хүний хүчинд

Загас усны хүчинд

人は人の力で、魚は水の力で

→「世は相持ち」

84. Хүн хэрээрээ

Тэмээ тэнгээрээ

人は力に応じて、ラクダは荷に応じて

→「器量によりて荷をば持て」

85. Хүний олон

Хүнээ барьдаггүй

大勢は一人を食わない

→「多勢に無勢」

86. Хүний хэрэг бүтвэл

Өөрийн үйлс бүтдэг

他人の事がうまく行けば、自分の行いもうまく行く

→「情けは人の為ならず」

87. Хүнийг хэлэхэд хүрэн эрээн бүргэд шиг

Өөрийгөө хэлэхэд өндгөө дарсан шувуу шиг

他人を言うときは褐色のまだらの驚のよう

自分を言うときは卵を抱いた鳥のよう

→「人の七難より我が十難」

88. Хэлэхэд амархан

Хийхэд хэцүү

言うのは易しい、するのは難しい

→「言うは易く行^{やす}うは難^{おこな}し」

90. Цувж явсан бараас

Цуглаж суусан шаазгай дээр

列をなして行く虎よりも

集まって止まったカササギの方がよい

→「衆^{しゅうりきこう}力功あり」

91. Цэцэн үг цээжинд

Цэцэг навч ууланд

格言は胸に、草花は山に

→「咳^{がいだたま}唾珠を成す」

92. Чонын амнаас гараад

Барын аманд орох

狼の口から出て、虎の口に入る

→「一^{いちなん}難去^きってまた一^{いちなん}難」、「虎^{ここう}口を逃^{のが}れて竜^{りゅうけつ}穴^いに入る」

93. Чулууг чулуу дийлдэггүй

Чулууг ус л дийлдэг

石を石が負かせない、石を水だけが負かせる

→「柔^{じゅう}能^{よく}く剛^{ごう}を制^{せい}す」

95. Эд мэдэхгүй хүн

Эдийн нэр гутаадаг

物を知らない人は、物の名を汚す

→「猫^{ねこ}に小^こ判^{はん}」

97. Элгэн хад өөд

Төлгөн хуц мөргөнө

岸壁に向かって、二歳の種羊が角で突く

→「若^{わか}氣^けの至^{いた}り」

98. Эр хүн долоо дордож

Найм сэхдэг

男は七回落ちぶれ、八回よみがえる

→「七なな転ころび八や起おき」

99. Эрийг бүү бас

Далайг бүү янд

男あなどを侮あるな、海はかを量はかるな

→「一いっすん寸すんの虫むしにも五ご分ぶんの魂たましい」

100. Юманд учир

Суманд гичир

物ものに理ひつし由り、矢やに弓ゆ筈はず

→「物ものに必ひつし至しあり、事ことに固こ然ぜんあり」

B.両者の間で、多少の意味のずれがあるが、共通点の
見られるもの

14. Ганган хүний үхэл

Хавар намар хоёрт

おしゃれな人の死は、春と秋に

/ 「春はる寒さむいと秋あきひだるいはこらえられぬ」

20. Дуутай тэнгэр хургүй

Цуутай хүүхэн хуримгүй

雷鳴の空に雨なし、有名な娘に結婚なし

/ 「東ひがし雷かみなり雨あめ降ふらず」

75. Ховч хүний хошуу хүйтэн

Хулгайч хүний нүд хүйтэн

中傷する人の口は冷たい

泥棒する人の目は冷たい

/ 「目めは口くちほどに物ものを言いう」、「人ひとを見みたら泥どろ棒ぼうと思おもえ」

89. Хялгана ихэдвэл зуд болдог
 Хялар ихэдвэл сохор болдог
 ハネガヤがふえると雪害になる
 斜視がひどくなると盲目になる
 / 「蕎麦の豊作は大雪」
94. Шөлөөр цадаж
 Төлөөр баяждаг
 スープで満腹になり、家畜の子で豊かになる
 / 「粥腹も一時」、「茶腹も一時」
96. Эзэн нь юмаа мэддэг
 Эрэг нь усаа хашдаг
 主人は持ち物を管理する、岸は水をさえぎる
 / 「持ち物は主に似る」

C.日本語に対応することわざがないもの

30. Их нь ичиж
 Бага нь уйлах
 大人が恥じて、子供が泣く
68. Уран хүн учиг нэмдэг
 Улцан хүн нулимс нэмдэг
 裁縫の上手な人は糸をそえる
 涙目の人は涙をそえる

補遺 2：日本語のことわざ索引

以下の番号は、本文に挙げたモンゴル語のことわざの見出し語番号と一致するものである。

あ

あつものこなますふ 羹に懲りて膾を吹く	… 61
あとあしすな 後足で砂をかける	… 32

い

いやすおこなかたし 言うは易く行は難し	… 88
いちなんさ 一難去ってまた一難	… 92
いっすんむしごぶたましい 一寸の虫にも五分の魂	… 99
いっばうごごぼんぼしたが 一波わずかに動いて万波随う	… 42
いのちなが 命長ければ蓬萊を見る	… 6
いのちな 命より名を惜しむ	… 38
いなかかわぐたいかいし 井の中の蛙大海を知らず	… 80

う

うしよくえら 飢えては食を択ばず	… 49
うしうまみそかかかほつか 牛馬三十日嘔二十日	… 34
うつりやすきは 移りやすきは人心	… 48
うわさかげ 噂をすれば影がさす	… 54
うんへいほう 運に兵法	… 4

え

えいこせいすい 栄枯盛衰	… 74
-----------------	------

お

おにこも 鬼に衣	… 79
おぶえはだかりよう 負ぶえば抱かりよう	… 17
おやいけんすびはな 親の意見と茄子の花は	
せんひとあだ 千に一つも仇はない	… 1
おやななひかり 親の七光	… 56
おやひかりななひかり 親の光は七光	… 56

おん あだ かえ
恩を仇で返す … 32

おん し ちくしょう おと
恩を知らぬは畜生にも劣る … 33

か

がい だま な
咳唾珠を成す … 91

が ま おがら
餓鬼に芋殻 … 35

か ない わ ぼく ふくの かみ まつり
家内和睦は福神のお祭 … 52

か すね やすり
蚊の臍に鑢をかける … 37

か げん ぼら いっとき
粥腹も一時 … 94

が り よう てん せい か
画竜点睛を欠く … 5

か と き じ ぞう が お か え と き えん ま が お
借りる時の地藏顔、返す時の閻魔顔 … 2

が ん ち ちやう しやう れい つ
雁に長少の列あり … 7

き

き り ちやう じ
器量によりて荷をば持て … 84

き り ん お お いて は ど ば お と
麒麟も老いては駑馬に劣る … 82

け

けい こう ぎやう ごと なか
鶏口となるも牛後となる勿れ … 8

こ

こ こう の が り ちやう けつ い
虎口を逃れて竜穴に入る … 92

こ う ころ ても た だ (で) は お 起きぬ … 60

さ

さん ちやう きた ほつ かぜ ちやう み
山雨来らんと欲して風楼に満つ … 11

し

し あん な く び
思案投げ首 … 10

し ごと ひ と き た
仕事が人を鍛える … 3

した き なか かき
親しき仲に垣をせよ … 67

した つる ぎ いのち た
舌の剣は命を断つ … 78

じゆう よ く ごう せい
柔能く剛を制す … 93

しゆう り き こう
衆力功あり … 90

主しゅが主しゅなら家来けらいも家来けらい … 71

知しらぬはとけ仏ぶつよりな馴染なじみのおに鬼 … 62

客しやくん坊ぼうの柿かきの種たね … 9

針しん小しょう棒ぼう大だい … 64

す

寸鉄すんてつ人ひとを殺ころす … 39

せ

赤貧せきひん洗あらうが如ごとし … 47

雪山せっせんの鳥とり今きょう日にちよ明あ日にちよと鳴なく … 73

そ

蕎麦そばの豊作ほうさくは大おお雪ゆき … 89

た

多勢たぜいに無勢ぶぜい … 85

譬たとえと豆腐汁とうふじゆは捨すてるところがない … 26

譬たとえに嘘うそなし坊主ぼつずに毛けなし … 81

譬たとえに漏もれたる事ことはなし … 26

頼たのむと頼たのまれてはいぬ犬いぬも木きへ登のぼる … 16

黙だまり虫壁むしかべを通とおす … 19

ち

茶腹ちやばらも一時いっとき … 94

忠言ちゅうげん耳みみに逆さからう … 57

長者ちやうじやの万灯まんとうより貧者ひんじやの一灯いっとう … 66

と

堂どうが歪かがんで経きやうが読よめぬ … 27

同姓どうせい娶めとらず … 70

毒どくを食くらわば皿さらまで … 31

所ところの法ほうに矢やは立たたぬ … 22

年寄としよればいぬ犬いぬも侮あなごる … 82

な

長い物には巻かれる	… 40
泣き面に蜂	… 36
鳴く猫は鼠を捕らぬ	… 72
情けは人の為ならず	… 86
為せば成る	… 46
夏歌う者は冬泣く	… 23
七転び八起き	… 98
怠け者の食い急ぎ	… 29
名よき島に木寄る	… 55

ね

猫に小判	… 95
熱し易く冷め易い	… 59
年劫の兎	… 12

の

能なしの口叩き	… 72
---------	------

は

馬耳東風	… 43
恥の上塗り	… 36
始めが大事	… 15, 69
始めよければ終わりよし	… 15, 69
腹も身の内	… 24
針ほどのことを棒ほどに言う	… 64
春寒いと秋ひだるいはこらえられぬ	… 14
万策尽きる	… 10

ひ

東雷雨降らず	… 20
一つ鍋の物を食う	… 63

ひとつ屋根の下に住む … 63

人の七難より我が十難 … 87

人の頼まぬ経を読む … 53

人の振り見て我が振り直せ … 41

人を呪わば穴二つ … 28

人を見たら泥棒と思え … 75

百聞は一見に如かず … 25

ふ

武士の頼みは一度に限る … 16

へ

下手の長談義 … 45

ほ

頬が落ちる … 21

ほっぺたが落ちる … 21

ま

学びて厭わざるは智なり、

教えて倦まざるは仁なり … 18

み

右の耳から左の耳 … 43

三たび吾が身を省みる … 44

源清ければ流れ清し … 69

む

昔から言う事に嘘はない … 81

め

目糞鼻糞を笑う … 51, 76

目は口ほどに物を言う … 75

も

持ち物は主に似る … 96

物の必 ^{ひつし} 至 ^{あり} あり、事に固 ^こ 然 ^{ぜん} あり	… 100
貰 ^{もら} い物 ^{もの} に苦 ^く 情 ^{じょう}	… 13
や	
病 ^{やまい} は治 ^{なお} るが癖 ^{くせ} は治 ^{なお} らぬ	… 65
よ	
世 ^よ は相 ^{あい} 持 ^{もち} ち	… 83
弱 ^{よわ} い者 ^{もの} を夫 ^と に取 ^と る	… 37
弱 ^{よわ} り目 ^め に祟 ^{たた} り目 ^め	… 36
り	
良 ^{りょう} 薬 ^{やく} は口 ^{くち} に苦 ^{にが} し	… 57
わ	
我 ^わ が家 ^{いえ} 楽 ^{らく} の釜 ^{かま} 盥 ^{だら} い	… 58
我 ^わ が好 ^す きを人 ^{ひと} に振 ^ふ る舞 ^ま う	… 77
我 ^わ が寺 ^{てら} の仏 ^{ほとけ} 尊 ^{とうと} し	… 50
沸 ^わ きが早 ^{はや} いは冷 ^さ め易 ^{やす} い	… 59
若 ^{わか} 氣 ^げ の至 ^{いた} り	… 97



参考文献

1. Монгол語のことわざ

<モンゴル語文献>

1. Г.Аким. Цэцэн билгийн сувд эрих. Улаанбаатар., 1995.
2. Г.Аким. Монгол зүйр цэцэн үгийн товч тайлбар толь. Улаанбаатар., 2001.
3. М.Гаадамба, Д.Цэрэнсодном. Монгол ардын аман зохиолын дээж бичиг. Улаанбаатар., 1967.
4. М.Гаадамба, Д.Цэрэнсодном. Монгол ардын аман зохиолын дээж бичиг. Улаанбаатар., 1978.
5. М.Гаадамба, Х.Сампилдэндэв. Монгол ардын аман зохиол. Улаанбаатар., 1988.
6. Ц.Дамдинсүрэн, Ж.Дүгэржав. Эрдэнийн сан Субашид. Улаанбаатар., 1958, 1990.
7. Ц.Дашдондов. Монгол-Англи өвөрмөц хэлц, хэллэгийн толь. Улаанбаатар., 2001.
8. Ж.Дашдорж, Г.Ринченсамбуу. Монгол цэцэн үгийн далай I. Улаанбаатар., 1964.
9. Ж.Дашдорж. Монгол цэцэн үгийн далай II. Улаанбаатар., 1966.
10. Д.Заяабаатар. Монгол зүйр цэцэн үгийн гурван мянган дээж. Улаанбаатар., 1999.
11. Б.Идэрбаяр. Мянган зүйр цэцэн үгийн англи орос монгол толь. Улаанбаатар., 2000.
12. L.Ligeti. Trésor des sentences. Subhāsitaratnanidhi de

Sa-skya pandita. Traduction de Sonom gara.
Budapest., 1973.

13. Ц.Өлзийхутаг. Монгол ардын оньсого,цэцэн үг.
Улаанбаатар., 1982.
14. Г.Ринченсамбуу. Монгол зүйр цэцэн үг. Тэргүүн
дэвтэр, Дэд дэвтэр. Улаанбаатар., 2002.
15. П.Хорлоо. Монгол ардын цэцэн зүйр үгүүд ба
оньсогууд. Улаанбаатар., 1966.
16. Д.Цэрэнсодном, О.Алимаа. Ажил хөдөлмөрийн
тухай ардын цэцэн үгс. Улаанбаатар., 1982.
17. Д.Цэрэнсодном. Монгол уран зохиол (XIII – XX
зууны эхэн). Улаанбаатар., 1987.
18. Г.Эрдэнэ-очир. Зарим зүйр цэцэн үгийн товч
тайлбар. Улаанбаатар., 1983.

<日本語文献>

1. 小沢重男 著、『元朝秘史全釈(上・中・下)』、『元朝秘史
全釈続攷(上・中・下)』、風間書房、1984-1989.
2. 小沢重男 著、『元朝秘史』、岩波新書、1994.
3. 神沢有三 編、『蒙古・ロシア・カザクスタンの諺－日蒙
露対訳－』、南窓社、1970.
4. 小長谷有紀 著、『モンゴル風物誌－ことわざに文化を讀
む』、東京書籍、1992.
5. 塩谷茂樹、E. プレブジャブ 著、『初級モンゴル語』、大学
書林、2001.
6. ドウンゲルヤイチル 著、小沢重男 編、『現代モンゴル語
金言集』、東京外国語大学、1986.
7. 橋本勝、「モンゴルのことわざ」、『世界のことわざ・1000

- 句集』、pp. 47-58、自由国民社、1980.
8. 橋本勝、「モンゴルのことわざ」、『世界ことわざ大事典』(柴田武 他編)、pp. 261-270、大修館書店、1995.
 9. 藤公之介 編著、『モンゴル大草原 101 の教え』、一満舎、1998.
 10. A. モスタールト 著、磯野富士子 訳、『オールドス口碑集—モンゴルの民間伝承』、平凡社、1966.

2. 日本語のことわざ

1. 井上宗雄 監修、『例解慣用句辞典』、創拓社、1992.
2. 尾上兼英 監修、『成語林 故事ことわざ慣用句』、旺文社、1992.
3. 荻久保泰幸 著、『実用新ことわざ辞典』、ナツメ社、1999.
4. 勝崎裕彦 著、『仏教ことわざ辞典』、溪水社、1992.
5. 金田一春彦 監修、『早引き現代ことわざ辞典』、学習研究社、2002.
6. 国広功 監修、『意味から引くことわざハンドブック』、池田書店、1996.
7. 国広功 監修、『意味から引く四字熟語ハンドブック』、池田書店、1998.
8. 三省堂編修所 編、『新明解 故事ことわざ辞典』、三省堂、2001.
9. 尚学図書 編、『故事ことわざの辞典』、小学館、1986.
10. 尚学図書・言語研究所 編、『慣用ことわざ辞典』、小学館、1988.
11. 鈴木棠三、広田栄太郎 編、『故事ことわざ辞典』、東京堂出版、1956.
12. 鈴木棠三 編、『続故事ことわざ辞典』、東京堂出版、1958.

13. 大後美保 編、『災害予知ことわざ辞典』、東京堂出版、1985.
14. 高橋秀治 著、『動植物ことわざ辞典』、東京堂出版、1997.
15. 時田昌瑞 著、『岩波ことわざ辞典』、岩波書店、2000.
16. 戸谷高明 監修、『故事ことわざ活用辞典』、創拓社、1993.
17. 延原政行 編著、『ことわざ事典 7000 語』、金園社、2002.
18. 野本米吉 著、『ことわざと故事・名言辞典』、法学書院、1994.
19. 三谷邦明 監修、『これで充分ことわざ事典』、日本文芸社、2000.

3. 英語のことわざ

1. 大塚高信、高瀬省三 共編、『英語ことわざ辞典』(新装版)、三省堂、1995.
2. 奥津文夫 著、『日英ことわざの比較文化』、大修館書店、2000.
3. 講談社辞典局 編、『日英対照実用ことわざ辞典』、講談社、1999.
4. 山口百々男 編、『和英・日本ことわざ成語辞典』、研究社出版、1999.
5. 山本忠尚 監修、『日英比較ことわざ事典』、創元社、1981.

4. 中国語のことわざ

1. 金岡照光 編、『中国故事成語辞典』、三省堂、1991.
2. 金丸邦三 編著、『日中ことわざ辞典』、同学社、2000.

5. 世界のことわざ

1. 梶山健 編、『世界ことわざ辞典－和漢洋対照－』、明治書

院、1992.

2. 北村孝一 編、『世界ことわざ辞典』、東京堂出版、1987.
3. 柴田武、谷川俊太郎、矢川澄子 編、『世界ことわざ大事典』、大修館書店、1995.

著者紹介

塩谷茂樹（しおたに しげき）

1960年 石川県生まれ。

専門：モンゴル語学、モンゴル口承文芸。

現職：大阪外国語大学地域文化学科、アジアⅠ講座モンゴル語、助教授。

略歴：1991年、京都大学大学院文学研究科言語学専攻、博士後期課程単位取得退学。
1980-82年、モンゴル国立大学留学。

著書：『モンゴル語会話・読解』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
1993

『草原の国のむかし話ーモンゴルー』能登印刷出版部 1995

『初級モンゴル語』（共著）大学書林 2001

論文：「蒙古語における deverbial verbal suffix -s- について」

『言語学研究』 1989

「ダゲール語ハイラル方言の口語資料ーテキストと註釈ー」

『日本モンゴル学会紀要』 1990

「『蒙古秘史』の動詞対 üderi- / uderid- に見える末尾 -d- の解釈をめぐって」

『言語学研究』 1991

「蒙古語における《險》と《眉》を表す語の意味変化についてー特にその語構造に言及して」

『アルタイ学報（韓国アルタイ学会）』ソウル 1994

「蒙古語における《ふいご》、《橋》、《馬乳酒の皮袋》及び《かぎタバコ入れ》を表す語の起源について」

『モンゴル言語学（モンゴル国立師範大学）』オランバートル 1998

「蒙古語族における《明日》を表す語の形態及び意味変化について」

『蒙古語文』呼和浩特 2001 その他。

大阪外国語大学学術研究双書33
モンゴル語日本語ことわざ比較研究

2004年2月27日発行

著 者 塩谷茂樹

発 行 所 〒562-8558 箕面市粟生間谷東8丁目1番1号
大阪外国語大学学術出版専門部会

印 刷 所 〒531-0072 大阪市北区豊崎7丁目7番7号
株ア イ ジ イ

ISBN4-900588-33-4

無断転載を禁ずる。

- | | |
|--|----------------------------------|
| 1. レフ・トルストイと革命運動 | エルヴィン・オーバーレンダー著
法 橋 和 彦 監訳・解説 |
| 2. ロシア語アクセント研究 | 神 山 孝 夫 著 |
| 3. 社会言語学
— 言語は社会の不平等を克服するか — | ハーガー/ハーバーラント/パリス 著
乙 政 潤 訳 |
| 4. DWELLING SPACE IN EASTERN ASIA | Richard ZGUSTA 著 |
| 5. ラ・アラウカーナ (第一部) | 吉 田 秀太郎 訳 |
| 6. 私の精神鑑定集 | 志 水 彰 著 |
| 7. モンタベルティ・ベネヴェント仮説
— 中世フィレンツェの驚異的發展の謎に挑む — | 米 山 喜 晟 著 |
| 8. 古代ブルガリア語文法 (語幹論) | イヴァン・ドブレフ 著
石 田 修 一 訳 |
| 9. 世界の中のポルトガル語 | 河 野 彰 監訳 |
| 10. ルーマニア語史概説 | アレクサンドゥル・ニクレスク 著
伊 藤 太 吾 訳 |
| 11. ロマンズ言語学入門 | 伊 藤 太 吾 著 |
| 12. ラ・アラウカーナ (第二・三部) | 吉 田 秀太郎 訳 |
| 13. Eine kontrastive Betrachtung
der japanischen und deutschen Sprache | Jun OTOMASA 著 |
| 14. カスティリャ語文法 | エリオ・アントニオ・デ・ネプリハ 著
中 岡 省 治 訳 |
| 15. バタビアの都市空間と文学
— 近代インドネシア文学の起源 — | 松 尾 大 著 |
| 16. ポルトガルの歴史に残った女性像と
ブラジル文学に現れた女性像 | 有 水 博 著
平 田 恵津子 著 |
| 17. タイ語の言語表現 | 宮 本 マラシー 著 |
| 18. Learner Difference and Japanese
Language Education
— A Study of Field Dependence/
Independence Cognitive Styles
and Japanese Language Learning — | Junko MAJIMA 著 |
| 19. 馬に乗ったマプーチェの神々
— チリ先住民文化の変遷 — | 千 葉 泉 著 |

- | | | |
|--|----------------------|-----------|
| 20. 汉语与中国文化十讲 | 胡 士 雲 | 著 |
| 21. マラルメ作品における虚構の場
— 「書物」をめぐる — | 高 階 早 苗 | 著 |
| 22. 砂の上の足跡
— 或る中国モダニズム作家の回想 — | 施 鵬 存 治
青 野 繁 治 | 著
訳 |
| 23. ミシェル・レリス研究
— 自己中心主義から芸術創造によるコミュニケーションへ — | 夏 目 幸 子 | 著 |
| 24. A STUDY OF BURMESE RAMA STORY | Toru OHNO | 著 |
| 25. 日・タイ表現例文集 | 宮 本 マラシー
— 宮 孝 子 | 共著 |
| 26. ラテン語からルーマニア語へ
— ルーマニア語史 — | マリウス・サラ
伊 藤 太 吾 | 著
訳 |
| 27. Passif, causatif et autres constructions
en français et en japonais
— Quelques Critiques sur la
Grammaire Relationnelle — | Yoshiyuki KINOUCHI | 著 |
| 28. UNE JUIVE NOMMEE EVA
— Etude portant sur <u>Le château de la juive</u>
de Guy des Cars — | Sylvie FUJIHIRA | 著 |
| 29. イスラームの商法と婚姻・離婚法
『諸問題の解説』翻訳と解説 Towzih al-Masā'el | ポルージェルディー
嶋 本 隆 光 | 著
訳、解説 |
| 30. インドネシアに見られる
外国語から借用された接辞の要素に関する研究 | 森 村 蕃 | 著 |
| 31. Perl プログラミング—テキストデータ処理の基礎— | 田野村 忠 温 | 著 |
| 32. 手紙とEメールにおけるタイ語表現法 | 宮 本 マラシー | 著 |

Publications of Osaka University
of Foreign Studies,
No.33 2004

ISBN4-900588-33-4

Shigeki Shiotani
A Comparative Study of
Mongolian and Japanese Proverbs

